

特記仕様書

I. 工事概要

1. 工事名

武岡住宅101号棟新築給排水衛生設備工事

2. 工事場所

鹿児島市武岡二丁目2番地1

3. 工期

本工事の工期は令和9年7月30日までとする。

4. 建物概要

| | | | | |
|-----------|-----------|-----|-------------|----------------|
| 建物名称 | 構 造 | 階 数 | 延べ面積 (㎡) | 消防法施行令 表第1ー |
| 武岡住宅101号棟 | 鉄筋コンクリート造 | 9階建 | 3,818.24 | (5) 項 口 |

※ ・ 建築基準法による表記 ・ 文部科学省算定床面積 ・ その他 ()

5. 棟別工事項目

棟別及び屋外
工事項目

武岡住宅101号棟

屋 外

・ 空調調和(冷暖房)設備

・ 一 式

・ 一 式

・ 一 式

・ 一 式

・ 換 気 設 備

・ 一 式

・ 一 式

・ 一 式

・ 一 式

・ 衛生器具設備

・ 一 式

・ 一 式

・ 一 式

・ 一 式

・ 給 水 設 備

・ 一 式

・ 一 式

・ 一 式

・ 一 式

・ 排 水 設 備

・ 一 式

・ 一 式

・ 一 式

・ 一 式

・ 自動制御設備

・ 一 式

・ 一 式

・ 一 式

・ 一 式

・ 消 火 設 備

・ 一 式

・ 一 式

・ 一 式

・ 一 式

・ ガ ス 設 備

・ 一 式

・ 一 式

・ 一 式

・ 一 式

・ 給 湯 設 備

・ 一 式

・ 一 式

・ 一 式

・ 一 式

・ 浄 化 槽 設 備

・ 一 式

・ 一 式

・ 一 式

・ 一 式

・ ろ 過 設 備

・ 一 式

・ 一 式

・ 一 式

・ 一 式

・ 電 気 設 備

・ 一 式

・ 一 式

・ 一 式

・ 一 式

6. 鹿児島市建設工事請負契約書第33条に基づく部分使用

● 無

・ 有

(範囲、時期については監督員の指示による)

7. 鹿児島市建設工事請負契約書第38条に基づく指定部分

● 無

・ 有

(範囲、時期については監督員の指示による)

II. 一般事項

(番号に○印の付いたものを適用し、●印の付いたものを適用する)

1 本工事は、公共工事であることを十分に認識し、工事の施工に当たって必要な官公署その他への手続きは速やかに行い、建築基準法、労働安全衛生法、建設工事公衆災害防止対策要綱及びその他関係法令を遵守し、災害及び事故の防止並びに環境の保全に努めること。

2 本工事の施工において、関係法令により資格が必要な作業については有資格者が行うこと。

3 本工事の関連工事に従事する別契約の受注者とは、関連の工程・段取り等を事前に十分協議し、相互理解の上で施工すること。

4 安全管理をはじめとする、その他の諸管理に十分留意して作業を行うこと。

5 本工事の施工に当たっては、地場産業育成の見地によってできる限り、市内の専門業者や労働者の活用を図ること。また、資材についても同じように市内業者からの購入に努めること。

6 元請業者は、下請業者の施工能力の向上・雇用手管理・労働安全管理等の措置に関し、必要な指導、助言その他の援助を行い、両者の合理的な関係の確立に努めること。

7 本工事の一部を下請けに付する場合は、施工体制表及び添付書類を作成し、工事現場に備え置くとともに、その写しを監督員に送達なく(遅くとも下請工事の着手前までに)提出すること。また、施工体制表の記載事項又は添付書類に変更があったときは、その都度、当該変更があった年月日を付記して、変更に関する事項について、作成し提出すること。

8 工事を施工するために、建設工事の一部又は以下の各号の業務を下請けにする場合は、施工体系図を作成し、工事期間中、工事現場の工事関係者が見やすい場所及び公衆の見やすい場所に提示するとともに、その写しを監督員に送達なく(遅くとも下請工事の着手前までに)提出すること。また、施工体系図の記載事項に変更があったときは、その都度、変更に関する事項について、作成し提出すること。

(1) 伐採及び測量・調査等の工事現場で作業を行う業務

(2) 土砂やコンクリート等の運搬のみを行う業務

(3) 工事現場の警備(交通誘導を含む)を行う業務

(4) その他監督員が記載を指示した業務等

9 本工事の施工業者は、建設業退職金共済制度の趣旨をふまえ、この制度の活用に努めること。

10 建設業法第26条及び同施行令第27条に規定する監理技術者については、指定建設業監理技術者資格証の交付を受けたものを選任し、その工事現場の専任とするものとする。

11 職業能力開発促進法の趣旨をふまえ、延べ面積3,000㎡を超える工事には、技能士を常駐させるものとする。

● 配管施工(配管工事)

・ 建築給水施工(ダクト製作及び取付け)

● 熱絶縁施工(保温工事)

・ 冷凍空調調和機器施工(冷凍空調調和器の据付)

12 設計図書に明記なき事項といえども、機能上、技術上必要と認められるものは監督員と協議のうえ、施工すること。

13 受注者は、工事請負代金額が500万円以上の工事については、工事実績情報システム(GORINS)に基づき、受注・変更完成・訂正時2工事実績情報として「登録のための確認のお願い」を作成し監督員の確認を受けたうえ、受注時は契約後10日以内(土、日祝日等を除く)に「登録内容の変更時があった日から10日以内(土、日、祝日等を除く)に、受注時は契約後10日以内(土、日、祝日等を除く)に(一財)日本建設情報総合センターに「登録内容確認書」を、直ちに監督員に提出しなればならない。また、登録完成後(一、財)日本建設情報総合センター発行の「登録内容確認書」を、直ちに監督員に提出しなればならない。なお、変更時と完成時の間が10日間に満たない場合は、変更時の登録申請を省略すること。

14 気象予報又は警報等について、常に注意を払い、災害の予防に努める。なお、地震、大雪及び台風等が発生した場合は、直ちに工事現場の被災状況を調査し、被災の有無にかかわらずその状況を監督員に報告すること。

15 災害及び事故が発生した場合は、人命の安全確保を優先するとともに二次災害の防止に努め、その経緯を監督員に報告し、適切に対応すること。

【低入札価格調査に基づく措置】

低入札価格調査基準価格未満の価格での受注者に対しては、次に掲げる措置を講じるものとする。

16 施工体制の強化

(1) 低入札価格調査の対象となった工事(以下「調査対象工事」という。))には、専任の主任技術者等を配置すること。

(2) 調査対象工事を施工する場合において、契約日の属する年度及びその前年度に完成した工事に関し、次のいずれかに該当する場合は、配置すべき主任技術者又は監理技術者とは別に、同等の要件を満たす技術者を専任で1人配置すること。

ア 65点未満の工事成績評定を通知された場合

イ 工事請負契約書に基づき修補又は損害賠償を請求された場合

ウ 品質管理・安全管理に関し、指名停止又は書面による警告・注意の喚起を受けた場合

エ 自ら起因して工期を大幅に遅らせた場合

17 監督体制の強化

(1) 受注者は、施工体制表を提出しその内容についてのヒアリングを求められた時は、これに応じなければならない。

(2) 受注者は、特記仕様書に基づく施工計画書を提出し、その内容についてのヒアリングを求められた時はこれに応じなければならない。

【工事施工】

18 工事現場での通行、運搬、掘削、舗装等の作業に当たっては、特に現場周辺の住民及び通行人への危険防止に万全の注意を払うとともに、昼夜間を問わず、十分な安全対策を行い、事故の警備を期すること。また、工事現場周辺の側溝、その他の公造物を土砂やモルタル等の残材等で埋没させないよう特に注意すること。なお、埋没させた場合は、速やかに受注者の負担で復旧すること。

19 本工事の施工現場の詰め所等においては、火気責任者を定め、火気の取り扱いには十分注意すること。

(下請業者への指導を含む)

20 本工事の施工に当たって、支障物件を発見し、工事の進捗に影響があると思われる場合には、速やかに監督員に連絡し、互いに協議の後、監督員の指示により処理すること。なお、軽微なものについて、これに要する費用は受注者の負担とする。

【屋内に使用する材料等】

21 ホルムアルデヒドを発生する資材を使用する場合、屋内内はF☆☆☆☆規格、居室へホルムアルデヒドが流入する恐れのある床下及び天井等は、F☆☆☆☆規格以上にそれぞれ適合すること。ただし、これによりがたい場合は、監督員と協議し、承諾を得ること。

※ 対象となる材料 木質建材(合板、木質フローリング、パーティクルボード、MDF等)、壁紙、ホルムアルデヒドを含む断熱材、保温材、接着剤、仕上け塗料等

注. ドアガラス等により通達され、居室への流入が見込まれるトイレ等は、居室と一体化とみなす。

22. クロロピリホスを添加しないこと。クロロピリホスを添加した材料でよいこと。

23. 塗料は、ホルマリン不検出のもので、水性系のものとする。(水廻り及び湿度の高い箇所を除く)ただし、有機溶剤系

塗料を使用する場合は、トルエンやキシレンの放散が極力小さいものとする。

【契約不適合担保責任】

24 契約不適合担保責任(鹿児島市建設工事請負契約書第41条)の確実な履行を図るため、受注者は、契約不適合担保責任期間の満了前に、受注者の負担で、契約不適合担保責任検査を実施すること。受注者は、発注者から契約不適合担保責任検査実施の通知を受けた場合は、発注者の指定する方法により速やかに契約不適合担保責任検査の実施日及び報告書提出日を回答したうえで、契約不適合担保責任検査を実施し、その結果を報告すること。なお、履行の追完方法は発注者と協議のうえ、実施すること。

【火災保険等】

25 請負契約締結後速やかに、次の工事保険に加入し、証券またはこれに代わるもの(保険証券等)の写しを直ちに監督員に提出すること。保証期間は工期後満21日間(24時まで)とする。

● 火災保険等(工事目的物及び工事材料(支給材料を含む)等)等)に生じる損害を填補)

● 請負業者賠償責任保険(工事の施工に伴い第三者に与えた損害を填補)

保険内容が含まれる火災保険、建設工事保険、組立保険等でも可とする。その場合、保険証券等により保険内容が確認できるものであること。

【法定外労災保険の付保等について】

26 法定外労災保険の付保

本工事において、受注者は法定外労災の労災保険に付さなければならない。

なお、当該保険契約を締結したときは、その証券またはこれに代わるもの(保険証券等)の写しを直ちに監督員に提出すること。保険期間は工期後満21日間(24時まで)とする。

27 墜落制止用器具の使用について

高さか2m以上の作業または箇所、または作業床の端・開口部等で囲い・手すり等の設置が困難な箇所における作業については、労働者の危険を防止する手段として、墜落制止用器具の使用を講じること。

【前払金・中間前払金】

28 前払金 ※請求することができる ●令和7年度中に請求すること

29 中間前払金

(1) 請負金額が100万円以上で年度内に完成する工事は、契約時において中間前払金か部分払かのいずれかを選択すること。なお、契約に当たり部分払することを選択した場合には、中間前払金は行わない。

(2) 中間前払金を受けるための要件(全て満たすこと。)

(7) 請負金額の10分の4の前払金がなされていること。

(4) 工期の2分の1を経過していること。

(9) 工程表により工期の2分の1を経過するまでに実施するべき当該工事に係る作業が行われていること。

(4) 既に行われた当該工事に係る作業に要する経費が請負金額の2分の1以上の額に相当するものであること。

(3) 中間前払金の割合について

請負代金の10分の2以内とする。ただし、中間前払金を支出した後の前払金の合計額が請負代金の額の10分の6を超えてはならないものとする。

【警備工事における週休2日試行工事について】

29 警備工事における週休2日工事について

(1) 本工事は、警備工事における週休2日試行工事の対象である。

(2) 試行に当たっては、「警備工事における週休2日試行工事実施要領(令和6年5月7日施行)(以下、「実施要領」という。))」に基づき行うものとする。

(3) 実施要領は、鹿児島市ホームページから入手できる。

【桜島地区の工事について】

31. 本工事は、「桜島地域警備工事における遊船料算出等取扱要領」に基づき対応を行う。

「桜島地域警備工事における遊船料算出等取扱要領」は鹿児島市ホームページから入手できる。

【路上工事の一時中止について】

29 「鹿児島県域の路上工事削減に関する行動計画」に基づき、下記の期間は路上の工事を原則一時中止するものとする。

●令和7年4月25日(金)22時から令和7年5月7日(水)0時 事由：ゴールデンウィーク

●令和7年8月8日(金)22時から令和7年8月18日(月)0時 事由：お盆

●令和7年12月26日(金)22時から令和8年1月5日(月)0時 事由：年末年始

なお、日時を変更することもあるため、詳細については監督員と協議し、かつその指示に従うものとする。

【桜島基準等について】

29 街区基準点等付近での工事等については、街区基準点等の亡失、き損の防止を念頭に、「鹿児島市国土調査協議会等管理保全要綱」に従い、所定の様式を監督員に提出し、監督員の指示に従わなければならない。

31 工事の施工においては、施工範囲に境界点、公共基準点等の標識が設置されている場合においても亡失、き損してはならない。工事の支障となる場合は、監督員へ報告の上、保護・復旧措置等について協議するものとする。

【暴力団関係者等による不当介入を受けた場合の措置】

29 暴力団関係者等による不当要求又は工事妨害(以下「不当介入」という。)を受けた場合は、断固としてこれを拒否するとともに、その旨を速達なく発注者及び警察に通報すること。また、暴力団関係者等による不当介入を受けたことにより工程に遅れが生じた場合は、発注者と協議を行うこと。

【環境基準等について】

29 本工事に伴う環境への影響を抑制するため、工事車両通行往復ルートの分別、交通整理員の配置、走行速度の制限、ルートの設定等の対策を講じること。

31 本工事に使用する建設機械については、原則として、国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律第10条第1項に基づき作成された「鹿児島県環境物品等調達方針」に適合するものを使用すること。

31 工事の施工に伴い提出する関係書類については、可能な限り、国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律第10条第1項に基づき作成された「鹿児島県環境物品等調達方針」に適合する製品又はエコマーク製品、グリーンマーク製品などの環境ラベリング製品を使用すること。

29 本工事に伴い提出する関係書類については、写真やメーカー提供の資料等、両面印刷では支障を生ずるものは除き、可能な限り、両面印刷すること。

29 工事に伴い発生する廃棄物については、缶・ビン、ペットボトル、プラスチック容器類を撤出しやすいよう分別ボックスの設置スペース又は分別ヤードを設置するなどして、分別の徹底及びリサイクルに努めること。

【低騒音型建設機械の使用の原則化】

29 本工事は「建設工事に伴う騒音振動対策技術指針」(昭和62年3月30日建設省経機発第58号)に基づき「低騒音型低振動型建設機械の指定に関する規程」(平成9年建設省令第1536号)により指定された低騒音型建設機械の使用を原則とする。なお、低騒音型建設機械の使用の有無を施工計画書に明示し、工事完成図書に写真を添付すること。

【現場代理人の工事現場への常駐を要しない場合】

29 現場代理人は現場に常駐し、その運営、取締りを行うこととされているが以下のいずれかの要件を満たす場合には、工事請負契約書第10条第3項の「工事現場における運営、取締り及び権限の行使に支障がない」として取り扱うこととする。ただし、いずれの場合にも連絡が常にとれる体制を確保する必要や、現場保全の義務(現場の巡回等)があるため、現場代理人を設置しておくことは必要である。

(1) 契約締結後、現場事務所を設置、資機材の搬入又は仮設工事等が開始されるまでの期間

(2) 工事請負契約書第20条により工事が一時中止されている期間

(3) 橋梁、ポンプ、ゲート、エレベーター等の工場製作を含む工事であって、工場製作のみが行われている期間

また、同一工場内で他の同種工事に係る製作と一元的な管理体制のもとで製作を行うことが可能である場合には、同一の現場代理人が、これらの製作を一括して運営、取締りを行うことができるものとする。

(4) 前3号に掲げる期間のほか、受注者から工事完成の通知があり、完成検査、事務手続、後片付け等のみが残っているなど、工事現場において作業等が行われない期間

29 発注者への報告

前項の要件を満たす場合は、現場代理人の工事現場における常駐は不要とし、他の工事と業務することを可能とするが、「工事打合せ」等により、工事現場において作業等が行われていない期間を明確にしておくこと。

【現場代理人の兼任】

44. 現場代理人の兼任を認める工事

現場代理人は、請負契約の的確な履行を確保するため、工事現場の運営、取締りのほか、工事の施工及び契約関係事務に関する一切の事務(請負代金の変更、契約の解除等を除く。)を処理する受注者の代理であるが、次の(1)から(5)の全てを満たし、工事現場における運営、取締り及び権限の行使に支障がないと発注者が認めた場合、工事現場の兼任を認めるものとする。

なお、専任の主任(監理)技術者と現場代理人を兼務する場合において、専任の技術者配置の特例により他の現場と兼任が認められた工事については、(2)、(4)、(5)の要件を満たすものとし、兼任できる工事は2件までとする。

(1) 兼任できる工事は2件までとし、それぞれの工事の請負金額が4,500万円未満であること。ただし、設計変更により、工事の請負金額が4,500万円以上となり、各々の工事における主任(監理)技術者と現場代理人が異なる場合においては、受発注者協議の上、兼任することが出来る。

(2) 発注者又は監督員と常に携帯電話等で連絡が取れること。

(3) 兼任する工事の相互の移動は、概ね1時間以内であること。

(4) 発注者又は監督員が求めた場合には、工事現場に速やかに向かう等の対応を行うこと。

(5) 兼任する現場代理人は、必ず担当工事現場のいずれかに常駐するとともに、1日1回以上、担当工事現場を巡回し、現場管理等に当たること。

45. 手続き

現場代理人の兼任を行う場合には、兼任(変更)申請書(別紙1)を提出し、発注者の承認を得たのち、必要に応じ、現場代理人等変更通知書により、発注者に通知すること。

なお、各々の工事において、発注者に現場代理人の兼任の承認を得ること。

46. 受注者に対する措置請求

安全管理の不徹底や現場体制の不備に起因する事故等が発生した場合、建設工事請負契約書第12条に基づき、受注者に対して、必要な措置を取るべきことを請求するものとする。

【監理技術者等の途中交代】

44 「監理技術者制度運用マニュアル」に明記された監理技術者等の途中交代に関する条件に該当し、受注者と発注者が協議し、工事の継続性、品質確保等に支障がないと認められる場合は途中交代が可能となる。

【監理技術者等の途中交代の試行について】

(1) 本工事は、工程上一定の区切りと認められる時点で監理技術者又は主任技術者の途中交代を認める試行工事である。

(4) 工程上一定の区切りと認められる時点とは品質管理・出来形管理に必要な工事的目的物の施工が完了した時点とし、仮設設備の撤去、後片付け及び検査等を行う期間は、監理技術者等の途中交代を認めることとする。

(2) 受注者と発注者が協議し、工事の継続性、安全管理、工程等に支障がないと認められる場合のみ途中交代が可能となる。なお、総合評価落札方式の場合は、当該工事の入札契約手続きにおける競争参加資格を満足する者とする。

【施工体制点検等への協力】

49 請負代金額が4,500万円(建築一式工事は9,000万円)以上の工事においては、「鹿児島市施工体制点検要領」に基づく点検を、また請負代金額が4,500万円(建築一式工事は9,000万円)未満の建設工事の下請け契約を締結した工事においては同要領の枠組外における「一括下請負に関する確認」を実施するので受注者はこれに協力すること。

【ダンプトラック等による過積載等の防止について】

60 工事用資機材等の積載超過のないようにすること。

61 過積載を行っている資材納入業者から、資材を購入しないこと。

62 資材等の過積載防止のため、資材の購入等に当たっては、資材納入業者等の利益を不当に害さないようにすること。

63 土・砂の装束又は物品積載装置の不正改造をしたダンプカーが、工事現場に出入りすることがないようにすること。

64 「土砂等を運搬する大型自動車による交通事故の防止等に関する特別措置法」(以下「法」という)の目的に鑑み、法第12条に規定する団体等への設立状況を踏まえ、同団体等への加入者の使用を促進すること。

65 下請契約の相手方又は資材納入業者を選定するにあたっては、交通安全に関する配慮に欠けるもの又は業務に関しダンプトラック等によって悪質かつ重大な事故を発生させたものを排除すること。

66 51項から56項のことににつき、下請契約における受注者を指導すること。

【電子納品について】

67 電子納品

(1) 本工事は電子納品試行対象工事とし、市HPに掲載する「鹿児島市電子納品運用ガイドライン(案)【建築・設備編】」に定める基準に基づいて作成した電子成果品を納品すること。

(2) 電子納品レベル及び成果品の電子化の範囲については、事前協議を行い決定するものとし、作成した電子成果品は電子媒体(CD-R又はDVD-R)で正本1部、副本1部の計2部提出すること。

ただし、事前協議により電子化しない成果品については従来どおりの取扱とする。

【架空線の防護措置について】

69 架空線の防護措置における防護管設置については、受注者が架空線管理業者と協議するものとし、防護管設置の必要とあるときは、監督員と協議により設計変更の対象とする。

【公共工事における現場一斉閉鎖の実施について】

69 公共工事、公共工事における現場一斉閉鎖の実施に協力するものとする。なお、現場閉鎖の実施への協力は、受注者の判断によるもの(任意)とし、実施の有無等について発注者への報告は必要ないものとする。なお、県ホームページに本取組目の内容を掲載しているので確認のこと。

【建設副産物・産業廃棄物等】

1 本工事より発生する建設副産物については、再生資源の活用を行うことを原則とし、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」、「再資源の利用の促進に関する法律」(リサイクル法)、「建設工事公衆災害防止対策要綱」及び「鹿児島市建設局における再生資源活用工事実施要領(鹿児島市)」を遵守するとともに、マニフェストシステムにより適正処理を行うこと。また、産業廃棄物の運搬又は処分を委託する場合には、契約書の写しを監督員に提出すること。

2 本工事の施工により産業廃棄物が発生する場合、産業廃棄物管理票(マニフェスト)はE票の写し及び総括表を工事完成図書に添付すること。なお、工事完了時点で、最終処分が完了せず、E票が処分業者より返送されていない場合は、A票、B2票及びD票のうち直近に返送されたものの写しを添付すること。

ただしこの場合においても最終処分が完了し、E票が処分業者より返送され次第直ちに同票の写しを提出すること。

電子マニフェストの場合は、受渡確認表の写しを添付すること。

3 建設副産物のうち、コンクリート屑及びアスファルト屑は再資源化するものとし、これ以外のものについての指定区分は投棄処分とする。

4 再資源化施設は、最寄りの許可を受けた施設とする。

5 再生資材として有効利用出来ない建設廃材は、最寄りの許可を受けた最終処分場へ搬出する。

6 1 本工事の施工により発生する建設発生土は、下記の場所に搬出すること。

ア 受入れ場所：鹿児島県開発局

イ 受入れ時間帯： 8：00 から 17：00

ウ 仮置き場：

(2) 再生資源利用促進計画書を提出すること。

(3) 処分状況の記録を完成書類に含めて提出すること。

(4) 工事発生後にもやむを得ない事情により上記の指定により難い場合は、監督員と協議の上、その指示によること。

7 建設副産物情報交換システム(コプリス・プラス)または国土交通省ホームページ掲載の様式により再生資源利用計画書及び再生資源利用促進計画書を作成し、施工計画書に含めて提出するとともに、工事現場の見やすいところに掲示(デジタルサイネージによる掲示も可)して公衆の閲覧に供することとし、あわせてインターネットに公表するよう努めるものとする。また、その実施状況を記録した実施書を完成書類に含めて提出するものとする。

8 建設廃棄物の処理に起因する災害及び苦情については、受注者の負担において処理すること。

9 本工事により発生する建設廃棄物のうち、焼却施設及び最終処分場に入搬する産業廃棄物には、産業廃棄物税が課税されるので適正に処理すること。

10 産業廃棄物の収集又は運搬する際、産業廃棄物収集運搬業者に委託せず自己運搬する場合、運搬車の車体の両側面に(1) 5cm以上の文字で「産業廃棄物の収集又は運搬に供する運搬車である旨」及び3cm以上の文字で「排出事業者名」を表示

(2) 「産業廃棄物の収集又は運搬の用に供する運搬車であることを証する書面」の備え付けを行うこと。なお、産業廃棄物収集運搬許可業者に委託して収集又は運搬させる場合には、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則」に基づく別途、表示規定によること。

処分場または再資源施設への搬入状況を撮影し、工事写真帳に入れること。

III. 工事仕様

1. 共通仕様

(1) 特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の公共建築工事標準仕様書(機械設備工事編)令和7年版、公共建築改修工事標準仕様書(機械設備工事編)令和7年版、及び公共建築設備工事標準図(機械設備工事編)令和7年版による。

(2) 電気設備及び建築工事を本工事に含む場合、電気設備及び建築工事は、それぞれの工事標準仕様書を適用する。

(3) 施工基準 鹿児島市給水・下水道条例及び施行規程、鹿児島市下水道局水装置・排水設備工事施行基準、市福祉環境整備指針、鹿児島市機械設備工事各種要領、その他、関連法規及びガス供給会社の供給規定に基づく施工する。

2. 特記仕様

(1) 章は●印の付いたもの、項目は番号に○印の付いたものを適用し、○印の付いたものは適用しない。

(2) 特記事項のうち選択する事項は、●印の付いたものを適用する、○印の付いたものは適用しない。

章 目 特 記 事 項

● 一般共通事項

① 一般共通事項

② 一般共通事項

③ 一般共通事項

④ 一般共通事項

⑤ 一般共通事項

⑥ 一般共通事項

⑦ 一般共通事項

⑧ 一般共通事項

⑨ 一般共通事項

⑩ 一般共通事項

⑪ 一般共通事項

⑫ 一般共通事項

⑬ 一般共通事項

⑭ 一般共通事項

⑮ 一般共通事項

⑯ 一般共通事項

⑰ 一般共通事項

⑱ 一般共通事項

⑲ 一般共通事項

⑳ 一般共通事項

㉑ 一般共通事項

㉒ 一般共通事項

㉓ 一般共通事項

㉔ 一般共通事項

㉕ 一般共通事項

㉖ 一般共通事項

㉗ 一般共通事項

㉘ 一般共通事項

㉙ 一般共通事項

㉚ 一般共通事項

㉛ 一般共通事項

㉜ 一般共通事項

㉝ 一般共通事項

㉞ 一般共通事項

㉟ 一般共通事項

㊱ 一般共通事項

㊲ 一般共通事項

㊳ 一般共通事項

㊴ 一般共通事項

㊵ 一般共通事項

㊶ 一般共通事項

㊷ 一般共通事項

㊸ 一般共通事項

㊹ 一般共通事項

㊺ 一般共通事項

㊻ 一般共通事項

㊼ 一般共通事項

㊽ 一般共通事項

㊾ 一般共通事項

㊿ 一般共通事項

Ⅰ 一般共通事項

Ⅱ 一般共通事項

Ⅲ 一般共通事項

Ⅳ 一般共通事項

Ⅴ 一般共通事項

Ⅵ 一般共通事項

Ⅶ 一般共通事項

Ⅷ 一般共通事項

Ⅸ 一般共通事項

Ⅹ 一般共通事項

Ⅺ 一般共通事項

Ⅻ 一般共通事項

Ⅼ 一般共通事項

Ⅽ 一般共通事項

Ⅾ 一般共通事項

Ⅿ 一般共通事項

ⅰ 一般共通事項

ⅱ 一般共通事項

ⅲ 一般共通事項

ⅳ 一般共通事項

ⅴ 一般共通事項

ⅵ 一般共通事項

ⅶ 一般共通事項

ⅷ 一般共通事項

ⅸ 一般共通事項

ⅹ 一般共通事項

ⅺ 一般共通事項

ⅻ 一般共通事項

ⅼ 一般共通事項

ⅽ 一般共通事項

ⅾ 一般共通事項

ⅿ 一般共通事項

ⅿ 一般共通事項

ⅿ 一般共通事項

ⅿ 一般共通事項

ⅿ 一般共通事項

ⅿ 一般共通事項

● 一般共通事項

| ⑮ 保温（続き） | 注1. 原則として、露出配管は保温化紐ケースに電線渡り配線及び操作線を収納し天井内、パイプシャフト内、床下及び暗渠内等は冷媒管保温上に共縛りとして固定する。 2. ポリスチレンフォーム保温筒は、ガス管20mm、液管10mm厚以上とする。 3. 保温化紐ケースは、耐候処置を施した塩化ビニル樹脂製で-20℃～60℃まで耐えるもの。 4. 保温化紐ケースに冷媒管を収めた場合、適当な余裕があればドレン管をケース内に収めても良い。 (3) 屋内露出配管の施工 屋内露出配管の保温見切り箇所には菊座を、また分岐曲がり部等にはバンドを付けるものとする。なお、材質は全て冷間圧延ステンレス製とし、バンド幅は保温外径150mm以下は20mm、150mm以上は25mm、菊座は全て50mmとする。 (4) 給水管・排水管保温仕様 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------|--|-----------------|---------------|--------------|---|-------------|------|------------------|----------|-------------|---------|------------------|----------|--------------|-----------|------------------|----------|--------------|-------------|------------|---------------------|-----------------|------|-----|------------------|----------|---------------|--------------|------------------|----------|---------------|---|------------------|----------|---------------|------|------------------|----------|---------------|------------|
| | <table><tr><th>施工箇所</th><th>材 料</th><th>及 び</th><th>施 工 順 序</th><th>参 考 施 工 箇 所</th></tr><tr><td rowspan="3">屋内露出</td><td>1. ポリスチレンフォーム保温筒</td><td>2. 粘着テープ</td><td>3. 合成樹脂製カバー</td><td rowspan="3">一般居室、廊下</td></tr><tr><td>1. ポリスチレンフォーム保温筒</td><td>2. 粘着テープ</td><td>3. アルミガラスクロス</td><td rowspan="3">機械室、書庫、倉庫</td></tr><tr><td>1. ポリスチレンフォーム保温筒</td><td>2. 粘着テープ</td><td>3. アルミガラスクロス</td><td rowspan="3">天井内、パイプシャフト</td></tr><tr><td>屋内隠蔽（ドレン管）</td><td>1. 保温チューブ巻き（ライトカバー）</td><td>2. 粘着テープ（11m間隔）</td><td>空腔壁内</td></tr><tr><td rowspan="3">床 下</td><td>1. ポリスチレンフォーム保温筒</td><td>2. 粘着テープ</td><td>3. ポリエチレンフィルム</td><td rowspan="3">床下、暗渠内、地下ピット</td></tr><tr><td>1. ポリスチレンフォーム保温筒</td><td>2. 粘着テープ</td><td>3. ポリエチレンフィルム</td><td rowspan="3">屋外露出（バルコニー、開放敷地を含む）及び浴室、厨房等の多湿箇所（厨房の天井内は含まない）</td></tr><tr><td>1. ポリスチレンフォーム保温筒</td><td>2. 粘着テープ</td><td>3. ポリエチレンフィルム</td></tr><tr><td>屋外露出</td><td>1. ポリスチレンフォーム保温筒</td><td>2. 粘着テープ</td><td>3. ポリエチレンフィルム</td><td>4. ステンレス鋼板</td></tr></table> | 施工箇所 | 材 料 | 及 び | 施 工 順 序 | 参 考 施 工 箇 所 | 屋内露出 | 1. ポリスチレンフォーム保温筒 | 2. 粘着テープ | 3. 合成樹脂製カバー | 一般居室、廊下 | 1. ポリスチレンフォーム保温筒 | 2. 粘着テープ | 3. アルミガラスクロス | 機械室、書庫、倉庫 | 1. ポリスチレンフォーム保温筒 | 2. 粘着テープ | 3. アルミガラスクロス | 天井内、パイプシャフト | 屋内隠蔽（ドレン管） | 1. 保温チューブ巻き（ライトカバー） | 2. 粘着テープ（11m間隔） | 空腔壁内 | 床 下 | 1. ポリスチレンフォーム保温筒 | 2. 粘着テープ | 3. ポリエチレンフィルム | 床下、暗渠内、地下ピット | 1. ポリスチレンフォーム保温筒 | 2. 粘着テープ | 3. ポリエチレンフィルム | 屋外露出（バルコニー、開放敷地を含む）及び浴室、厨房等の多湿箇所（厨房の天井内は含まない） | 1. ポリスチレンフォーム保温筒 | 2. 粘着テープ | 3. ポリエチレンフィルム | 屋外露出 | 1. ポリスチレンフォーム保温筒 | 2. 粘着テープ | 3. ポリエチレンフィルム | 4. ステンレス鋼板 |
| 施工箇所 | 材 料 | 及 び | 施 工 順 序 | 参 考 施 工 箇 所 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 屋内露出 | 1. ポリスチレンフォーム保温筒 | 2. 粘着テープ | 3. 合成樹脂製カバー | 一般居室、廊下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 1. ポリスチレンフォーム保温筒 | 2. 粘着テープ | 3. アルミガラスクロス | | 機械室、書庫、倉庫 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 1. ポリスチレンフォーム保温筒 | 2. 粘着テープ | 3. アルミガラスクロス | | | 天井内、パイプシャフト | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 屋内隠蔽（ドレン管） | 1. 保温チューブ巻き（ライトカバー） | 2. 粘着テープ（11m間隔） | 空腔壁内 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 床 下 | 1. ポリスチレンフォーム保温筒 | 2. 粘着テープ | 3. ポリエチレンフィルム | 床下、暗渠内、地下ピット | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 1. ポリスチレンフォーム保温筒 | 2. 粘着テープ | 3. ポリエチレンフィルム | | 屋外露出（バルコニー、開放敷地を含む）及び浴室、厨房等の多湿箇所（厨房の天井内は含まない） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 1. ポリスチレンフォーム保温筒 | 2. 粘着テープ | 3. ポリエチレンフィルム | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 屋外露出 | 1. ポリスチレンフォーム保温筒 | 2. 粘着テープ | 3. ポリエチレンフィルム | 4. ステンレス鋼板 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 注1. 給水管及び給湯用の配管で、保温を行う呼び径65以上の弁、ストレーナー等は、ビス等により容易に着脱できるステンレス鋼板による外装を施す。 2. ポリスチレン保温筒の使用困難な箇所は、ロックウールフェルト、グラスウール保温帯又は、波型保温板を使用してもよい。 3. 別途図示等の指示がある場合はそれにによる。 製造所名及び施工業者名を容易に消えない方法で記載した銘板を、扉付は扉裏面に、扉なしは全面板の見えるがかりのよい位置に取り付ける。 標準仕様書第2編によるほか下記による。 (1) 屋内及び屋外露出部で塩化ビニル管（カラーパイプを除く）使用時の排水管、通気管、排気管及びビニル製付属品等は、塩化ビニル系エナメル2回塗りとする。 (2) 鉄製マンホール蓋、各種ボックス用鉄製蓋蓋、その他の鉄製製品は、タールエポキシ塗りとする。 (3) 浄化槽、グリーストラップなどの鋼板製蓋は、溶融亜鉛めっきとする。 (4) 亜鉛めっき鋼管、ライニング鋼管などのネジ山部分、その他サビのでる恐れのある部分は、全て高強度亜鉛めっき（参考品名：ローパル）でサビの防止処置とする。 標準仕様書第2編によるほか下記による。 (1) 給水配管は、試験圧力1.0MPa(10kg/cm2)以上とし、保持時間は60分以上とする。但し、配水管本管から第1止水栓までは、鹿児島市水道局施工基準（試験圧力：サドル分水栓1.75MPa(17.5kg/cm2)、保持時間1分以上、不断水T字管1.0MPa(10.0kg/cm2)、保持時間1分以上）による。なお、上記にそぐわないと判断される場合は、監督員と協議することとする。 (2) 給湯配管は、試験圧力1.75MPa(17.5kg/cm2)以上とし、保持時間は60分以上とする。なお、上記にそぐわないと判断される場合は、監督員と協議することとする。 (3) 冷媒配管は、標準仕様書に基づく耐圧試験を行うこととし、保持時間は24時間以上とする。 (1) 標準仕様書第1編及び鹿児島市機械設備工事「提出書類作成要領」による。 (2) 施工図等の著作権に保つる当該建物に限る使用権は、発注者に移譲するものとする。竣工時に、国土交通省大臣官庁 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

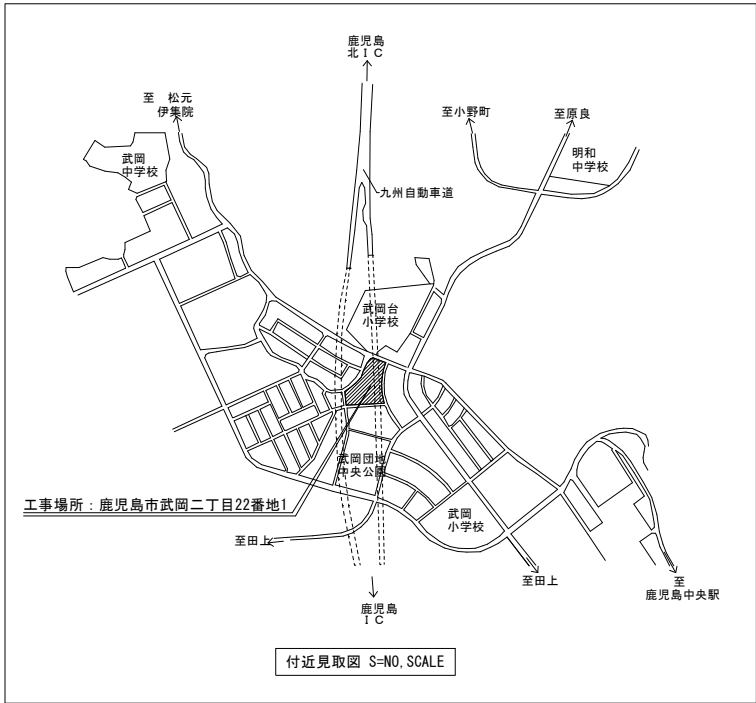
| 5 風量測定口 | 取付箇所は下記による。 ・ 図示した位置 ・ 送風機吐出ダクト又は吸込ダクト ・ 外気取入れダクト ・ 空調機出口チャンパーの分岐ダクト | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------|---|--------------------------------------|-----|---------|------|--|--------------------------------------|--------------------------------------|------|-----|--------------------------------|---------------|-----|------|---------------|-------|-------|-----|----------------------|--------------------------------|-------|--|--------------------------------|--------------------------------|------|--|--------------------------------|--------------------------------------|-------|--|-----------|-----------|
| 6 チャンパー | (1) 内貼りを施すチャンパーの表示寸法は外法を示す。 (2) 空気調和機、温風暖房機に取り付けるサプライチャンパー、レタンチャンパー及び風道系で消音内貼りしたチャンパーには点検口を設け、大きさは図示による。 (3) ガラリに直接取り付けけるチャンパー類は雨水の滞留のないように施工する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 ダンパー | (1) 防煙ダンパー 復帰方式（ ・ 遠隔 ・ ） 定格入力はDC24V、0.7A以下とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 配管材料 | (2) ビストンダンパー 復帰方式（ ・ 遠隔 ・ ） <table><tr><th>種 別</th><th>区 分</th><th>使 用 材 料</th></tr><tr><td rowspan="2">冷温水管</td><td rowspan="2"></td><td>・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ 水配管用亜鉛めっき鋼管 SGP-W</td></tr><tr><td>・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ 水配管用亜鉛めっき鋼管 SGP-W</td></tr><tr><td rowspan="2">冷却水管</td><td rowspan="2">一 般</td><td>・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ 配管用炭素鋼鋼管（黒）</td></tr><tr><td>・ 配管用炭素鋼鋼管（黒）</td></tr><tr><td rowspan="2">油 管</td><td rowspan="2">地中埋設</td><td>・ 配管用炭素鋼鋼管（黒）</td></tr><tr><td>給 気 管</td></tr><tr><td rowspan="2">蒸 気 管</td><td rowspan="2">還 管</td><td>・ 圧力配管用炭素鋼鋼管（黒）Sch40</td></tr><tr><td>・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ 配管用炭素鋼鋼管（白）</td></tr><tr><td rowspan="2">膨 張 管</td><td rowspan="2"></td><td>・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ 配管用炭素鋼鋼管（白）</td></tr><tr><td>・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ 配管用炭素鋼鋼管（白）</td></tr><tr><td rowspan="2">空気抜管</td><td rowspan="2"></td><td>・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ 硬質塩化ビニル管 VP</td></tr><tr><td>・ 水道用硬質塩化ビニル管 鋼管 SGP-VB ・ 断熱材被覆鋼管</td></tr><tr><td rowspan="2">冷 媒 管</td><td rowspan="2"></td><td>・ 断熱材被覆鋼管</td></tr><tr><td>・ 断熱材被覆鋼管</td></tr></table> | 種 別 | 区 分 | 使 用 材 料 | 冷温水管 | | ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ 水配管用亜鉛めっき鋼管 SGP-W | ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ 水配管用亜鉛めっき鋼管 SGP-W | 冷却水管 | 一 般 | ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ 配管用炭素鋼鋼管（黒） | ・ 配管用炭素鋼鋼管（黒） | 油 管 | 地中埋設 | ・ 配管用炭素鋼鋼管（黒） | 給 気 管 | 蒸 気 管 | 還 管 | ・ 圧力配管用炭素鋼鋼管（黒）Sch40 | ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） | 膨 張 管 | | ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） | ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） | 空気抜管 | | ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ 硬質塩化ビニル管 VP | ・ 水道用硬質塩化ビニル管 鋼管 SGP-VB ・ 断熱材被覆鋼管 | 冷 媒 管 | | ・ 断熱材被覆鋼管 | ・ 断熱材被覆鋼管 |
| 種 別 | 区 分 | 使 用 材 料 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 冷温水管 | | ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ 水配管用亜鉛めっき鋼管 SGP-W | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ 水配管用亜鉛めっき鋼管 SGP-W | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 冷却水管 | 一 般 | ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ 配管用炭素鋼鋼管（黒） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | ・ 配管用炭素鋼鋼管（黒） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 油 管 | 地中埋設 | ・ 配管用炭素鋼鋼管（黒） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 給 気 管 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 蒸 気 管 | 還 管 | ・ 圧力配管用炭素鋼鋼管（黒）Sch40 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 膨 張 管 | | ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 空気抜管 | | ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ 硬質塩化ビニル管 VP | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | ・ 水道用硬質塩化ビニル管 鋼管 SGP-VB ・ 断熱材被覆鋼管 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 冷 媒 管 | | ・ 断熱材被覆鋼管 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | ・ 断熱材被覆鋼管 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 弁類 | 図面に明記なき場合は（ ・ JISSK ・ JISI0K ）とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 温度計 | 取付部は標準仕様書によるほか以下による。なお、温度計は工業用バイメタル式温度計（目盛板外径100φ）とする。 ・ ボイラーの温水管（入口側） ・ 温風暖房機の吐出ダクト、レタンダクト、外気取入れダクト及びレタンチャンパー ・ 温水発生機の温水管（出入口側） ・ 冷凍機の冷水管（出入口側）及び冷却水管（出入口側） ・ 直置き吸収冷水機の冷温水管（出入口側）及び冷却水管（出入口側） ・ 空気調和機の冷温水管（出入口側） ・ 空気調和機（パッケージ形を含む）のサプライチャンパー、レタンダクト、外気取入れダクト及びレタンチャンパー ・ 冷温水ヘッダー（往）及び各返り管 ・ 熱交換器の温水管（出入口側） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 圧力計 | 取付部は標準仕様書によるほか下記による。 ・ 温水発生機の温水管（出入口側） ・ 冷凍機の冷水管（出入口側）及び冷却水管（出入口側） ・ 直置き吸収冷水機の冷温水管（出入口側）及び冷却水管（出入口側） ・ 空気調和機の冷温水管（出入口側） ・ 熱交換器の温水管（出入口側） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 瞬間流量計及び流量測定口 | コック付とし、取付部は標準仕様書によるほか下記による。なお、着脱型の指示部は各サイズ1個付属とする。 取付部は標準仕様書によるほか下記による。 ・ 温水発生機の温水管（入口側）に（ ・ 固定形 ・ 着脱形 ）を設ける。 ・ 冷凍機の冷水管（出口側）及び冷却水管（出口側）に（ ・ 固定形 ・ 着脱形 ）を設ける。 ・ 直置き吸収冷水機の冷温水管（出口側）及び冷却水管（出口側）に（ ・ 固定形 ・ 着脱形 ）を設ける。 ・ 空気調和機の冷温水管（入口又は出口側）に（ ・ 固定形 ・ 着脱形 ）を設ける。 ・ 冷温水ヘッダーの（ ・ 各送り管 ・ 各返り管 ）に（ ・ 固定形 ・ 着脱形 ）を設ける。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 油面制御装置 | 制御盤には（ ・ 給油ポンプ制御 ・ 減油警報 ・ 過満警報 ・ 電磁弁制御 ・ 返油ポンプ制御 ・ 減油警報 ・ ）の端子を設ける。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14 保温及び消音内貼り | なお、フロートスイッチ部と制御盤間の配管配線は、製造者の標準仕様とする。 標準仕様書第2編によるほか、下記による。 ・ 送りダクトの保温要（保温の厚さ25mm、範囲は空調室及び空調室天井内を除く） ・ 外気ダクトの保温要（保温の厚さ25mm、図示及び下記範囲の保温を行う） ・ 空調室の室内及び天井内 ・ 電気室 ・ 発電機室 ・ 多湿箇所の室内及び天井内 ・ エレベーター機械室 ・ 膨張タンクよりボイラー等への補給水管及び建物内の空気抜き管の保温は、標準仕様書第2編3.1.4の膨張管の項による。 ・ 空気調和機及びファンコイルユニットの排水管の保温は、標準仕様書第2編の3.1.5の排水管の項による。 ・ 消音内貼りの施工範囲は図示したダクト及びチャンパー類とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 たわみ継手 | 使用箇所は下記による。 ・ 図示の箇所 ・ 給排気ファンのダクト接続部 ・ ユニット形空気調和機のダクト接続部（機内防振機器を除く） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 16 機器の据付 | パッケージエアコン及びルームクーラー等の室外機は、防振ゴムパット（厚さ15mm以上）の上に、ステンレス製アンカーボルトにて固定する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 17 機器の塗装 | 室外機塗装（ ・ 標準仕様 ・ 耐塩害仕様 ・ 耐重塩害仕様 ・ その他） 塗装仕様については、製造者の仕様とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 18 試運転調整等 | 施工完了時に所定の試運転調整を行うことを原則とするが、完成後1年間は、冷房及び暖房時期に入る直前にも、各試運転調整を行うと共に、関係者に対し取り扱い説明を受注者の負担において行う。 また、施工完了時に行った試運転調整は、機器等の運転状態の記録表及び測定結果をまとめた測定表を作成し、速やかに提出する。 測定表には、測定器名、測定日時及び測定者名を記入し、測定点を示した図面を添付する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 19 冷媒ガスの処理 | (1) フルオロカーボン（フロン）を使用している機器を撤去する場合は、事前にガスの回収を行うこと。 (2) 回収したガスは、全て破壊処理するものとする。 (3) 回収フロン破壊証明書を提出すること。 (4) 回収及び破壊処理については、フロン排出抑制法に従い、「フロン回収行程管理票」を使用してフロン回収行程の適正な管理を行うこと。 (5) 「フロン回収行程管理票」を含む、冷媒ガスの処理に係わる費用は全て受注者の負担とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 20 予備品等 | 標準仕様書によるほか下記の予備品を備える。 ・ ・ ・ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

● 衛生器具設備

| ① 器具及び付属品 | (1) 大・小便器用標記板は、陶器製（原則として衛生器具と同色）とし、小学校児童トイレ及び幼児用トイレに使用するものは、標記文字をひらがな又はかなで標記したものとする。 (2) 参考品番の指定がない場合の紙巻器は、市営住宅に使用するもの及び優先トイレに使用するものを除き、ステンレス鋼板製ワンタッチ形とする。 器具の取り付け高さは下記による。ただし、鹿児島市福祉環境整備指針に規定されている器具及びタイル目地合わせ等体裁上必要な場合は変更しても良いこととする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------------|---|-----------------|------------|----------------------|--|--|---|--|--|---|----------------------------|---|---|------------------------------|-------|-----|-----|------|-----|-----|------|-----|-----|-----|-------|-------|-------|-----------|-----|-----|-----|--|------------|------|-----|-----|-----|------------|-----|-----|--|--|-------------|-------|-----|--|--|--------------|
| ② 器具の取付け高さ | <table><tr><th rowspan="2">器具名称</th><th colspan="2">取付け高さ</th><th rowspan="2">備 考</th></tr><tr><th>一 般</th><th>単位mm 小学校 幼 児</th></tr><tr><td>壁掛小便器</td><td>530</td><td>350</td><td rowspan="5">床面より前縁上端まで</td></tr><tr><td>洗 面 器</td><td>750</td><td>650</td></tr><tr><td>手 洗 器</td><td>760</td><td>500</td></tr><tr><td>実験流し</td><td>850</td><td>700</td></tr><tr><td>料理流し</td><td>820</td><td>700</td></tr><tr><td>化粧鏡</td><td>1,500</td><td>1,400</td><td>1,100</td><td>床面より鏡中心まで</td></tr><tr><td>化粧棚</td><td>100</td><td>100</td><td></td><td>鏡下端より棚上端まで</td></tr><tr><td>水栓流し</td><td>300</td><td>300</td><td>200</td><td>流し床より吐水口まで</td></tr><tr><td>浴 槽</td><td>150</td><td></td><td></td><td>前縁上端より吐水口まで</td></tr><tr><td>浴室洗い場</td><td>300</td><td></td><td></td><td>洗い場床面より吐水口まで</td></tr></table> 注 1. 学校の乾式床の和風便器は、便器リムと床土上面を同一面とする。 （学校以外の施設、湿式床の場合は監督員と協議すること。） 注 2. 中学校及び高校は、一般寸法とする。ただし、中学校理科室に取り付ける実験流しは、小学校寸法とする。 | 器具名称 | 取付け高さ | | 備 考 | 一 般 | 単位mm 小学校 幼 児 | 壁掛小便器 | 530 | 350 | 床面より前縁上端まで | 洗 面 器 | 750 | 650 | 手 洗 器 | 760 | 500 | 実験流し | 850 | 700 | 料理流し | 820 | 700 | 化粧鏡 | 1,500 | 1,400 | 1,100 | 床面より鏡中心まで | 化粧棚 | 100 | 100 | | 鏡下端より棚上端まで | 水栓流し | 300 | 300 | 200 | 流し床より吐水口まで | 浴 槽 | 150 | | | 前縁上端より吐水口まで | 浴室洗い場 | 300 | | | 洗い場床面より吐水口まで |
| 器具名称 | 取付け高さ | | 備 考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 一 般 | 単位mm 小学校 幼 児 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 壁掛小便器 | 530 | 350 | 床面より前縁上端まで | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 洗 面 器 | 750 | 650 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 手 洗 器 | 760 | 500 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 実験流し | 850 | 700 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 料理流し | 820 | 700 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 化粧鏡 | 1,500 | 1,400 | 1,100 | 床面より鏡中心まで | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 化粧棚 | 100 | 100 | | 鏡下端より棚上端まで | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 水栓流し | 300 | 300 | 200 | 流し床より吐水口まで | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 浴 槽 | 150 | | | 前縁上端より吐水口まで | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 浴室洗い場 | 300 | | | 洗い場床面より吐水口まで | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ① 配管材料 | <table><tr><th>区 分</th><th>使 用 材 料</th></tr><tr><td>給 水 引 込 管 （メーター迄）</td><td>○ 水道用ポリエチレン管（2層管1種） ・ 水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管 SGP-VD</td></tr><tr><td>屋 外 埋 設 （メーター以降）</td><td>○ 水道用硬質塩化ビニル管 HI-VP ・ 水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管 SGP-VD</td></tr><tr><td>屋 内 一 般</td><td>○ 水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管 SGP-VB ○ 水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管 SGP-VD ○ 架橋ポリエチレン管 PN15</td></tr><tr><td>土 間（地 中） コンクリート内</td><td>○ 水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管 SGP-VD</td></tr><tr><td>ピ ッ ト 内</td><td>・ 水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管 SGP-VB ○ 水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管 SGP-VD ・</td></tr></table> 注. 図示なき給水管の最小口径は、呼び径20mmとする。 (1) 水栓は、JIS B 2061（給水栓）によるものであるが、湯用単水栓は全て陶器製ハンドルとする。なお、湯用単水栓と併設して取り付ける水栓についても体裁上必要と思われるものは、陶器製ハンドルを使用し、湯・水の区別表示をする。 (2) シングルレバー式の水栓は、レバーを上げたとき吐水し、下げたとき止水する構造の、下止め方式とする。 (3) 連合流しに使用する水栓（市営住宅を除く）及び監督員の指示した水栓は、節水コマ組み込み型とする。 親メーター（ ○ 貸与品（取付本工事） ・ 自己財 ） 子メーター（ ・ 貸与品（取付本工事） ○ 自己財 ） 呼び径25mm以下は、ボール式伸縮止水栓及び逆止弁と併用ボックスとする。 なお、形状、寸法及び50mm以上のボックスについては、鹿児島市機械設備工事「標準施工要領」による。 図面に明記なき場合は下記による。 水道直結部分（ ○ JIS10K ・ ） ポンプ圧送部（ ○ JIS10K ・ JIS5K ） その他の部分（ ・ JIS10K ○ JIS5K ） ハンドルの式弁のボックスは、コンクリート製角形とし、キャップ式弁（水道用仕切弁）のボックスはコンクリート製丸形とする。なお、形状、寸法その他は鹿児島市機械設備工事「標準施工要領」による。 タンクには、揚水管、給水管、排水管、オーバーフロー管、通気管等の接続口及び電極等の取付座（カバー付）を設け、次の付属品を備える。 (1) マンホール（600φ旋錠付、降灰対策用内蓋付） (2) はしご ① FRP製タンク タンク内は合成樹脂製、タンク外は鋼製（溶融亜鉛めっき仕上2種35）又はステンレス鋼製 ② ステンレス鋼板製タンク タンク内は合成樹脂製又はステンレス鋼製 SUS329J4L、タンク外は鋼製（溶融亜鉛めっき仕上2種35）又はステンレス鋼製 (3) 防虫網 通気管及びオーバーフロー管には、合成樹脂製又はステンレス製の防虫網を取付ける。なお、飲料水以外（汚水タンクを除く）の全てのタンクについても上記の管には防虫網を取付ける。 水道事業者への納入手続きを行うこと。 ただし給水負担金は、（ ・ 本工事に含む ○ 別途 ） | 区 分 | 使 用 材 料 | 給 水 引 込 管 （メーター迄） | ○ 水道用ポリエチレン管（2層管1種） ・ 水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管 SGP-VD | 屋 外 埋 設 （メーター以降） | ○ 水道用硬質塩化ビニル管 HI-VP ・ 水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管 SGP-VD | 屋 内 一 般 | ○ 水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管 SGP-VB ○ 水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管 SGP-VD ○ 架橋ポリエチレン管 PN15 | 土 間（地 中） コンクリート内 | ○ 水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管 SGP-VD | ピ ッ ト 内 | ・ 水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管 SGP-VB ○ 水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管 SGP-VD ・ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 区 分 | 使 用 材 料 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 給 水 引 込 管 （メーター迄） | ○ 水道用ポリエチレン管（2層管1種） ・ 水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管 SGP-VD | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 屋 外 埋 設 （メーター以降） | ○ 水道用硬質塩化ビニル管 HI-VP ・ 水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管 SGP-VD | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 屋 内 一 般 | ○ 水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管 SGP-VB ○ 水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管 SGP-VD ○ 架橋ポリエチレン管 PN15 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 土 間（地 中） コンクリート内 | ○ 水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管 SGP-VD | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ピ ッ ト 内 | ・ 水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管 SGP-VB ○ 水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管 SGP-VD ・ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ② 水栓 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ③ 水道メーター | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ④ メーターボックス | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑤ 弁類 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑥ 弁ボックス | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑦ タンク | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑧ 給水負担金 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ● 排水設備 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 配管材料 | <table><tr><th>区 分</th><th>使 用 材 料</th></tr><tr><td rowspan="2">屋 内 ・ 汚 水 管</td><td>・ 排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管 WSP O42 ○ 硬質塩化ビニル管 VP（露出部 VC） ○ 耐火二層管 ・</td></tr><tr><td>・ 排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管 WSP O42 ○ 硬質塩化ビニル管 VP（露出部 VC） ○ 耐火二層管 ○ 硬質塩化ビニル管 VP（露出部 VC） ○ 耐火二層管 ・</td></tr><tr><td>屋 内 ・ 雑排水管</td><td>・ 排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管 WSP O42 ○ 硬質塩化ビニル管 VP（露出部 VC） ○ 耐火二層管 ○ 硬質塩化ビニル管 VP（露出部 VC） ○ 耐火二層管 ・</td></tr><tr><td>屋 内 ・ 通 気 管</td><td>・ 排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管 WSP O42 ・ 硬質塩化ビニル管（ ○ VP ・ VU ） ・</td></tr><tr><td>屋 外 ・ 第 1 樹迄</td><td>・ 排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管 WSP O42 ○ 硬質塩化ビニル管（ ○ VP ・ VU ） ・</td></tr><tr><td>屋 外 ・ 樹 間</td><td>○ 硬質塩化ビニル管（ ・ VP ○ VU ） ・</td></tr></table> 洗面器等に直結する排水管は、器具トラップより1サイズアップとする。 樹等の形状、寸法等は鹿児島市機械設備工事「標準施工要領」による。 なお、樹のコンクリート部は工場製品としてもよい。 | 区 分 | 使 用 材 料 | 屋 内 ・ 汚 水 管 | ・ 排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管 WSP O42 ○ 硬質塩化ビニル管 VP（露出部 VC） ○ 耐火二層管 ・ | ・ 排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管 WSP O42 ○ 硬質塩化ビニル管 VP（露出部 VC） ○ 耐火二層管 ○ 硬質塩化ビニル管 VP（露出部 VC） ○ 耐火二層管 ・ | 屋 内 ・ 雑排水管 | ・ 排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管 WSP O42 ○ 硬質塩化ビニル管 VP（露出部 VC） ○ 耐火二層管 ○ 硬質塩化ビニル管 VP（露出部 VC） ○ 耐火二層管 ・ | 屋 内 ・ 通 気 管 | ・ 排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管 WSP O42 ・ 硬質塩化ビニル管（ ○ VP ・ VU ） ・ | 屋 外 ・ 第 1 樹迄 | ・ 排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管 WSP O42 ○ 硬質塩化ビニル管（ ○ VP ・ VU ） ・ | 屋 外 ・ 樹 間 | ○ 硬質塩化ビニル管（ ・ VP ○ VU ） ・ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 区 分 | 使 用 材 料 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 屋 内 ・ 汚 水 管 | ・ 排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管 WSP O42 ○ 硬質塩化ビニル管 VP（露出部 VC） ○ 耐火二層管 ・ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ・ 排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管 WSP O42 ○ 硬質塩化ビニル管 VP（露出部 VC） ○ 耐火二層管 ○ 硬質塩化ビニル管 VP（露出部 VC） ○ 耐火二層管 ・ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 屋 内 ・ 雑排水管 | ・ 排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管 WSP O42 ○ 硬質塩化ビニル管 VP（露出部 VC） ○ 耐火二層管 ○ 硬質塩化ビニル管 VP（露出部 VC） ○ 耐火二層管 ・ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 屋 内 ・ 通 気 管 | ・ 排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管 WSP O42 ・ 硬質塩化ビニル管（ ○ VP ・ VU ） ・ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 屋 外 ・ 第 1 樹迄 | ・ 排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管 WSP O42 ○ 硬質塩化ビニル管（ ○ VP ・ VU ） ・ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 屋 外 ・ 樹 間 | ○ 硬質塩化ビニル管（ ・ VP ○ VU ） ・ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ② 洗面器等の排水管 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ③ 樹類 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 中央監視制御装置 | ・ 本工事 ・ 別途工事 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 構成その他 | 図示による。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○ 自動制御設備 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

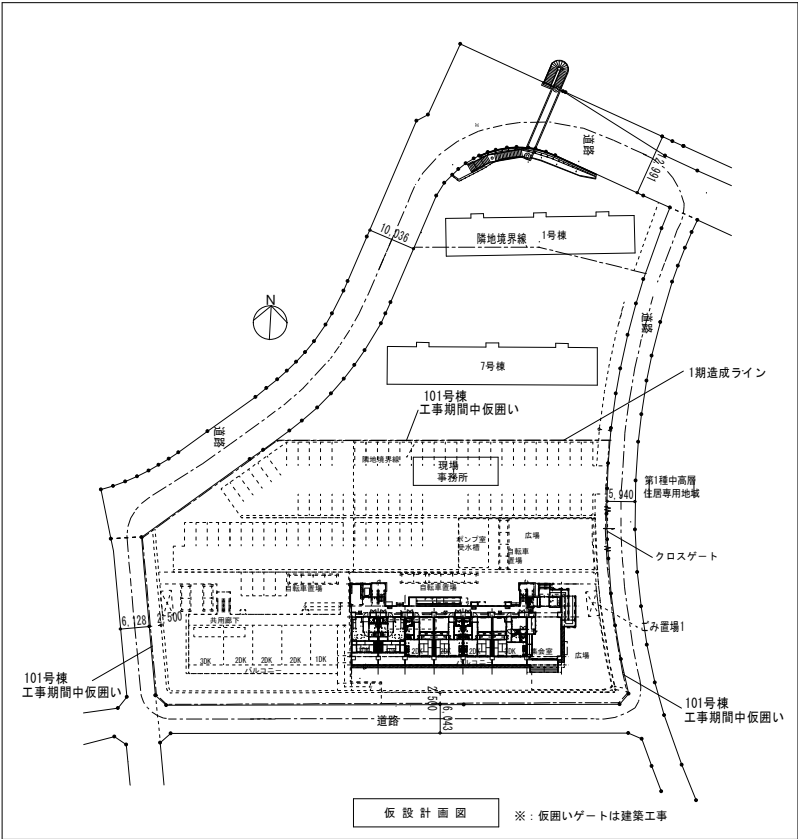
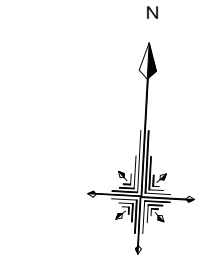
● 消火設備

| ① 配管材料 | <table><tr><th>種 別</th><th>区 分</th><th>使 用 材 料</th></tr><tr><td rowspan="2">屋内消火栓設備</td><td>一 般</td><td>・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ 水配管用亜鉛めっき鋼管 SGP-W</td></tr><tr><td>地中埋設</td><td>・ 消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管 SGP-VS ・</td></tr><tr><td rowspan="2">屋外消火栓設備</td><td>一 般</td><td>・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ 水配管用亜鉛めっき鋼管 SGP-W</td></tr><tr><td>地中埋設</td><td>・ 消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管 SGP-VS ・</td></tr><tr><td rowspan="2">ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞｰ消火設備</td><td>一 般</td><td>・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ 水配管用亜鉛めっき鋼管 SGP-W</td></tr><tr><td>ポンプ～制御弁</td><td>・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ 水配管用亜鉛めっき鋼管 SGP-W ・ 圧力配管用炭素鋼鋼管（白）Sch40 ・ 消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管 SGP-VS ・</td></tr><tr><td rowspan="2">地中埋設</td><td>一 般</td><td>・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ 水配管用亜鉛めっき鋼管 SGP-W ○ 圧力配管用炭素鋼鋼管（白）Sch40</td></tr><tr><td>地中埋設</td><td>○ 消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管 SGP-VS ・</td></tr></table> | 種 別 | 区 分 | 使 用 材 料 | 屋内消火栓設備 | 一 般 | ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ 水配管用亜鉛めっき鋼管 SGP-W | 地中埋設 | ・ 消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管 SGP-VS ・ | 屋外消火栓設備 | 一 般 | ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ 水配管用亜鉛めっき鋼管 SGP-W | 地中埋設 | ・ 消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管 SGP-VS ・ | ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞｰ消火設備 | 一 般 | ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ 水配管用亜鉛めっき鋼管 SGP-W | ポンプ～制御弁 | ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ 水配管用亜鉛めっき鋼管 SGP-W ・ 圧力配管用炭素鋼鋼管（白）Sch40 ・ 消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管 SGP-VS ・ | 地中埋設 | 一 般 | ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ 水配管用亜鉛めっき鋼管 SGP-W ○ 圧力配管用炭素鋼鋼管（白）Sch40 | 地中埋設 | ○ 消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管 SGP-VS ・ |
|----------------------|---|--|---------|-------------|--|---------------------|---|---------------------|---|---------|-----|--------------------------------------|------|--------------------------------|--------------|-----|--------------------------------------|---------|--|------|-----|--|------|--------------------------------|
| 種 別 | 区 分 | 使 用 材 料 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 屋内消火栓設備 | 一 般 | ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ 水配管用亜鉛めっき鋼管 SGP-W | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 地中埋設 | ・ 消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管 SGP-VS ・ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 屋外消火栓設備 | 一 般 | ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ 水配管用亜鉛めっき鋼管 SGP-W | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 地中埋設 | ・ 消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管 SGP-VS ・ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞｰ消火設備 | 一 般 | ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ 水配管用亜鉛めっき鋼管 SGP-W | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ポンプ～制御弁 | ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ 水配管用亜鉛めっき鋼管 SGP-W ・ 圧力配管用炭素鋼鋼管（白）Sch40 ・ 消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管 SGP-VS ・ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 地中埋設 | 一 般 | ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ 水配管用亜鉛めっき鋼管 SGP-W ○ 圧力配管用炭素鋼鋼管（白）Sch40 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 地中埋設 | ○ 消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管 SGP-VS ・ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 消火器 | 大型消火器（ ・ 本工事 ・ 別途 ） 小型消火器（ ・ 本工事 ・ 別途 ） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ① ガス種別 | ○ ガス事業法に基づく一般ガス（都市ガス 13A（46.04655MJ/m ³ ）） ・ ガス事業法に基づく簡易ガス（液化石油ガス） ・ 上記以外の液化石油ガス | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ② 配管材料 | ○ 都市ガス及び簡易ガスを使用する場合で、図示なき部分の配管材はガス事業者の供給規定による。 ・ 液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律に基づく液化石油ガスを使用する場合は下記による。 <table><tr><th>区 分</th><th>使 用 材 料</th></tr><tr><td>屋内一般（露出を除く）</td><td>・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ 硬質塩化ビニル外面被覆鋼管（被覆ねじ込み継手）</td></tr><tr><td>屋内露出</td><td>・ 硬質塩化ビニル外面被覆鋼管（被覆ねじ込み継手） ・ ポリエチレン外面被覆鋼管（被覆メカニカル継手） ・</td></tr><tr><td>地中埋設</td><td>・ 硬質塩化ビニル外面被覆鋼管（被覆ねじ込み継手） ・ ポリエチレン外面被覆鋼管（被覆メカニカル継手） ・</td></tr></table> | 区 分 | 使 用 材 料 | 屋内一般（露出を除く） | ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ 硬質塩化ビニル外面被覆鋼管（被覆ねじ込み継手） | 屋内露出 | ・ 硬質塩化ビニル外面被覆鋼管（被覆ねじ込み継手） ・ ポリエチレン外面被覆鋼管（被覆メカニカル継手） ・ | 地中埋設 | ・ 硬質塩化ビニル外面被覆鋼管（被覆ねじ込み継手） ・ ポリエチレン外面被覆鋼管（被覆メカニカル継手） ・ | | | | | | | | | | | | | | | |
| 区 分 | 使 用 材 料 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 屋内一般（露出を除く） | ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ 硬質塩化ビニル外面被覆鋼管（被覆ねじ込み継手） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 屋内露出 | ・ 硬質塩化ビニル外面被覆鋼管（被覆ねじ込み継手） ・ ポリエチレン外面被覆鋼管（被覆メカニカル継手） ・ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 地中埋設 | ・ 硬質塩化ビニル外面被覆鋼管（被覆ねじ込み継手） ・ ポリエチレン外面被覆鋼管（被覆メカニカル継手） ・ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 充てん容器 | 別途（ ・ 20kg ・ 50kg ） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 集合装置 | 標準図による。（ ・ 本組 ） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 転倒防止等 | 標準図の（ ・ （a） ・ （b） ）による。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑥ ガスメーター | 親メーター（ ・ 貸与品 ・ 自己財 ） 子メーター（ ・ 貸与品 ・ 自己財 ） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 ガス漏れ警報機 | ・ 本工事 ・ 別途工事 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 漏洩検知装置 | ・ 本工事 ・ 別途工事 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ① 配管材料 | <table><tr><th>区 分</th><th>使 用 材 料</th></tr><tr><td rowspan="2">屋 内 一 般</td><td>・ 耐熱性硬質塩化ビニルライニング鋼管 SGP-HWA ・ 一般配管用ステンレス鋼鋼管 JIS G 3448 ○ 被覆ステンレス鋼管（呼び径25mm以下） ・ 鋼管（ ・ M ・ L ） ○ 架橋ポリエチレン管 PN15</td></tr><tr><td>・ 耐熱性硬質塩化ビニル管 HT-VP</td></tr><tr><td>地 中 埋 設</td><td>・ 耐熱性硬質塩化ビニル管 HT-VP</td></tr></table> | 区 分 | 使 用 材 料 | 屋 内 一 般 | ・ 耐熱性硬質塩化ビニルライニング鋼管 SGP-HWA ・ 一般配管用ステンレス鋼鋼管 JIS G 3448 ○ 被覆ステンレス鋼管（呼び径25mm以下） ・ 鋼管（ ・ M ・ L ） ○ 架橋ポリエチレン管 PN15 | ・ 耐熱性硬質塩化ビニル管 HT-VP | 地 中 埋 設 | ・ 耐熱性硬質塩化ビニル管 HT-VP | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 区 分 | 使 用 材 料 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 屋 内 一 般 | ・ 耐熱性硬質塩化ビニルライニング鋼管 SGP-HWA ・ 一般配管用ステンレス鋼鋼管 JIS G 3448 ○ 被覆ステンレス鋼管（呼び径25mm以下） ・ 鋼管（ ・ M ・ L ） ○ 架橋ポリエチレン管 PN15 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ・ 耐熱性硬質塩化ビニル管 HT-VP | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 地 中 埋 設 | ・ 耐熱性硬質塩化ビニル管 HT-VP | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 弁類 | 図面に明記なき場合は（ ・ JIS10K ・ JIS5K ） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 届出手続き等 | 浄化槽法の規定に基づく「浄化槽設置届出書」を所定の時期に鹿児島市浄化槽指導要綱に定める関連図書を添付し、届出を代行すること。 鹿児島市浄化槽法施行細則の規定に基づく浄化槽工事完了検査を受け、検査結果を速やかに監督員に報告すること。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 中間立会い検査等 | 下記の工事を行う場合は、事前に監督員に連絡し、現場立会い検査及び承諾後施工すること。 ・ 位置の決定：あらかじめ設計図の配置に基づいて仮の位置決めを行い承諾を受ける。 ・ 配 筋：配筋終了後、片側仮枠の状態で立会い検査を受ける。 ・ コンクリート打設：コンクリート打設前に各槽の寸法、壁厚等のチェックリストを作成し、承諾を受ける。 ・ 搬入据付け：ユニット形浄化槽の搬入及び据付け時には、槽の規格、型式等の確認及び据付け状態の立会い検査を受ける。 ・ 試験その他：水張り試験（24時間）、その他監督員の指示する試験及び試運転調整等は立会い検査を受ける。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 取扱い説明等 | 試験調整後、所要の時期に浄化槽管理者及び浄化槽管理者が委託した浄化槽管理士など関係者に対し、取扱い説明を十分に行う。 なお、試験調整並びに取扱い説明等に必要な資機材及び労務等を提供し、これに要する費用を負担する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 付属品等 | 標準仕様書によるほか、下記品目を備える。 ・ マンホール引手 1組 ・ 消毒薬剤 1式（1回投入分） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 送風機 | 原則として、防振ゴム、防振架台等で防振対策を施したものとし、騒音の大きなものは、騒音対策を行う。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 点検口蓋 | 図示なき場合は下記による。ただし、ユニット形で図示なき場合は、製造者の標準仕様とする。 (1) 防 臭 蓋：鉄製耐圧型（SHASE-S、安全荷重 14,700N）以上 なお、蓋は錠付又はステンレス製ボルト固定式とする。 (2) 鋼板製蓋：板厚4.5mm以上の鋼鋼板に溶融亜鉛めっきを施したもの又はステンレス鋼鋼板（SUS 304）製で、取手又は取手取付穴付きとし、1人で開閉できる重量に分割加工する。なお、蓋はステンレス製ボルト固定式とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 ユニット型浄化槽 | (1) 浄化槽法に基づく型式認定品とするが、あらかじめ使用する機種の認定シート等の関連図書を提出し、監督員の承諾を得ること。 (2) 図示の機器寸法は参考寸法とする。 (3) 保護工作物が別途工事の場合においては、保護工作物の施工業者と収まり等について、十分に打ち合わせを行うこと。 使用する機種が別途保護工作物内に収まらず、工作物の寸法を変更する必要がある場合は、変更に関わる全ての費用を本工事で負担する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 支持金物等 | 槽内の支持金物及びボルト・ナット類は全てステンレス鋼製（SUS304）とする。 <table><tr><td colspan="3">武岡住宅101号棟新築給排水衛生設備工事</td></tr><tr><td colspan="2">特記仕様書(2)</td><td>No Scale</td></tr><tr><td colspan="2">鹿児島市建設局建築部設備課</td><td>2</td></tr><tr><td colspan="2"></td><td>全 29</td></tr></table> | 武岡住宅101号棟新築給排水衛生設備工事 | | | 特記仕様書(2) | | No Scale | 鹿児島市建設局建築部設備課 | | 2 | | | 全 29 | | | | | | | | | | | |
| 武岡住宅101号棟新築給排水衛生設備工事 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 特記仕様書(2) | | No Scale | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 鹿児島市建設局建築部設備課 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 全 29 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |



103号棟工事
(将来工事)
【2工区】

102号棟工事
(将来工事)
【1工区】




特記事項

- 本工事は武岡住宅101号棟新築に伴う給排水衛生設備工事のため、下記事項に十分配慮して作業を行うこと。
1. 配管設備は、建築基準法施行令第129条の2の5に基づき施工すること。
 2. 工事着手前に現地調査を十分行い、工程表を作成し、監督員と協議のうえで工事に着手すること。
 3. 工事に伴いハツリ等を行った場合、原則として原形復旧すること。
 4. 工事期間中は安全作業に努めると共に、火気等にも十分注意して作業すること。また、粉塵等の発生にも十分留意し、養生を確実にし作業すること。
 5. 工事期間中に休日及び時間外作業をする場合は、事前に担当者に連絡し承諾を得たのちに作業すること。
 6. 上下水道については、水道法、下水道法、給水装置施行基準、排水設備工事施行基準（鹿児島市水道局）に基づき施工すること。
 7. ガス設備については、ガス事業法に基づき施工すること。
 8. 被覆ステンレス鋼管（プレス式）を施工する際は、使用するメーカーの施工要領に基づき作業を行うこと。
 9. 排水管の満水継手のフランジのボルト・ナットの締め付けは確実にすること。
 9. サヤ管ヘッダー工法を施工する時は別図施工要領及び使用するメーカーの施工要領に基づき作業を行う。
 10. 住戸内、内装工事等に際し、床転がし、壁埋込み配管を釘等で損傷することのないよう、注意して施工すること。
 11. 「共同住宅における各戸検針及び各戸徴収（遠隔式）に関する契約書」に係わる手続きを、原則工期内に行うこと。
 12. 屋上等高所での作業時は、墜落制止用器具を着用し安全対策を実施すること。
 13. 敷地内を部分的に使用しながらの工事であり、建物使用者の危害防止等には十分な安全・防災対策を立てること。また、作業員等に工事区域外に立ち入らないように徹底させること。
 14. 工事現場事務所、材料置場及び作業車両の駐車スペースについては、関係者と打合せのこと。また、敷地内の車両走行については、建物使用者の安全を確保し、必ず徐行すること。
 15. 公道の掘削工事に際しては交通誘導警備員を配置すること。
 16. 施工に伴い必要となる届出や手続き（道路使用・占有、消防設備着工・設置、給水装置・排水設備申請等）については、関係機関と協議の上、適切に行うこと。
 17. 工事期間内に破損、または汚損した場合は原型復旧すること。

配置図 S=1/600 (A3)

今回工事対象箇所を表す

※1期外構工事範囲外は全て将来工事とする

| | | | | |
|--|-----------------------|----------------------|------------------------|---------------|
| 一級建築士事務所 知事登録第1-28-52号 | | 武岡住宅101号棟新築給排水衛生設備工事 | | |
|  株式会社 ワーク設計 | 一級建築士登録番号96597号 春田 信行 | 附近見取図・配置図・仮設計計画図 | A1: 1/300 A3: 1/600 | 3 |
| | | 特記事項 | | |
| | | | | 鹿児島市建設局建築部設備課 |

凡 例 表

| 記 号 | 名 称 | 管 区 分 | | | 備 考 |
|------------|-----------|------------------------------|----------------------|---------------------|----------------|
| ―― ――― | 給 水 管 | 屋外埋設（引込管（公道内埋設配管～量水器まで）） | 水道用ポリエチレン二層管 | P N | |
| | | 屋外埋設（一般管 6 5 A以上） | 水道用硬質塩化ビニル内外面ライニング鋼管 | S G P－V D | |
| | | 屋外埋設（一般管 5 0 A以下） | 耐衝撃性硬質ポリ塩化ビニル管 | H I V P | |
| | | 屋内一般（土間、ビット内） | 水道用硬質塩化ビニル内外面ライニング鋼管 | S G P－V D | |
| | | 屋内一般（MB・屋外露出） | 水道用硬質塩化ビニル内面ライニング鋼管 | S G P－V B | |
| | | 屋内一般（住戸内） | 架橋ポリエチレン管 | | JIS K 6769 さや管 |
| ―― ――― | 排 水 管 | 屋外埋設 | 硬質ポリ塩化ビニル管（一般管） | V P（併用：V U） | |
| | | 屋内一般（住戸内、ビット内） | 硬質ポリ塩化ビニル管（一般管） | V P | |
| | | 屋内一般（立管及びスラブ貫通部から1.0m以内の横引管） | 耐火二層管 | F D V P | |
| ----- | 通 気 管 | 屋内一般（5 0 A以下 ビット内） | 硬質ポリ塩化ビニル管（一般管） | V P | |
| | | 屋内一般（6 5 A以上 立管及び最上階横引き管） | 耐火二層管 | F D V P | |
| | | 屋外埋設、屋内一般（ビット内） | 硬質ポリ塩化ビニル管（一般管） | V P | |
| ―― D ――― | 排水管（ドレン管） | 屋内一般（MB内 給湯器～間接排水） | 耐熱性硬質ポリ塩化ビニル管 | H T V P | |
| | | 屋内一般（立管及びスラブ貫通部から1.0m以内の横引管） | 耐火二層管 | F V P | |
| | | 屋外埋設 | ポリエチレン管 | P E | ガス供給業者指定品 |
| ―― G ――― | ガ ス 管 | 屋内一般（土間、ビット、シンダー内、床転がし（水回り）） | 硬質塩化ビニル外面被覆鋼管 | V I | ガス供給業者指定品 |
| | | 屋内一般（上記以外） | 配管用炭素鋼鋼管（白） | S G P－E－H | ガス供給業者指定品 |
| | | 屋内一般 | 圧力配管用炭素鋼鋼管（白） | STPG 370 (Sch40) | |
| ―― X S ――― | 消 火 管 | 屋外埋設 | 消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管 | STPG-VS 370 (Sch40) | |
| | | 屋内一般（MB内・PS内） | 被覆ステンレス鋼管 | S U S 3 0 4 | |
| ―― I ――― | 給 湯 管 | 屋内一般（住戸内） | 架橋ポリエチレン管 | | JIS K 6769 さや管 |
| | | 浴室用 | 硬質ポリ塩化ビニル管 | V U | |
| | | 浴室用（共用廊下梁貫通部分（室内側）より1．0m以内） | 耐火二層管 | F V P | |
| ● | 埋 設 標 示 柱 | 便所・台所 | スパイラルダクト | S D | |
| | | 屋 外 | 2 0 0 φ × 3 0 0 H | | |
| | | 屋 外 | 鉄製 | | |

<特記事項>
* 防火区画貫通部の処理は隙間なくモルタル等で充填するか不燃材で隙間なく開口部を処理を行う事。

保温・塗装仕様一覧表

| 施工箇所 配管・ダクト | 給排水設備 | | | | | | 換気設備 | | | 凡 例 |
|-----------------|-------|-----|-----|-----|------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------------------------------|
| | 給水管 | 排水管 | 給湯管 | ガス管 | 給湯器 排気筒 | 連結 送水管 | 台所 ダクト | 便所 ダクト | 浴室 ダクト | |
| 屋外埋設・屋内一般（土間） | B | B | | B | | B | | | | A：標準仕様書による |
| PS内・MB内 | A | B | B | B | A | A | | | | B：保温・塗装なし |
| MB内の給湯器への接続フレキ管 | D | | E | | | | | | | C：プラスチックテープ巻き |
| 1階床下ビット内 | B | B | | B | | B | | | | D：保温チューブ巻き |
| 床下転し（住戸内） | B | B | B | B | | | | | | E：耐熱性保温チューブ巻き |
| 面台内（流し台・洗濯機置場） | B | | B | B | | | | | | F：塗装 |
| ユニットバス内立上り | B | | B | | | | | | | G：ロックウール保温筒50mm＋鉄線＋アルミガラスクロス＋亀甲金網 |
| 天井内（住戸内下がり天井舎） | | | | | A | | G | B | B | |
| 屋外露出 | A | | | | | F | | | | |
| コンクリート壁・梁の貫通部 | B | | B | B | | B | C | C | B | |

※ 屋外露出の給水管は、ポリスチレンフォーム2 0 mm＋カラーS U Sラッキングとする。

| 住戸タイプ | 戸 数 |
|-------|-----|
| 3DK | 17 |
| 2DK | 27 |
| 1DK | 6 |
| 2K | 12 |
| 集会所 | 1 |
| 合 計 | 63 |
| | |

| | | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|--|----|--|-------|
| | | | | | | | | RF | | |
| 2K | 2K | 2DK | 2DK | 2DK | 3DK | 3DK | | 9F | | 2.900 |
| 2K | 2K | 2DK | 2DK | 2DK | 3DK | 3DK | | 8F | | 2.850 |
| 2K | 2K | 2DK | 2DK | 2DK | 3DK | 3DK | | 7F | | 2.850 |
| 2K | 2K | 2DK | 2DK | 2DK | 3DK | 3DK | | 6F | | 2.850 |
| 2K | 2K | 2DK | 2DK | 2DK | 3DK | 3DK | | 5F | | 2.850 |
| 2K | 2K | 2DK | 2DK | 2DK | 3DK | 3DK | | 4F | | 2.850 |
| 1DK | 1DK | 2DK | 2DK | 2DK | 3DK | 3DK | | 3F | | 2.900 |
| 1DK | 1DK | 2DK | 2DK | 2DK | 3DK | 3DK | | 2F | | 2.900 |
| 1DK | 1DK | 2DK | 2DK | 2DK | 3DK | 集会所 | | 1F | | 2.900 |
| | | | | | | | | GL | | 9.50 |

住戸構成図 NO. SCALE

工事区分表

| 工事区分 | | 建築 | 機械 | 電気 | |
|------|-------------------------------|-------------|----|----|------------------------|
| 1 | 水道メーター集中検針盤本体、取り付け | | ○ | | |
| 2 | 水道メーター集中検針盤への配線配管一式 | | | ○ | |
| 3 | 隔測水道メーター及び取付け | | ○ | | |
| 4 | 隔測水道メーター付属接続箱取付け | | ○ | | メーター付属ケーブルの接続箱への結線は本工事 |
| 5 | 換気扇取付（台所・便所・浴室） | | ○ | | |
| 6 | 構造体の設備用貫通箱入れ及びスリーブ | | ○ | ○ | |
| 7 | 同上用開口部の補強（構造体の補強を必要とするもの） | ○ | | | |
| 8 | 同上用開口部の補強 | ○ | | | |
| 9 | 防水スリーブ及び防水処理 | | ○ | ○ | |
| 10 | 設備用シャフトの点検口 取付高FL+1200（点検口下端） | ○ | | | |
| 11 | 既製品流し台（排水トラップ共）・コンロ台・水切りプレート | ○ | | | |
| 12 | レンジフードファン前面・側面化粧板 | ○ | | | |
| 13 | レンジフード | | ○ | | |
| 14 | 機器のコンクリート基礎 ※1階連結送水管送水口基礎除く | ○ | | | |
| 15 | ユニットバス換気扇用開口 | ○ | | | |
| 16 | ユニットバス換気扇取付け | | ○ | | |
| 17 | ユニットバス（シャワーセット等含む）本体、設置 | ○ | | | |
| 18 | ユニットバス電源・スイッチ・配線工事 | | | ○ | |
| 19 | 雨水排水設備一式 | ○ | | | |
| 20 | 手摺 | ○ | | | |
| 21 | タオルリング | ○ | | | |
| 22 | 洗面化粧台 | | ○ | | |
| 23 | 便器（ペーパーホルダー共） | | ○ | | |
| 24 | 洗濯機パン | | ○ | | |
| 25 | 床下点検口 洗面所 洗面機パン附近 450角 | ○ | | | |
| 26 | 人通口（ビット内地中梁） | ○ | | | |
| 27 | 給湯器取付枠用固定金物 SD-2、3に取付（サッシ工事） | ○ | | | |
| 28 | 換気用ガラリ | ○ | | | |
| 29 | 受水槽本体 同上配管支持金物（受水槽外面） | | ○ | | |
| 30 | 受水槽基礎、加圧給水ポンプ基礎、充水タンク基礎 | ○ | | | |
| 31 | 加圧給水ポンプ | | ○ | | |
| 32 | 同上 1 次側配線・配管 | | | ○ | |
| 33 | 受水槽電極・配線配管 | | | ○ | |
| 34 | 補給水用電磁弁 | | ○ | | |
| 35 | 同上配線・配管 | | | ○ | |
| 36 | 消火用充水タンク同上架台 | | ○ | | |
| 37 | 消火用充水タンク電極・配線配管 | | | ○ | |
| 38 | 消火用送水口の基礎 | | ○ | | |
| 39 | エレベータ | 一次側電源（アース共） | | ○ | |
| | | 遠隔監視用通信配管 | | ○ | |
| | | 乗場インターホン | ○ | | |
| | | 同上位置ボックス | ○ | | |
| | | 同上配管・配線 | ○ | | |
| | | 煙感知器 | | ○ | |
| | | 同上配線・配管 | | ○ | |
| | | 制御盤 | ○ | | |

衛生器具表

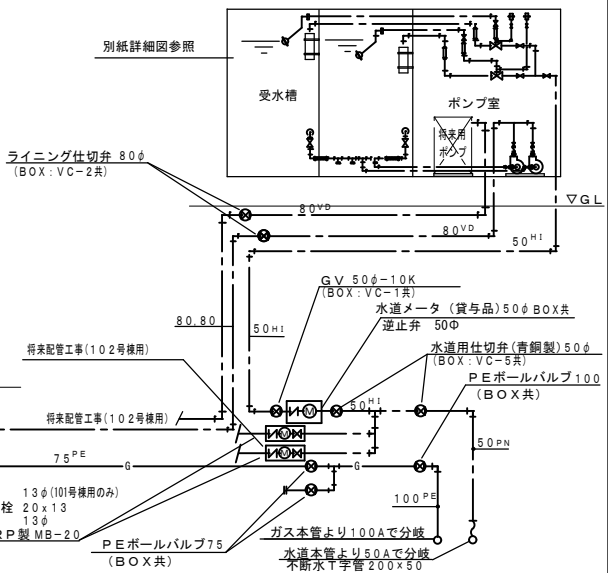
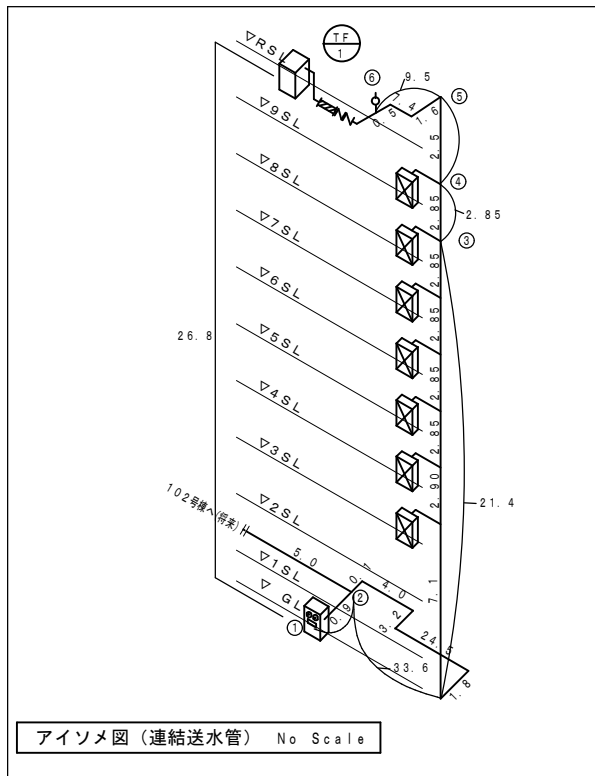
| 部屋名 | 器具名称 | 1棟当たり 数量 | 規格及びJIS記号 | LIXIL品番 | TOTO品番 | 備考 |
|--------|-------------------------|-------------|---------------------------|--|--|--|
| 便所 | 洋風大便器(床上排水・壁給水) | 6 2 | C1201R | BC-110PTU-AY DT-5800BL CF-47AT CF-D11S CF-AA22H | CS670BP SH671BA TC300 YTK10S YH50 | 2DK, BL認定品、前丸便座、塩ビコーティング鋼管製サリベント10°手洗付ローソク |
| | 洋風大便器(床下排水・壁給水) | 1 | C1201R | BC-110STU-AY DT-5800BL CF-47AT CF-AA22H | CS670B SH671BA TC300 YH50 | BL認定品、前丸便座、手洗付ローソク、前丸便座 集会所 |
| | 洗面器（壁排水・壁給水） | 1 | | L-275FCR AM-300CV1 LF-WN7PF SF-10E AY-34(1P) AY-55DN | L270C TLE28SA1A TLDP2201JA TL220D TH500P32 HH04060 | 集会所 |
| | 化粧鏡（盗難防止型） | 1 | | KF-4560 | YM4560A | 集会所 |
| | 手すり（L型） | 1 | | KF-920AE70D12J/WA | T112CL10 | 集会所 |
| | 手すり（跳ね上げ） | 1 | | | T112H8R | 集会所 |
| | | | | | | |
| 洗面所 | 洗面化粧台 | 6 2 | 600×17〃 | LBFTV-604YS/VP1W + MFTX1-601XFJ(BL) | LDDB060BAGMK1A + LMDB060B1GDG1G | BL認定品、シングルルバー |
| | 洗濯機パン | 6 2 | 800×17〃 | PF-8064AC/FW1-BL + TP-52 | PWSP80HB2W | BL認定品・横引（樹脂製）排水トラップ |
| | 洗濯機用横水栓 | 6 2 | | LF-WJ50KQA | TW11R | |
| D.K | 台付シングル混合水栓 | 6 3 | | SF-HB442SYXA | TKS05303J | |
| | ストリート止水栓 | 6 3 | 給水用 | LF-3J-19-DP | TH227D2U | |
| | ストリート止水栓 | 6 3 | 給湯用 | LF-3J-13H-DP | TH227D2U | |
| | 1口L林-スズ栓（ヒューズ・スズ栓） | 6 3 | LA型単口 15A・10A | | | |
| | 1口LAコンセント・スズ栓（ヒューズ・スズ栓） | 6 3 | LA型単口 15A・10A | | | |
| MB内 | 量水器13（遠隔式） | 6 3 | 13φ（9メートル式3芯） | | | |
| | リモート接続箱 | 6 3 | | | | |
| | 端末伝送器 | 7 | | | | 1階MBのみ 樹脂製ブルボックス共 |
| | カーネル式伸縮止水栓 | 6 3 | 20×13 | | | |
| | 水道メーター用逆止弁 | 6 3 | 13A | | | |
| | 減圧弁 | 4 2 | 20A | | | |
| | ガスメーター | 6 3 | マイコン式 NV-6（貸与品） | | | |
| | メーター・ガス栓 | 6 3 | UMC-20 | | | |
| | 逆止弁付カーネル止水栓（給湯器給水用） | 6 3 | 15×15 | | | |
| | 接続7/8インチ（給湯器給水用） | 6 3 | SUS製、300L | | | |
| | 接続7/8インチ（給湯器給湯用） | 6 3 | SUS製、300L | | | |
| | ワジ・スズ栓（給湯器用） | 6 3 | 20φ | | | |
| | 金属7/8インチ管（給湯器用） | 6 3 | 20φ | | | |
| | | | | | | |
| 通路(PS) | 集中検針盤 | 1 | 63戸用（屋内型・露出・自動送型） | | | |
| 屋外 | 量水器13（散水用） | 1 | 水道局貸与品 | | | 量水器・ワックス(FRP製) 20 コンクリート巻 |
| | 量水器 50φ | 1 | 水道局貸与品 | | | |
| | 量水器BOX 50A | 1 | MC-2 小窓付 | | | |
| | キーステム水栓 | 2 | 13-F7 | LF-7RG-13-U | T200CSNR13 | |
| | ビニール製水栓柱 | 2 | VB内蔵管 H=900 | | | |
| | 量水器BOX（将来用） | 1 | 量水器・ワックス(FRP製) 20 コンクリート巻 | | | |

機器仕様一覧表

| 記 号 | 機 器 名 称 | 機 器 仕 様 | 数量 | 電気特性 | 設置場所 | 備 考 |
|-----------|------------|---|----|---------------------|--------|---|
| WHG 1 | 潜熱回収型ガス給湯器 | PS扉内設置形 20号 BL認定品 本体操作型サイレント式 ダイレクト着火方式 標準ガス消費量 41.6kW（都市ガス） | 53 | 単相100V 消費電力50W以下 | MB内 | 7-ス接続は本工事とする。 |
| WHG 2 | 潜熱回収型ガス給湯器 | PS扉内後方排気形 20号 BL認定品 本体操作型サイレント式 ダイレクト着火方式 標準ガス消費量 45.0kW（都市ガス） | 9 | 単相100V 消費電力50W以下 | MB内 | SUS製排気筒80φ×7m、90°エルボ80φ、排気トップ80φ 7-ス接続は本工事とする。 |
| WHG 3 | 潜熱回収型ガス給湯器 | 屋外壁掛形 20号 BL認定品 本体操作型サイレント式 ダイレクト着火方式 配管カバー（H600） 標準ガス消費量 41.6kW（都市ガス） | 1 | 単相100V 消費電力50W以下 | 外壁・集会所 | 7-ス接続は本工事とする。 |
| HB 12A | 放水口格納箱 | 埋込形 400W×500H×230D 放水口 65φ×180° | 7 | | PS内 | 銅板製焼付塗装 |
| TF 1 | 消火用充水タンク | SUS304製 800×800×1100H 有効500L以上 防眩塗装 耐震1.5Gチャンネル架台（H=500 溶融亜鉛メッキ仕上） | 1 | | 屋上 | タンク用コンクリート基礎は別途建築工事 |
| HF 1 | 送水口キャビネット | ステンレス製（SUS304）1.5t 使用圧力1.6MPa 送水口100×65×65（差込式） パタフライ弁100 逆止弁100 排水弁25×2 | 1 | | 屋外 | コンクリート基礎共本工事 |

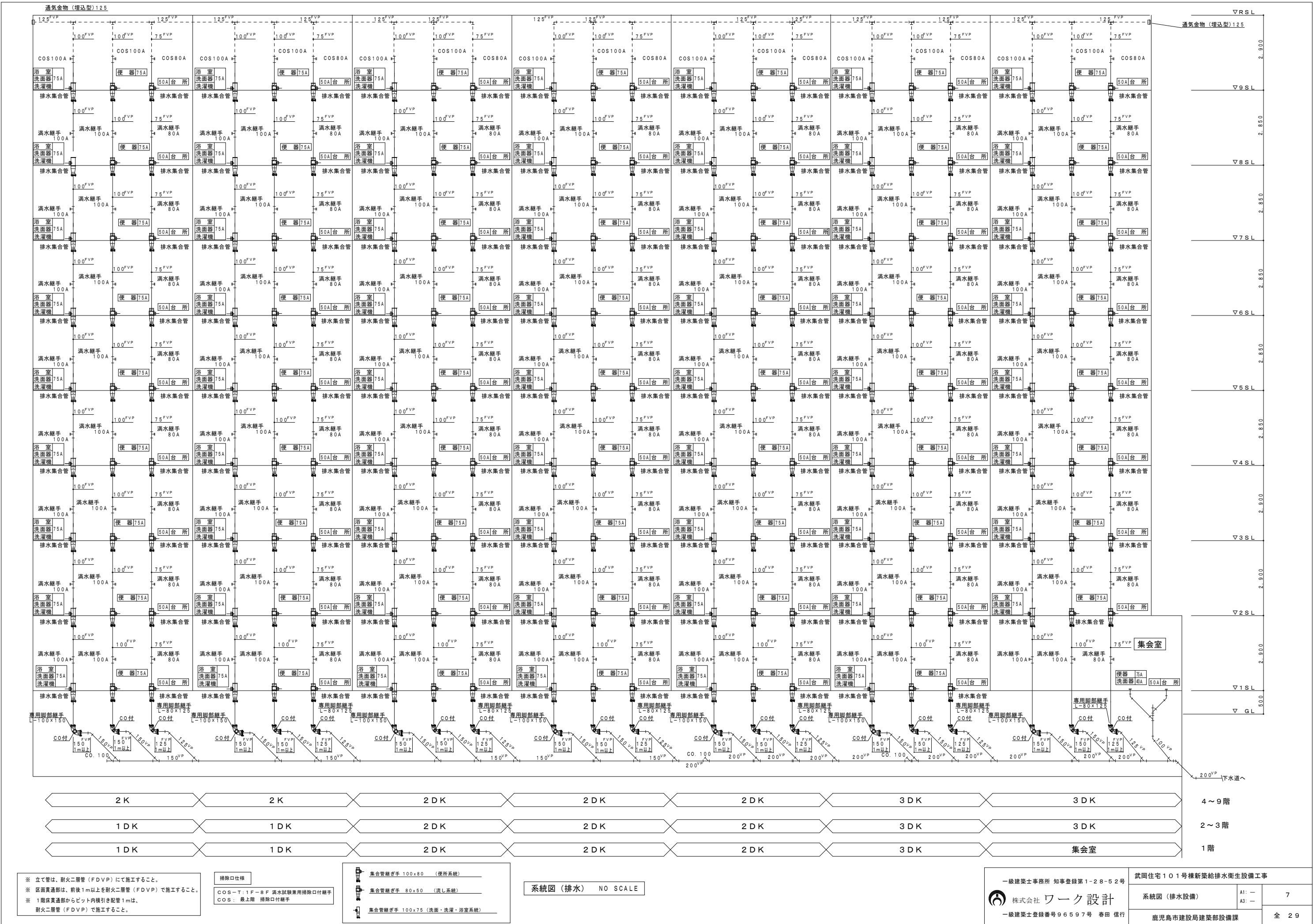
[illegible][illegible]

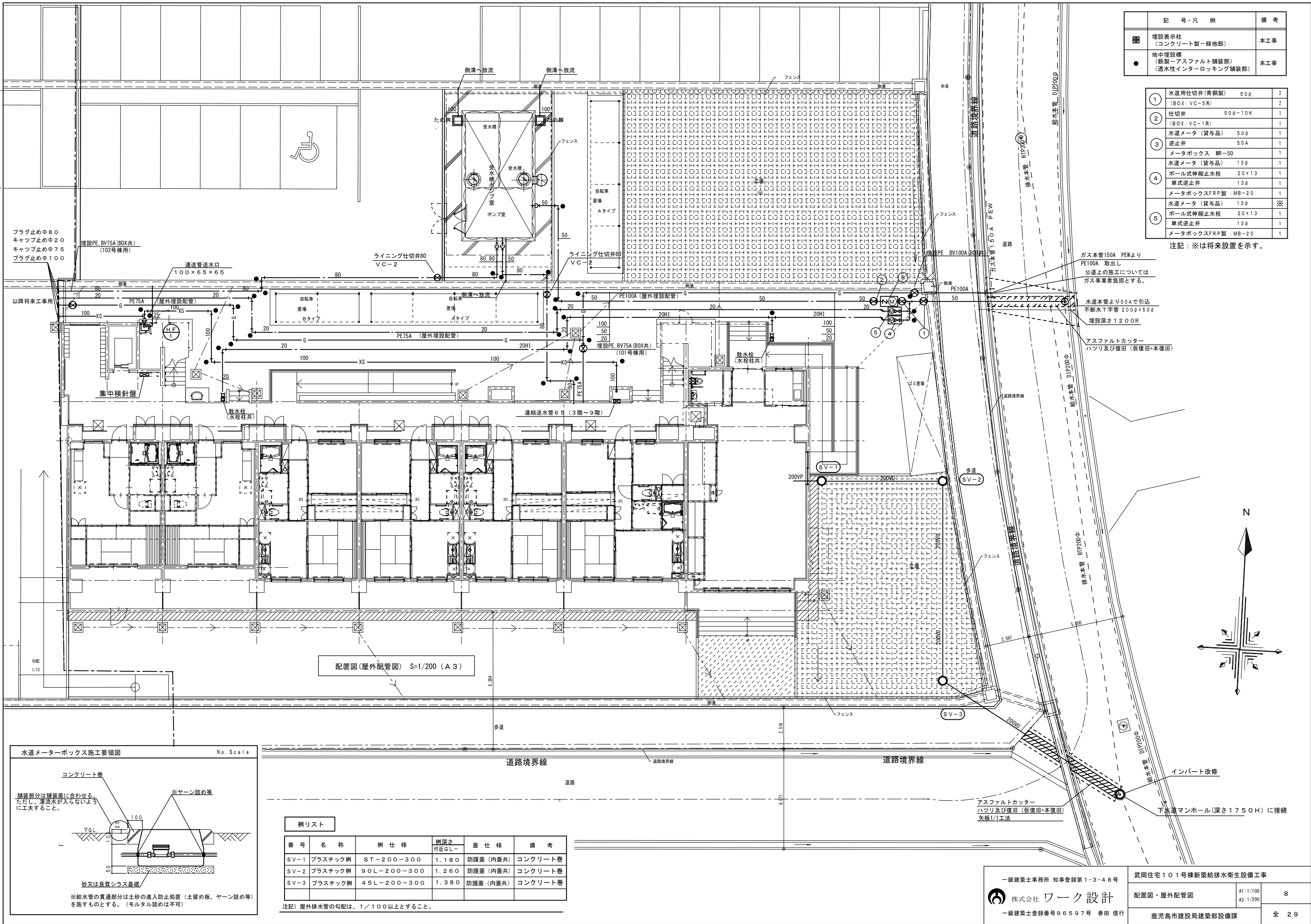
| 名 称 | 損失水頭 (m) |
|---|-------------|
| H 1 : 逆水口の損失 | 4.7 |
| H 2 : 主管及び管継手等の損失 | 15.8 |
| H 3 : 放水口の損失 | 1.0 |
| H 4 : ホースの損失 | 8.0 |
| H 5 : 実揚程 | 26.8 |
| H 6 : ノズル先端圧力 | 60.0 |
| H = 全揚程 | 116.3 |
| 116.3m \pm 1.14MPa \leq 1.6MPa - OK | |



| | | | | | | | |
|------|------|------|------|------|------|------|---------|
| 2 K | 2 K | 2 DK | 2 DK | 2 DK | 3 DK | 3 DK | 4 ~ 9 階 |
| 1 DK | 1 DK | 2 DK | 2 DK | 2 DK | 3 DK | 3 DK | 2 ~ 3 階 |
| 1 DK | 1 DK | 2 DK | 2 DK | 2 DK | 3 DK | 集会室 | 1 階 |

系統図（給水・ガス・連結送水管） NO SCALE





| | 記 号・凡 例 | 備 考 |
|--|--|-----|
| | 埋設表示柱 (コンクリート製-緑地部) | 本工事 |
| | 地中埋設管 (鉄製-アスファルト舗装部) (透水性インターロッキング舗装部) | 本工事 |

| | | | |
|---|----------------------------|---------|---|
| ① | 水道用仕切弁(青銅製) (BOX:VC-5共) | 50φ | 2 |
| ② | 仕切弁 (BOX:VC-1共) | 50φ-10K | 1 |
| ③ | 水道メータ(貨与品) | 50φ | 1 |
| ④ | 逆止弁 | 50A | 1 |
| ⑤ | メータボックス MR-50 | | 1 |
| | 水道メータ(貨与品) | 13φ | 1 |
| | ボール式伸縮止水栓 | 20×13 | 1 |
| | 単式逆止弁 | 13φ | 1 |
| | メータボックスFRP製:MB-20 | | 1 |
| | 水道メータ(貨与品) | 13φ | ※ |
| | ボール式伸縮止水栓 | 20×13 | 1 |
| | 単式逆止弁 | 13φ | 1 |
| | メータボックスFRP製:MB-20 | | 1 |

注記:※は将来設置を示す。

プラグ止めφ80
キャップ止めφ20
キャップ止めφ75
プラグ止めφ100

ガス本管150A PEWより
PE100A 取出し
公道上の施工については
ガス事業者負担とする。

水道本管より50Aで引込
不排水T字管 200φ×50φ
埋設深さ1200H

アスファルトカッター
ハツリ及び復旧(仮復旧+本復旧)

排水本管 RT200φ
排水本管 DIP200φ

排水本管 RT200φ
排水本管 DIP200φ

排水本管 RT200φ
排水本管 DIP200φ

排水本管 RT200φ
排水本管 DIP200φ

排水本管 RT200φ
排水本管 DIP200φ

排水本管 RT200φ
排水本管 DIP200φ

排水本管 RT200φ
排水本管 DIP200φ

排水本管 RT200φ
排水本管 DIP200φ

排水本管 RT200φ
排水本管 DIP200φ

排水本管 RT200φ
排水本管 DIP200φ

排水本管 RT200φ
排水本管 DIP200φ

排水本管 RT200φ
排水本管 DIP200φ

排水本管 RT200φ
排水本管 DIP200φ

排水本管 RT200φ
排水本管 DIP200φ

排水本管 RT200φ
排水本管 DIP200φ

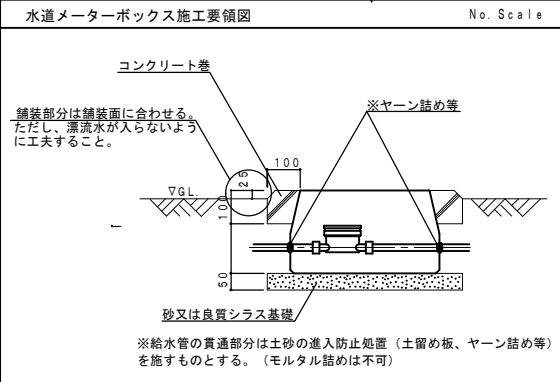
排水本管 RT200φ
排水本管 DIP200φ

排水本管 RT200φ
排水本管 DIP200φ

排水本管 RT200φ
排水本管 DIP200φ

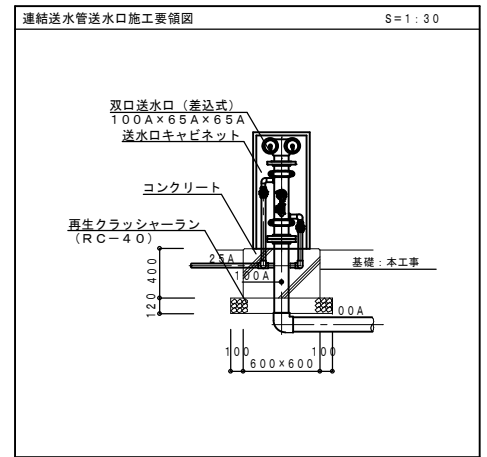
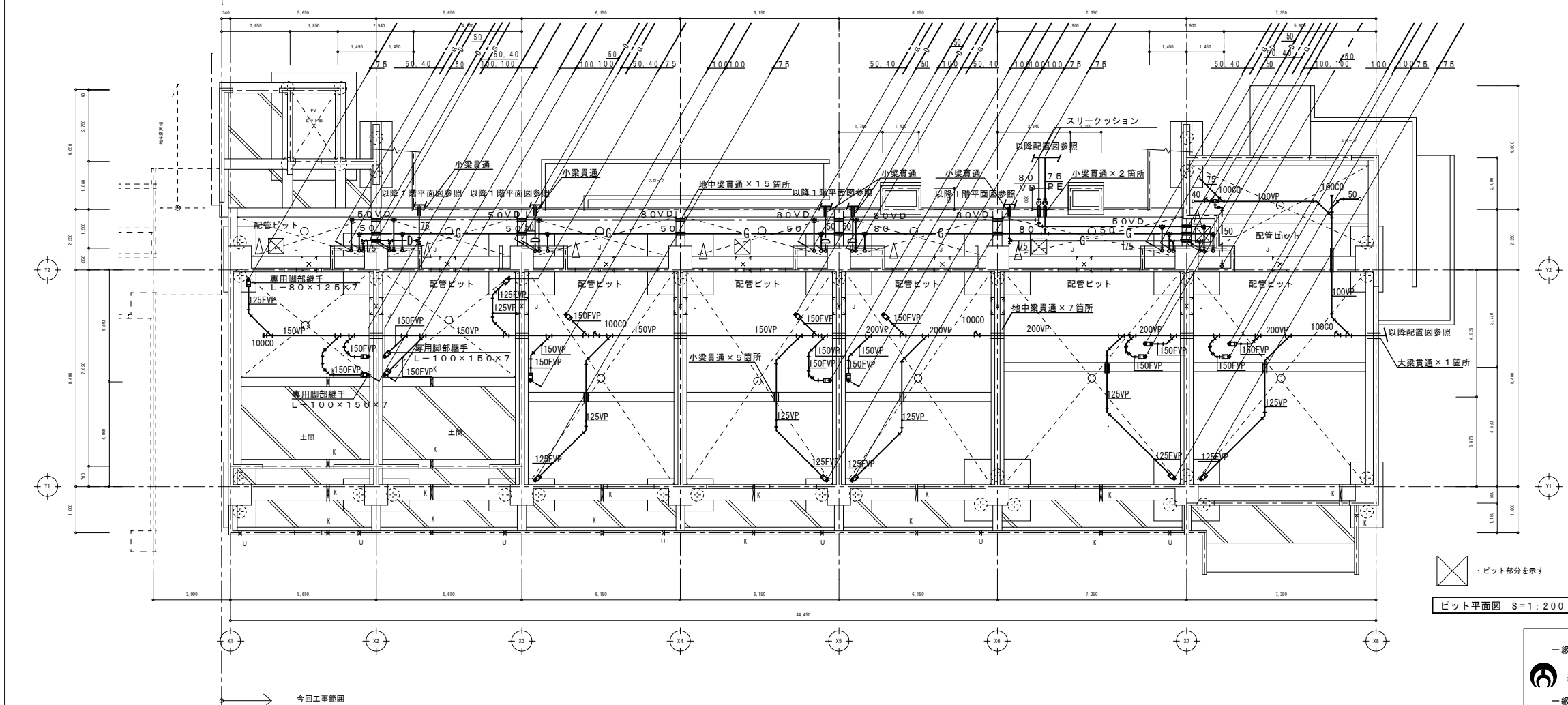
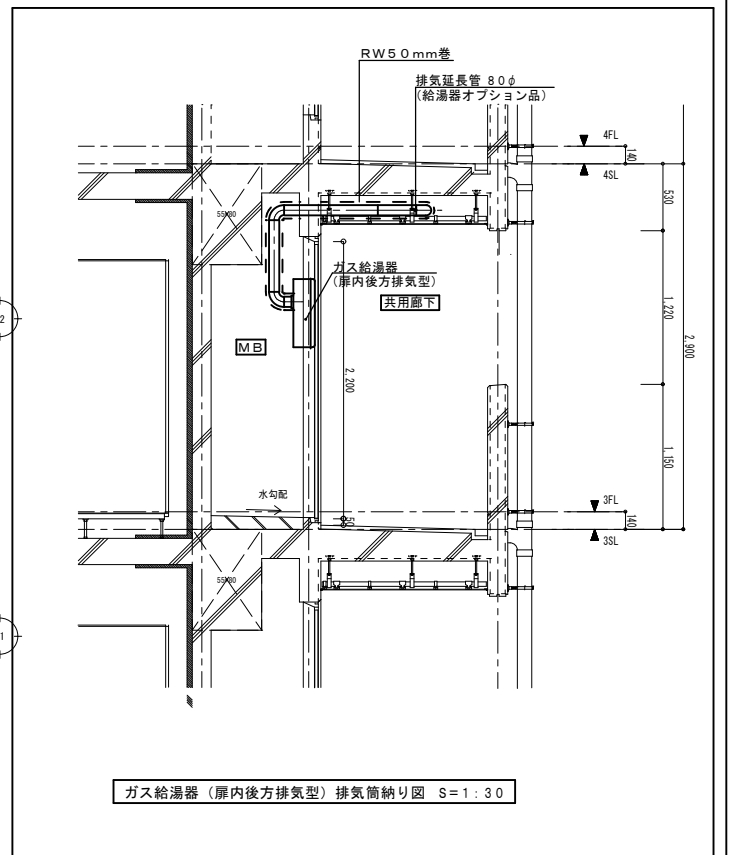
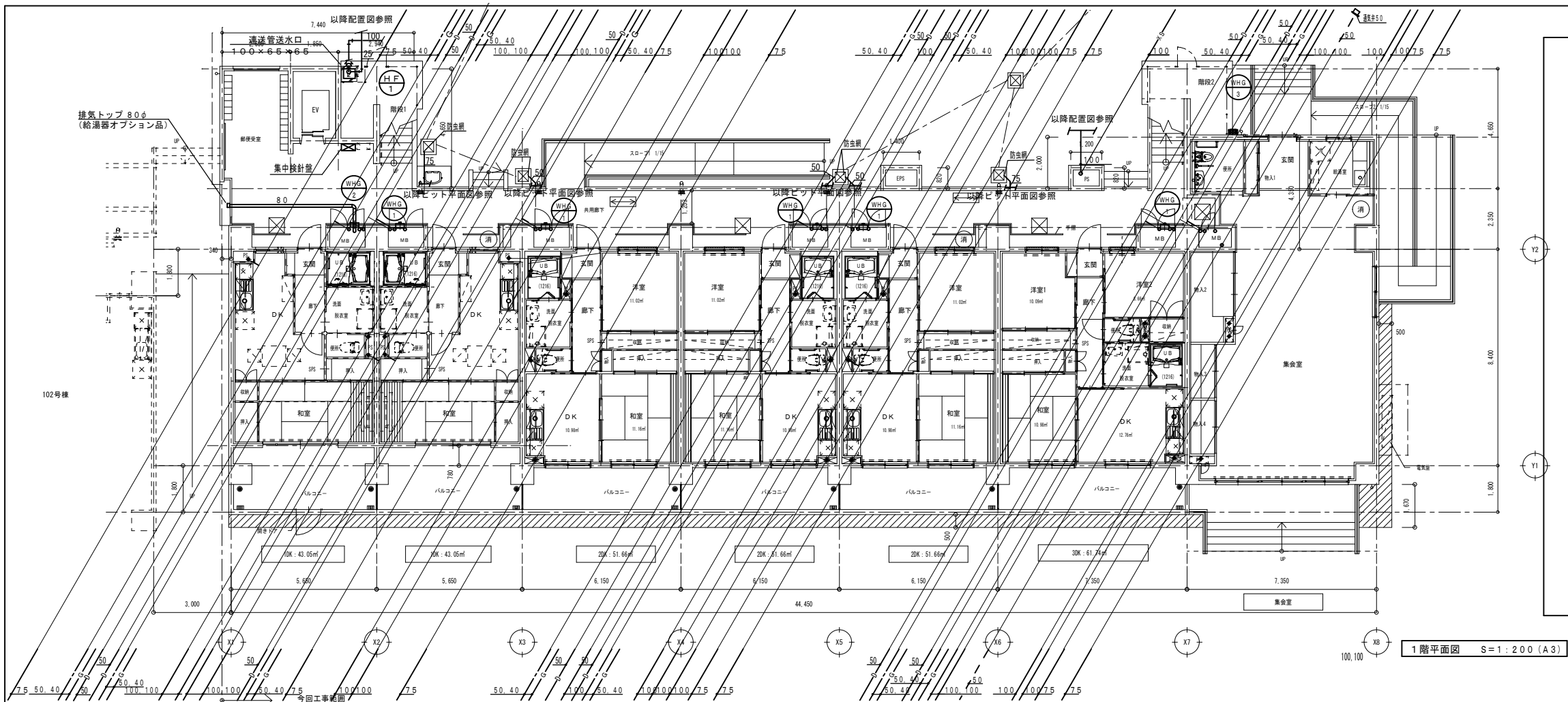
排水本管 RT200φ
排水本管 DIP200φ

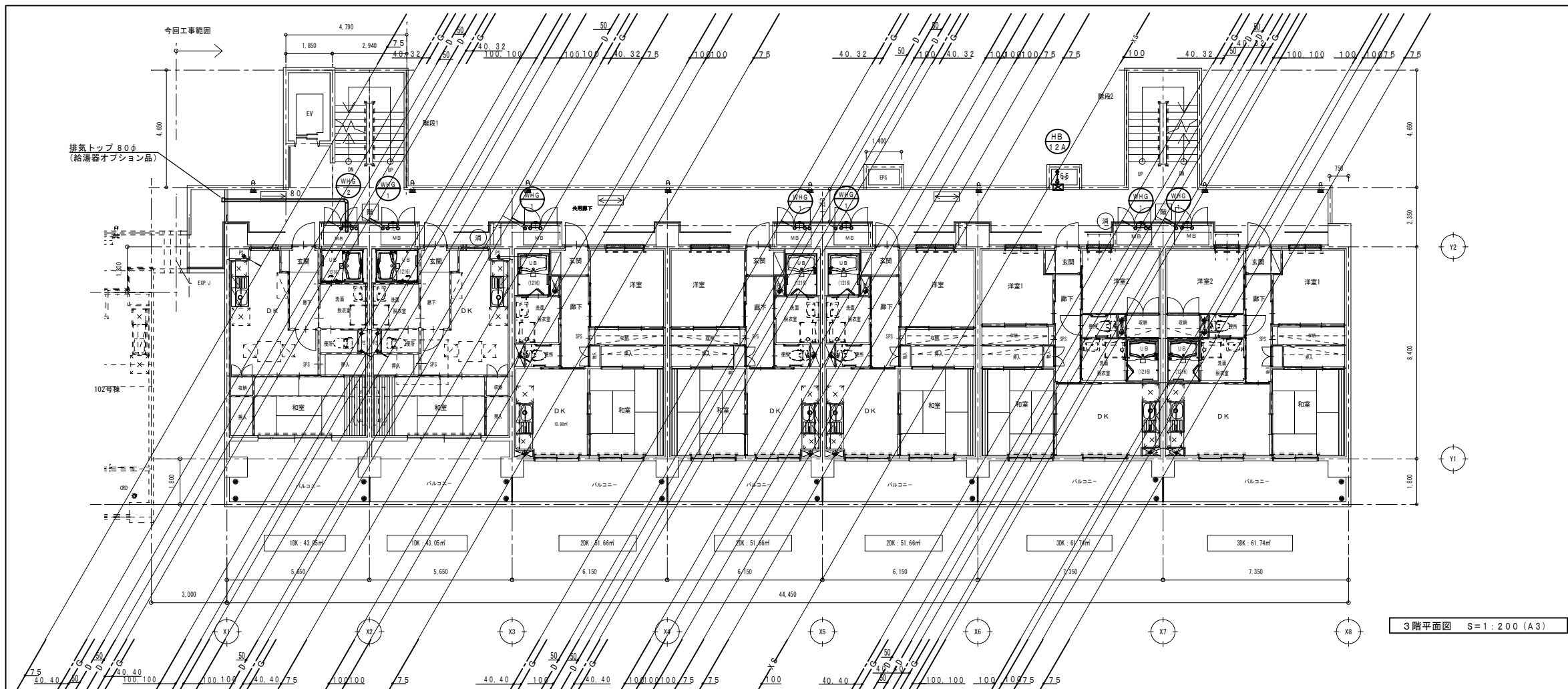
排水本管 RT200φ
排水本管 DIP200φ



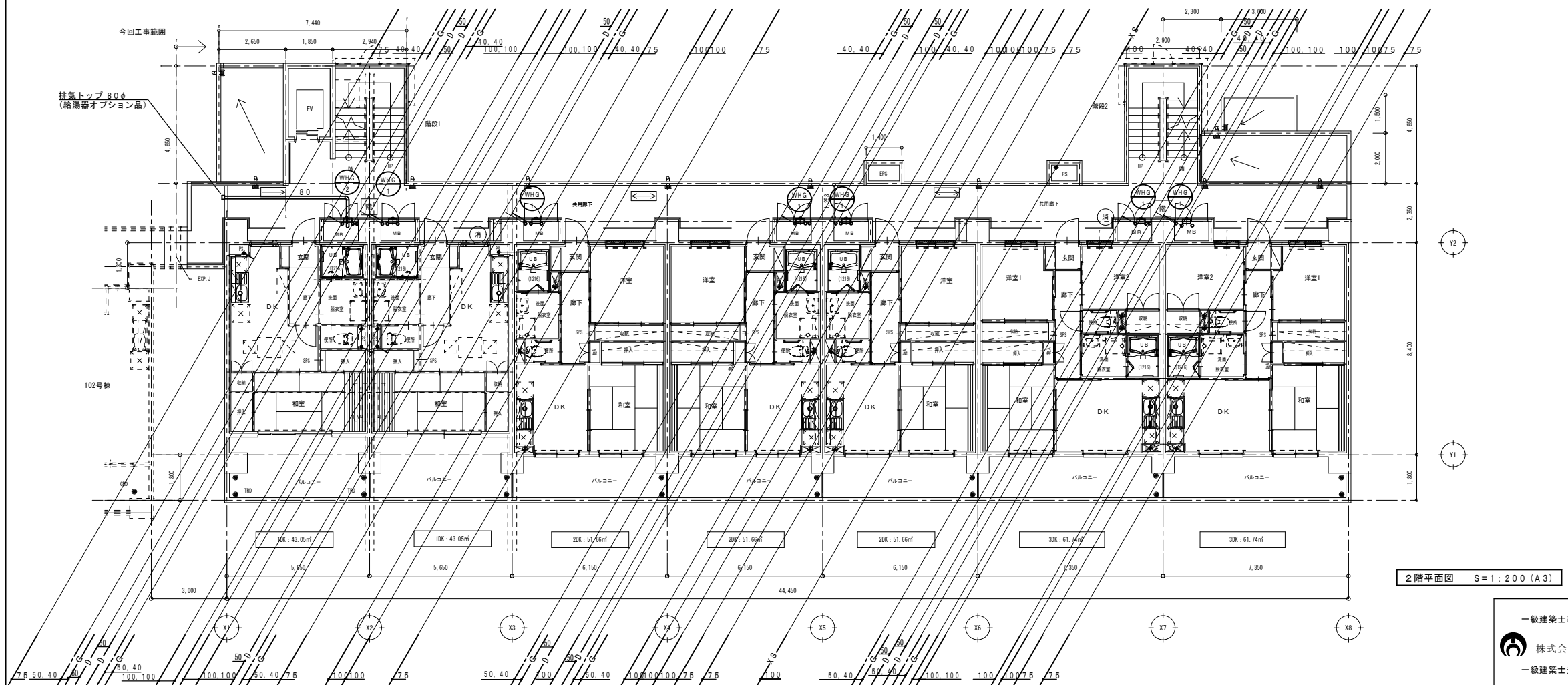
| 番号 | 名 称 | 樹 仕 様 | 樹 深 さ 付近GL- | 蓋 仕 様 | 備 考 |
|------|---------|-------------|----------------|----------|---------|
| SV-1 | プラスチック樹 | ST-200-300 | 1,180 | 防護蓋(内蓋共) | コンクリート巻 |
| SV-2 | プラスチック樹 | 90L-200-300 | 1,260 | 防護蓋(内蓋共) | コンクリート巻 |
| SV-3 | プラスチック樹 | 45L-200-300 | 1,380 | 防護蓋(内蓋共) | コンクリート巻 |

注記) 屋外排水管の勾配は、1/100以上とすること。




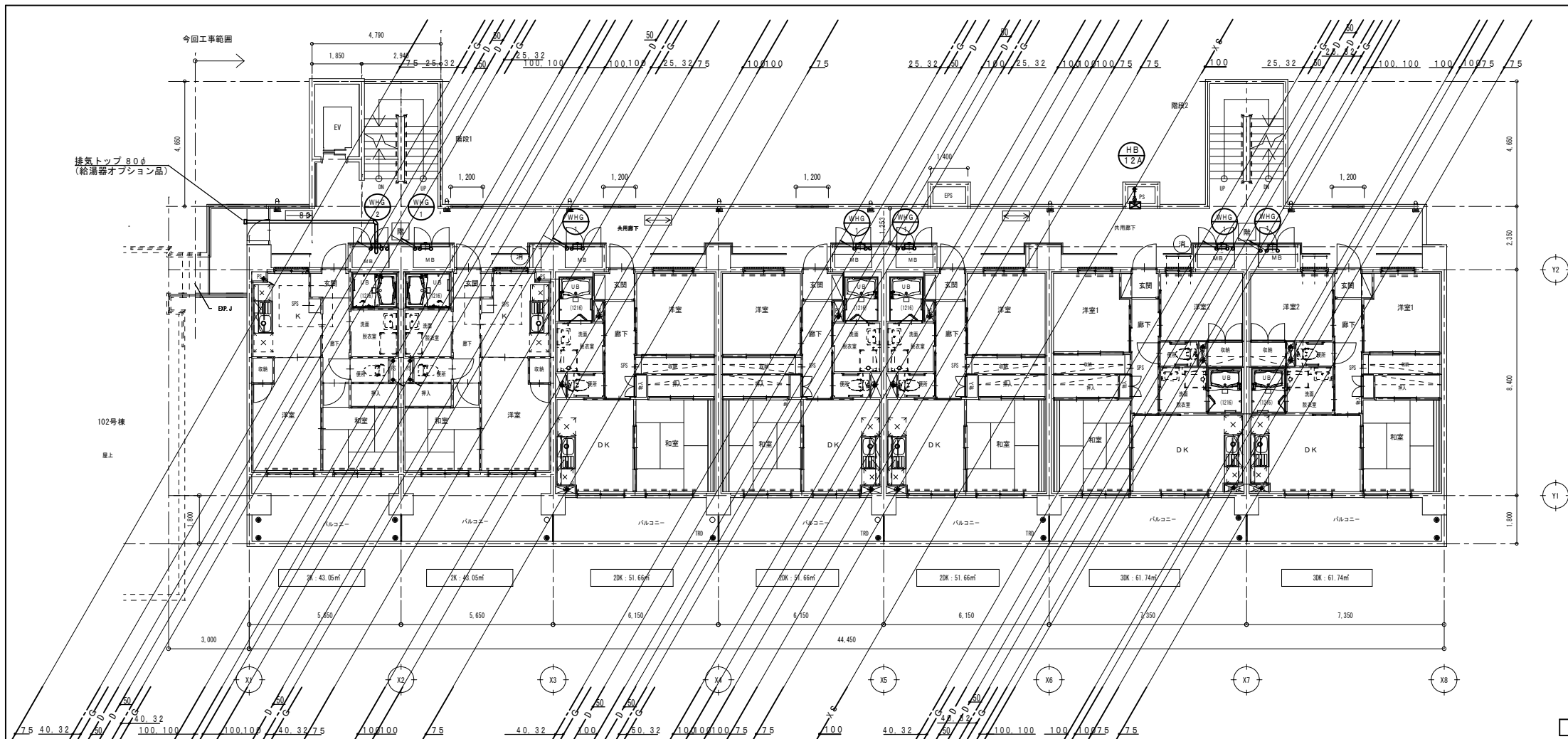


3階平面図 S=1:200 (A3)

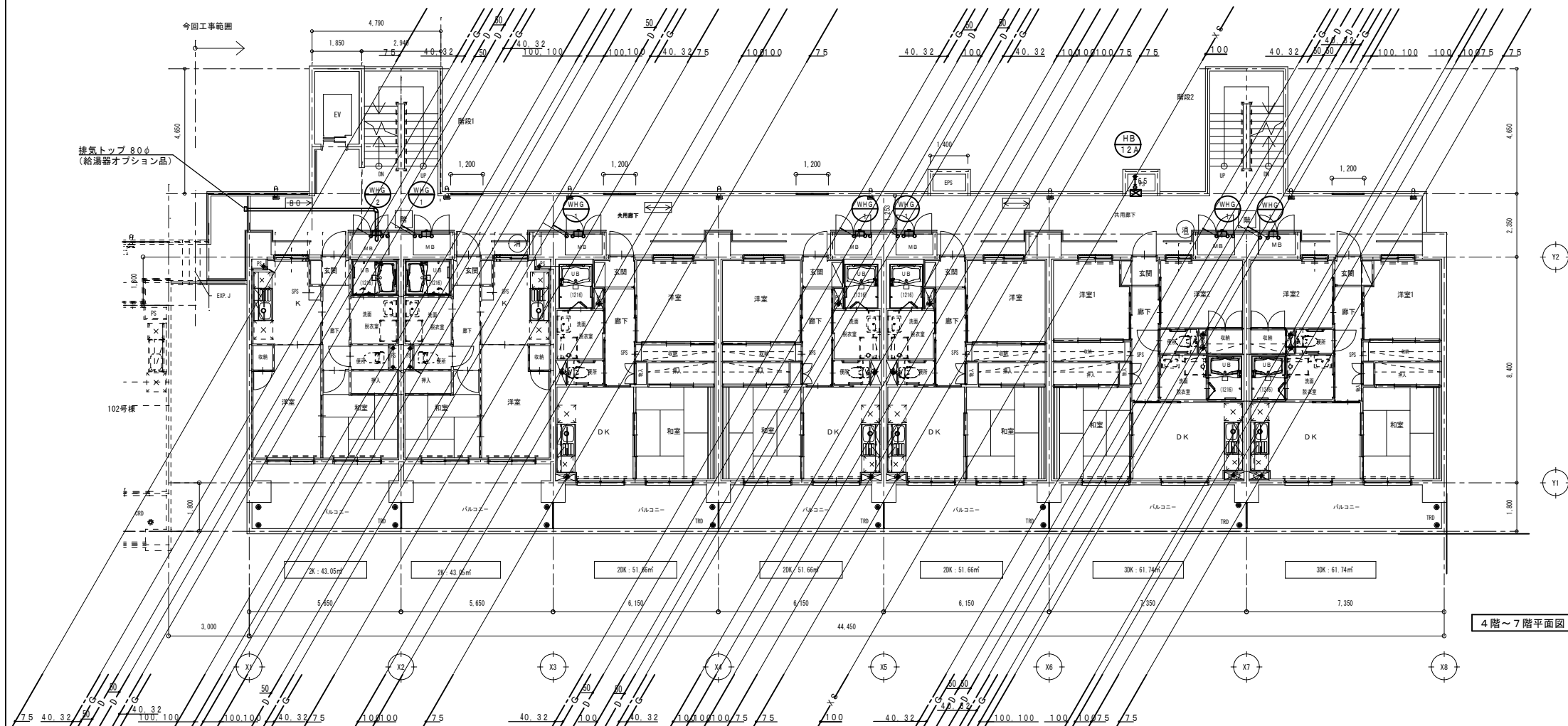


2階平面図 S=1:200 (A3)

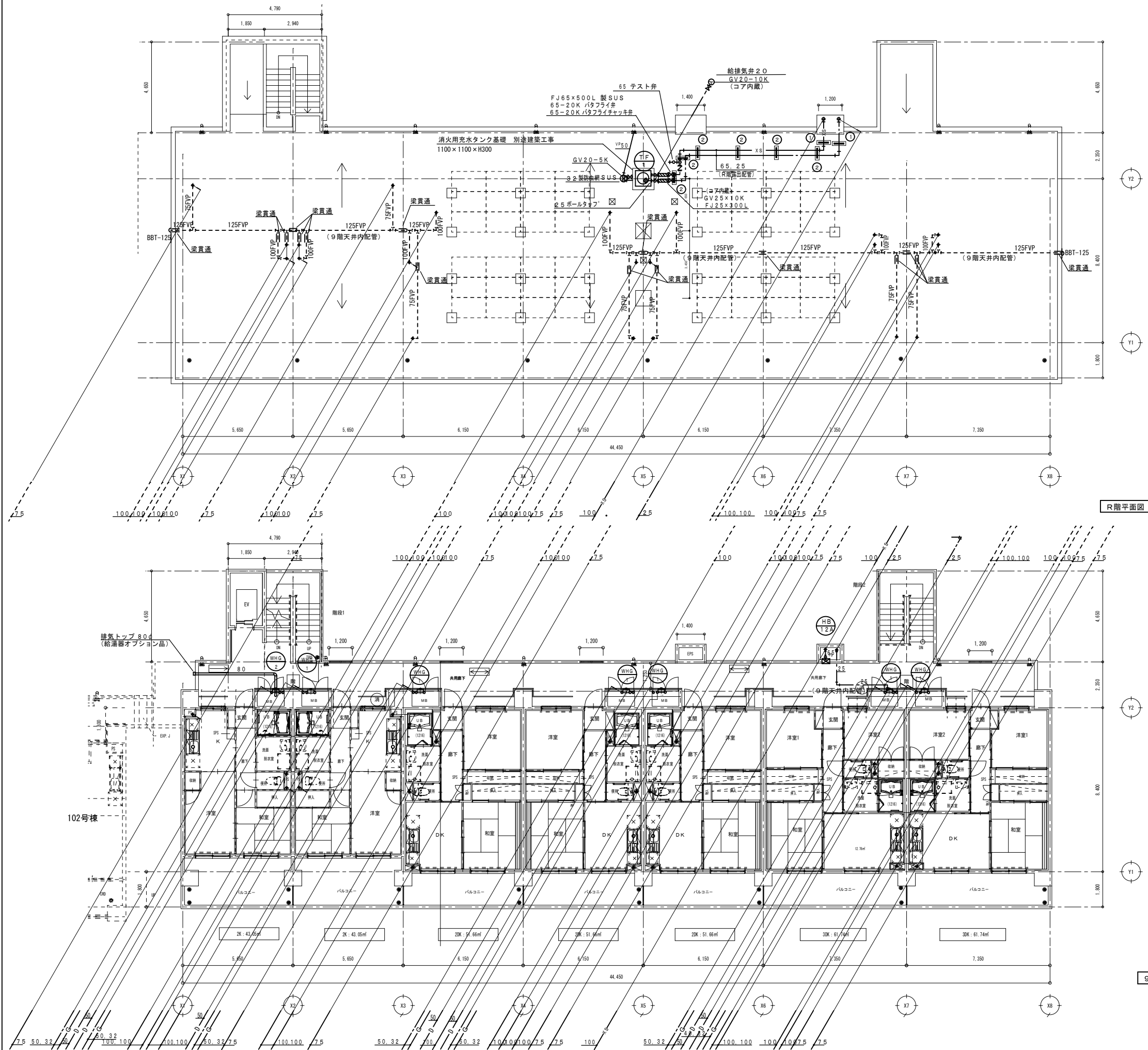
| | | | | |
|--|-----------------------|----------------------|----------------------|------|
| 一級建築士事務所 知事登録第1-3-48号 | | 武岡住宅101号棟新築給排水衛生設備工事 | | |
|  株式会社 ワーク設計 | 一級建築士登録番号96597号 春田 信行 | 2階・3階平面図 | A1:1/100 A3:1/200 | 10 |
| | | 鹿児島市建設局建築部設備課 | | 全 29 |



8階平面図 S=1:200 (A3)



4階～7階平面図 S=1:200 (A3)

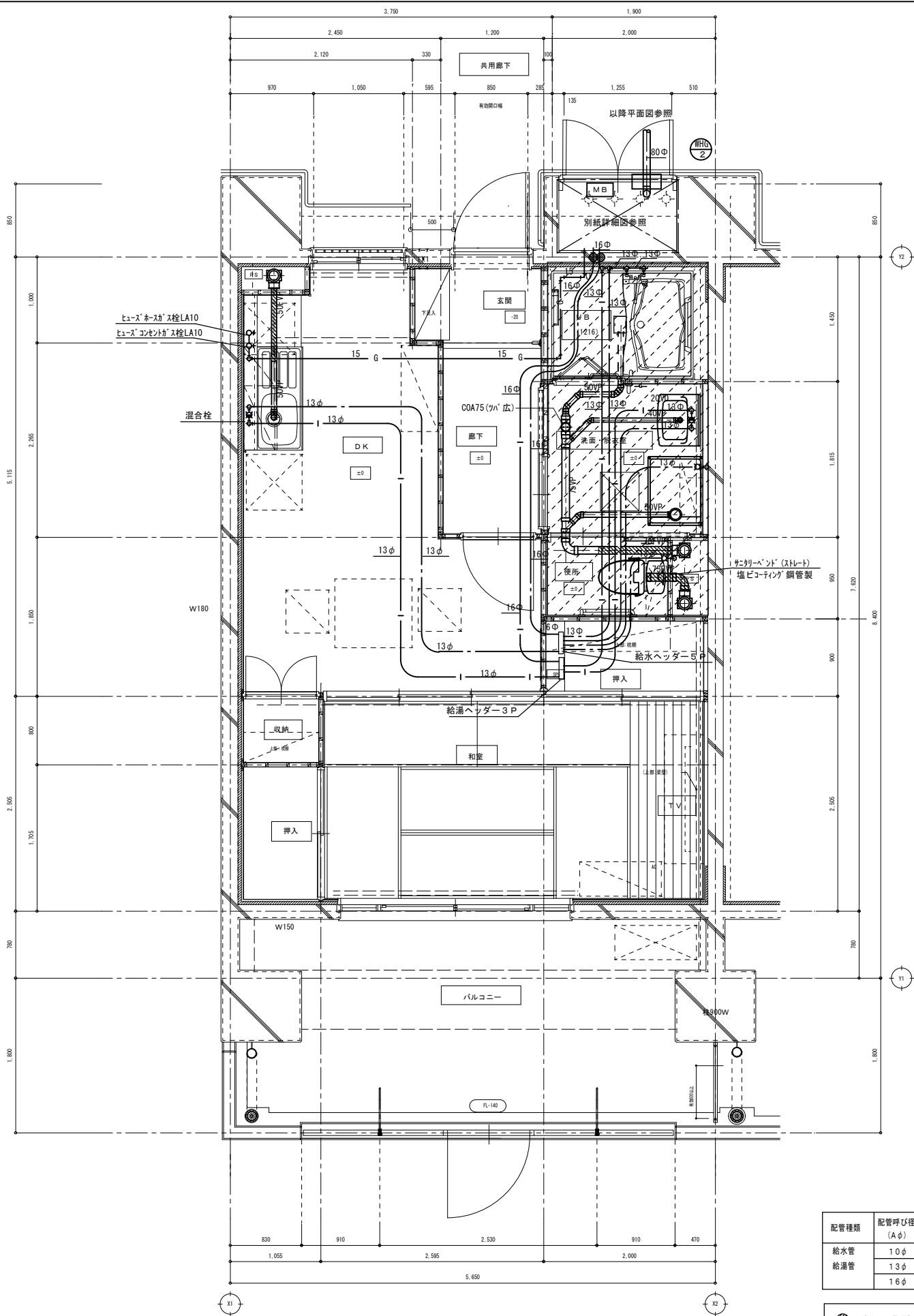


| 配管架台リスト (参考) | | | | |
|--------------|-----------|-----------------|----|------|
| 記号 | 架台寸法 | コンクリート基礎寸法 | 数量 | 架台姿図 |
| ① | 300W×700H | 300W× 500L×150H | 2 | |
| ② | 500W×700H | 300W× 700L×150H | 6 | |
| ③ | 800W×700H | 300W×1000L×150H | - | |

注1) 屋外設置架台は、SUS製又は溶融亜鉛メッキとし、屋内設置架台は錆止2回塗とする。
注2) 屋内設置架台はコンクリート基礎不要とする。(床にアンカーボルト止)

R階平面図 S=1:200 (A3) 注) 特記なき構造体の貫通は、梁貫通とする。

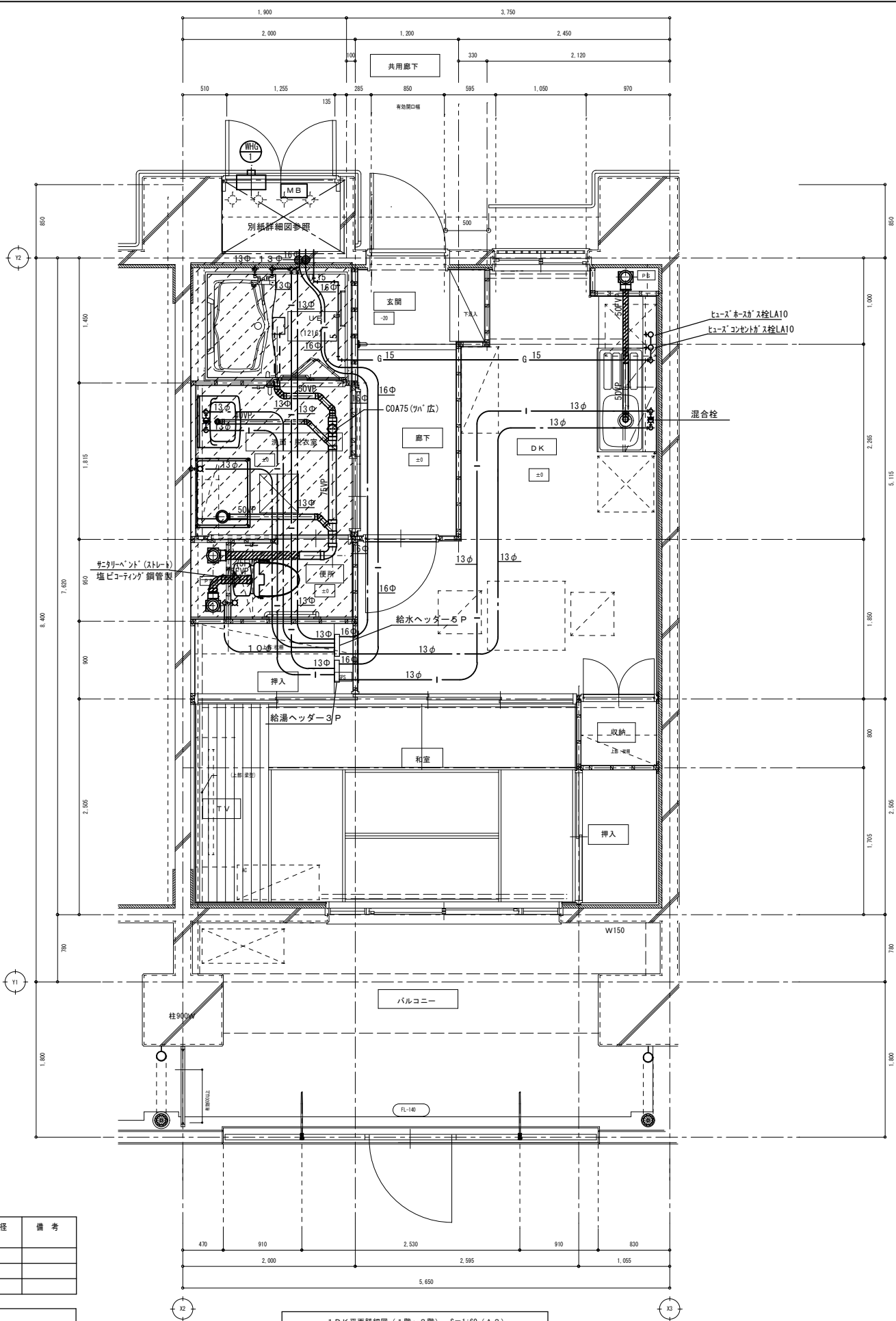
9階平面図 S=1:200 (A3)



1DK平面詳細図（1階～3階） S=1:60（A3）

| 配管種類 | 配管呼び径 (Aφ) | さや管呼び径 (Bφ) | 備 考 |
|------|---------------|----------------|-----|
| 給水管 | 10φ | (22) | |
| 給湯管 | 13φ | (22) | |
| | 16φ | (28) | |

●：防火区画貫通部材
旧建設省（現国土交通省）
版住指発第263号 B C J 認定工法
日本消防設備安全センター性能評定品



1DK平面詳細図（1階～3階） S=1:60（A3）

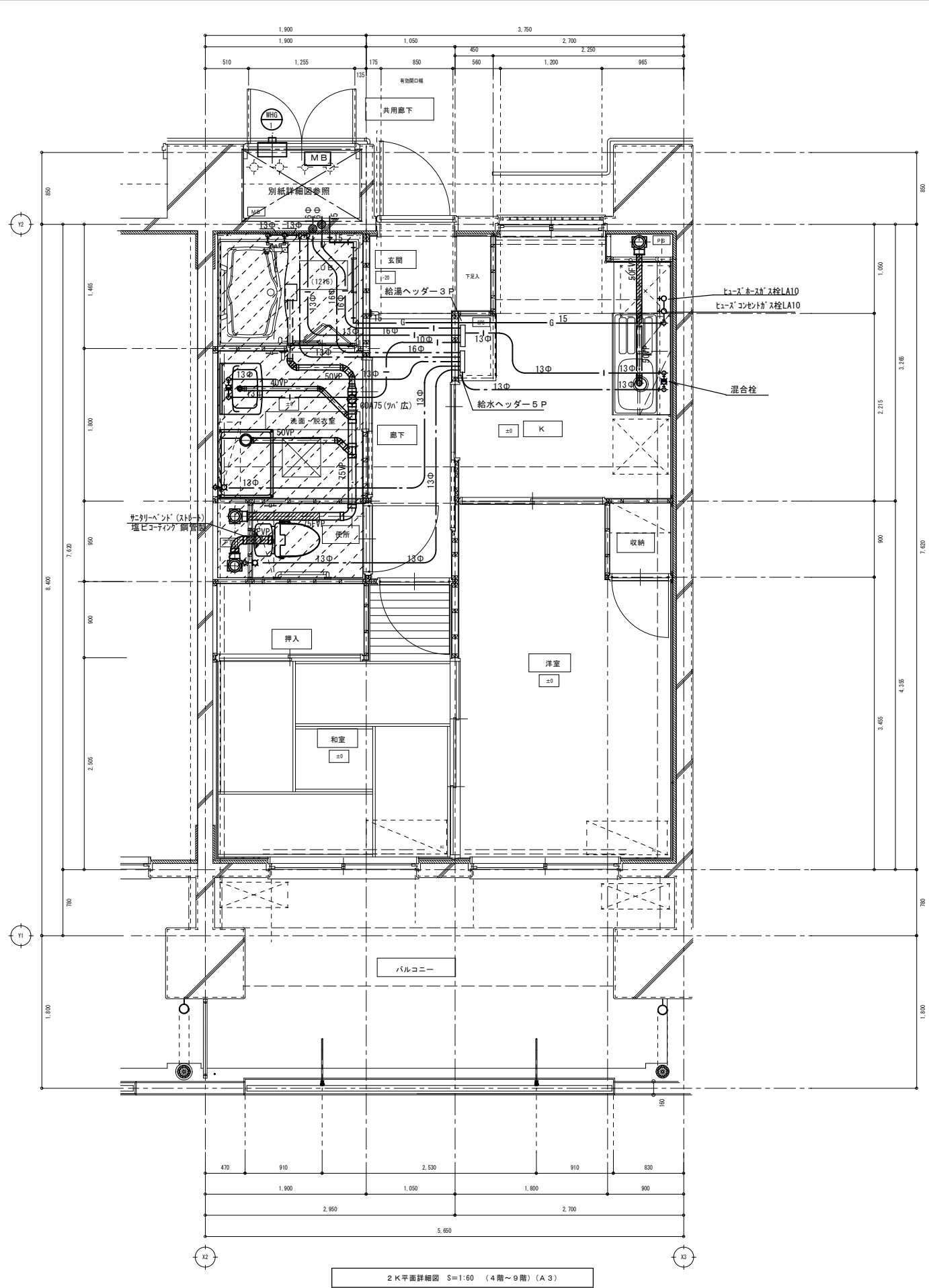
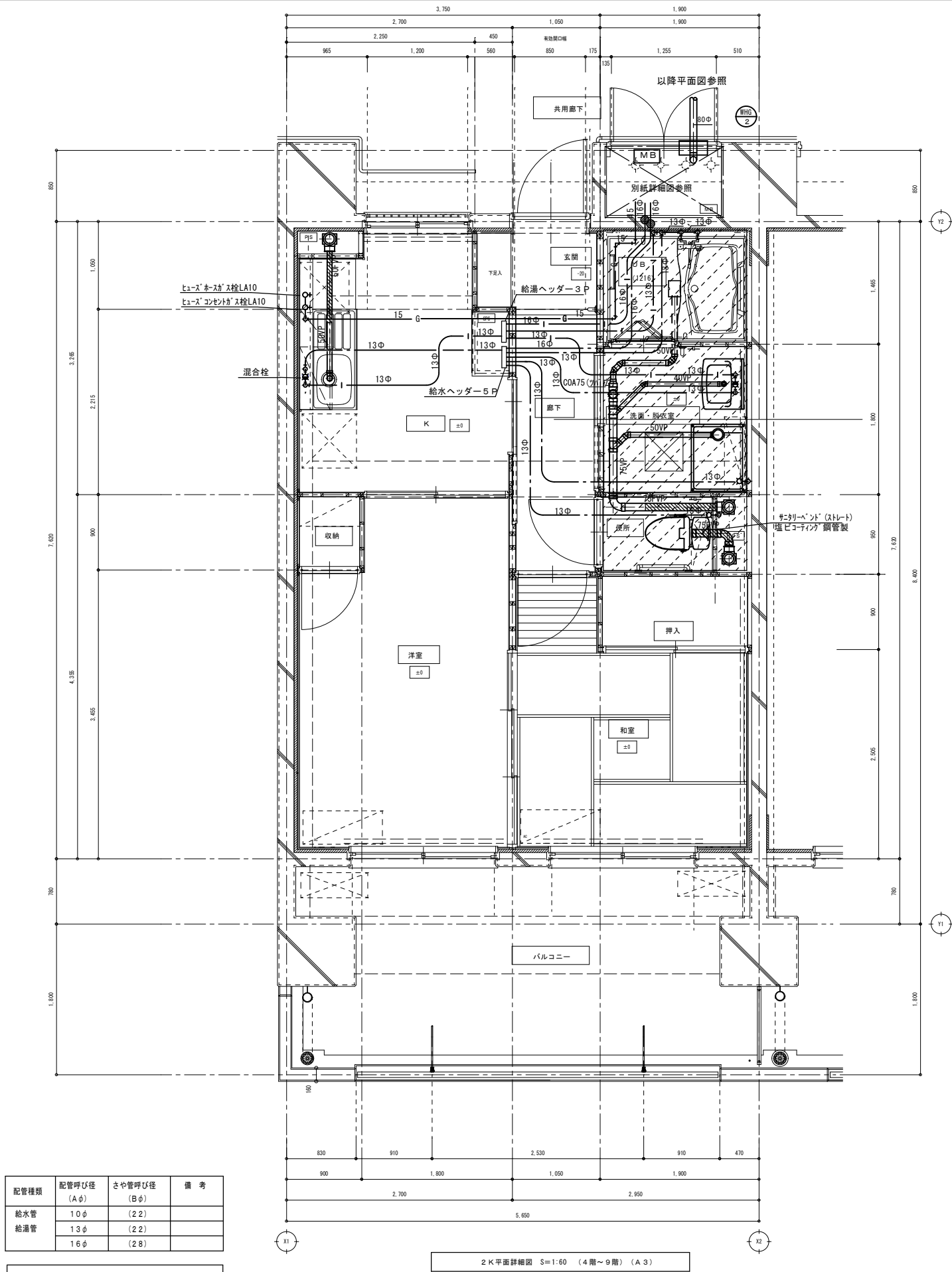
ハチで示す排水管は耐火二層管とする。
（床スラブ貫通部より1.0m以内）
ハチで示す部分はスリッ下がりを示す。

一級建築士事務所 知事登録第1-3-48号
株式会社 ワーク設計
一級建築士登録番号96597号 春田 信行

武岡住宅101号棟新築給排水衛生設備工事
平面詳細図（1DK）
鹿児島市建設局建築部設備課

A1: 1/30
A3: 1/60

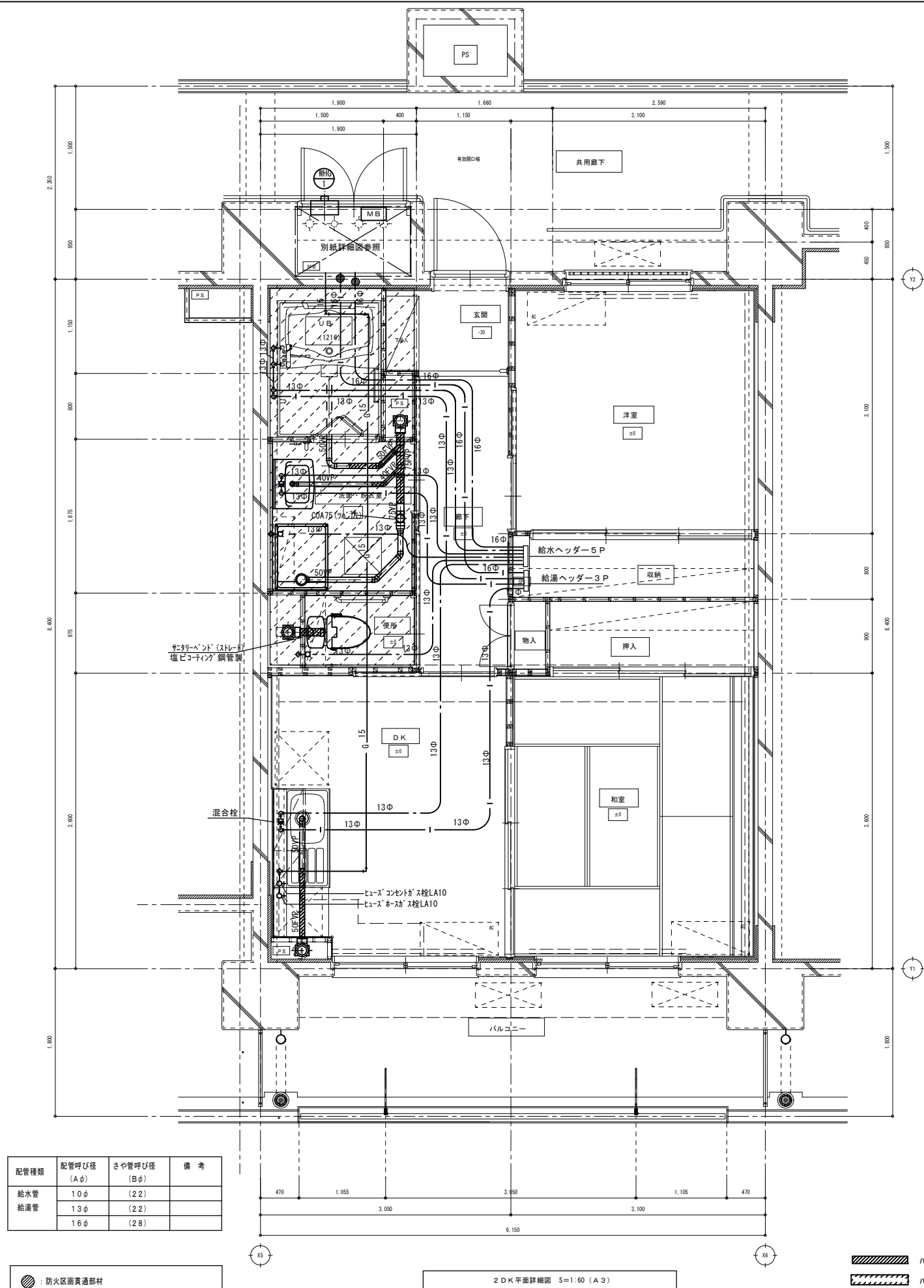
13
全 29



| 配管種類 | 配管呼び径 (Aφ) | さや管呼び径 (Bφ) | 備 考 |
|------|---------------|----------------|-----|
| 給水管 | 10φ | (22) | |
| 給湯管 | 13φ | (22) | |
| | 16φ | (28) | |

● : 防火区画貫通部材
旧建設省 (現国土交通省)
居住指第263号 B C J 認定工法
日本消防設備安全センター性能評定品

ハッチで示す排水管は耐火二層管とする。
(床スラブ貫通部より1.0m以内)
ハッチで示す部分はスラブ下がりを示す。

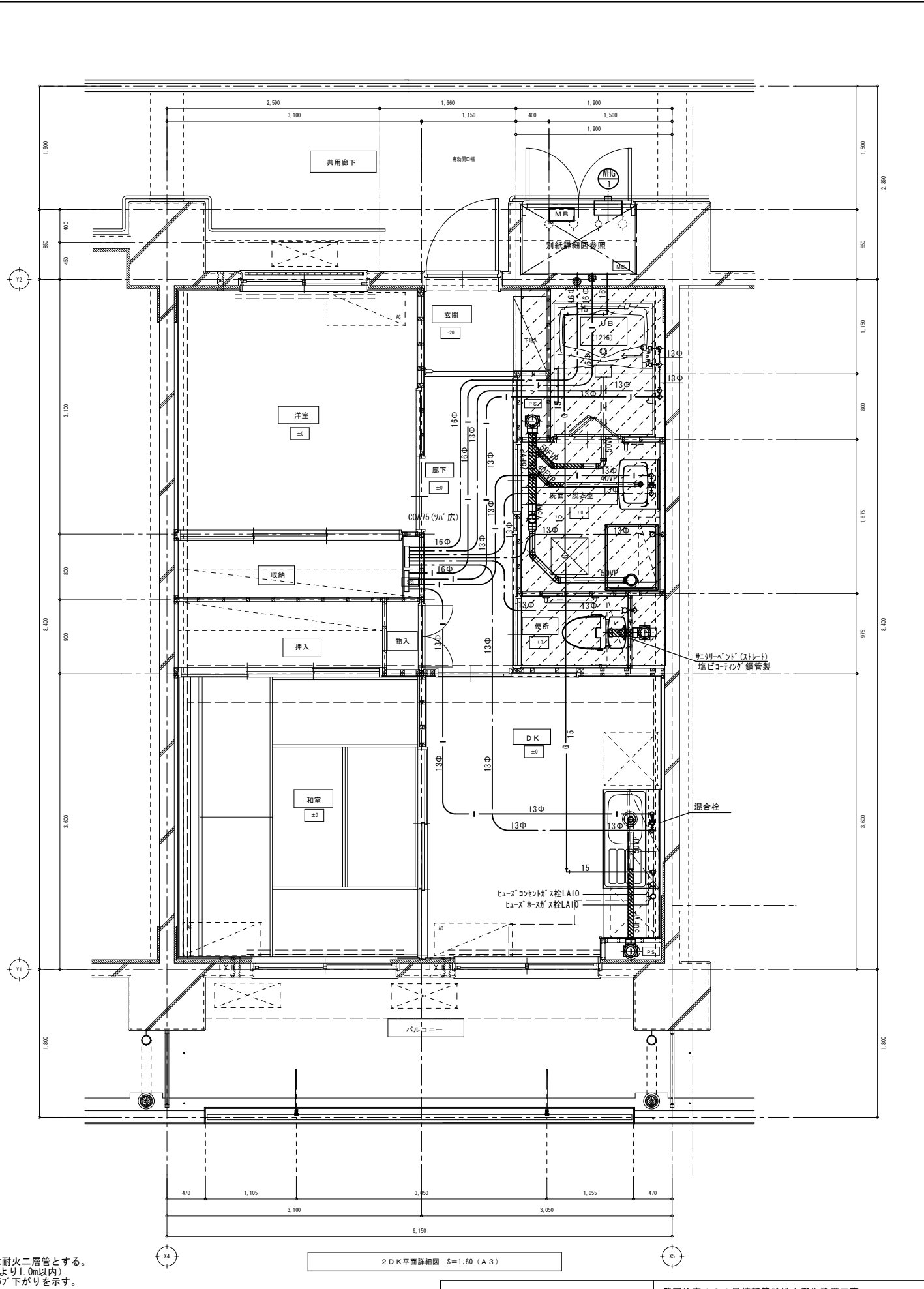


| 配管種類 | 配管呼び径 (Aφ) | さや管呼び径 (Bφ) | 備 考 |
|------|---------------|----------------|-----|
| 給水管 | 10φ | (22) | |
| 給湯管 | 13φ | (22) | |
| | 16φ | (28) | |

：防火区画貫通部材
旧建設省（現国土交通省）
居住指第263号 B C J 認定工法
日本消防設備安全センター性能評定品

2DK平面詳細図 S=1:60 (A3)

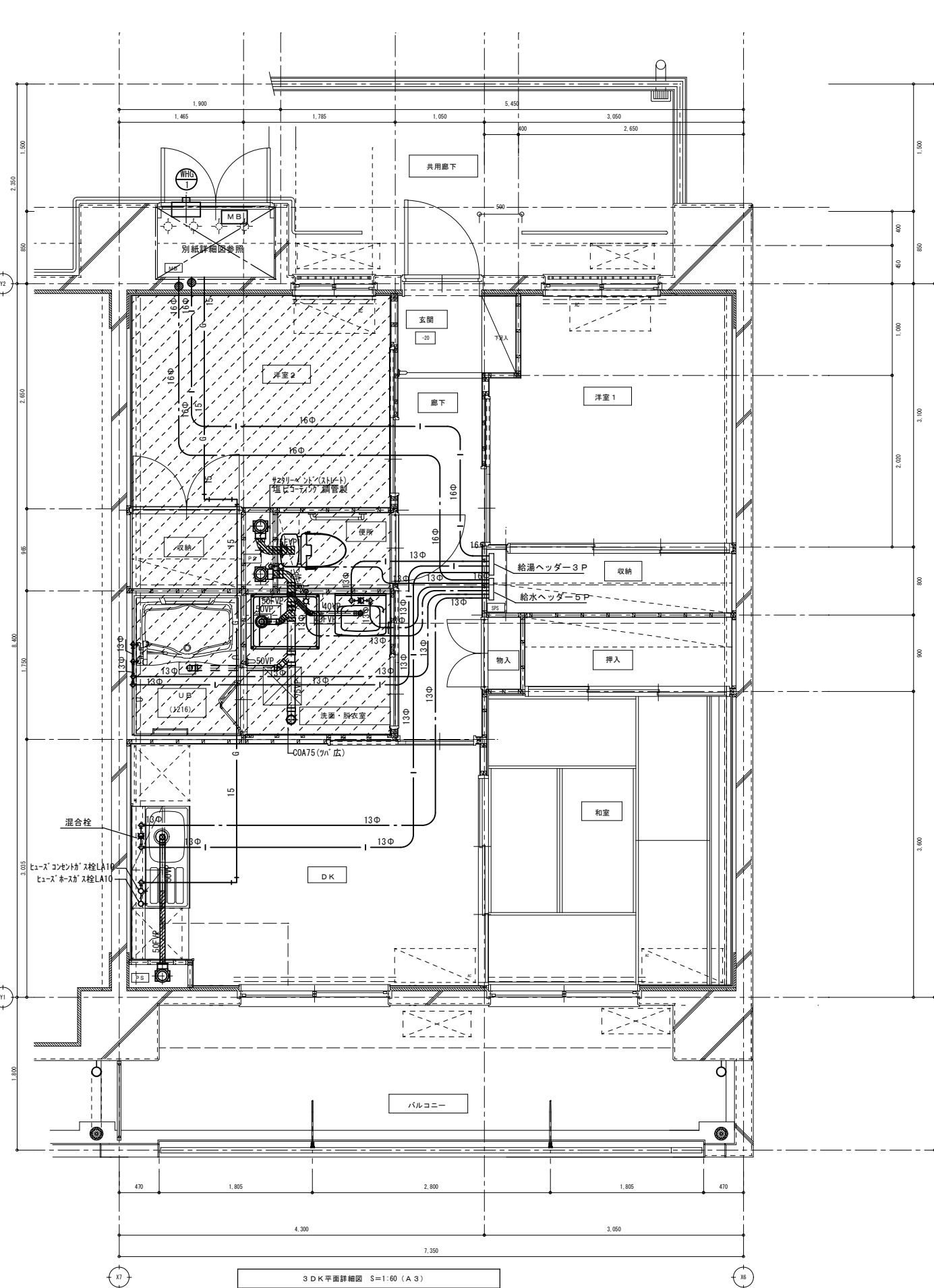
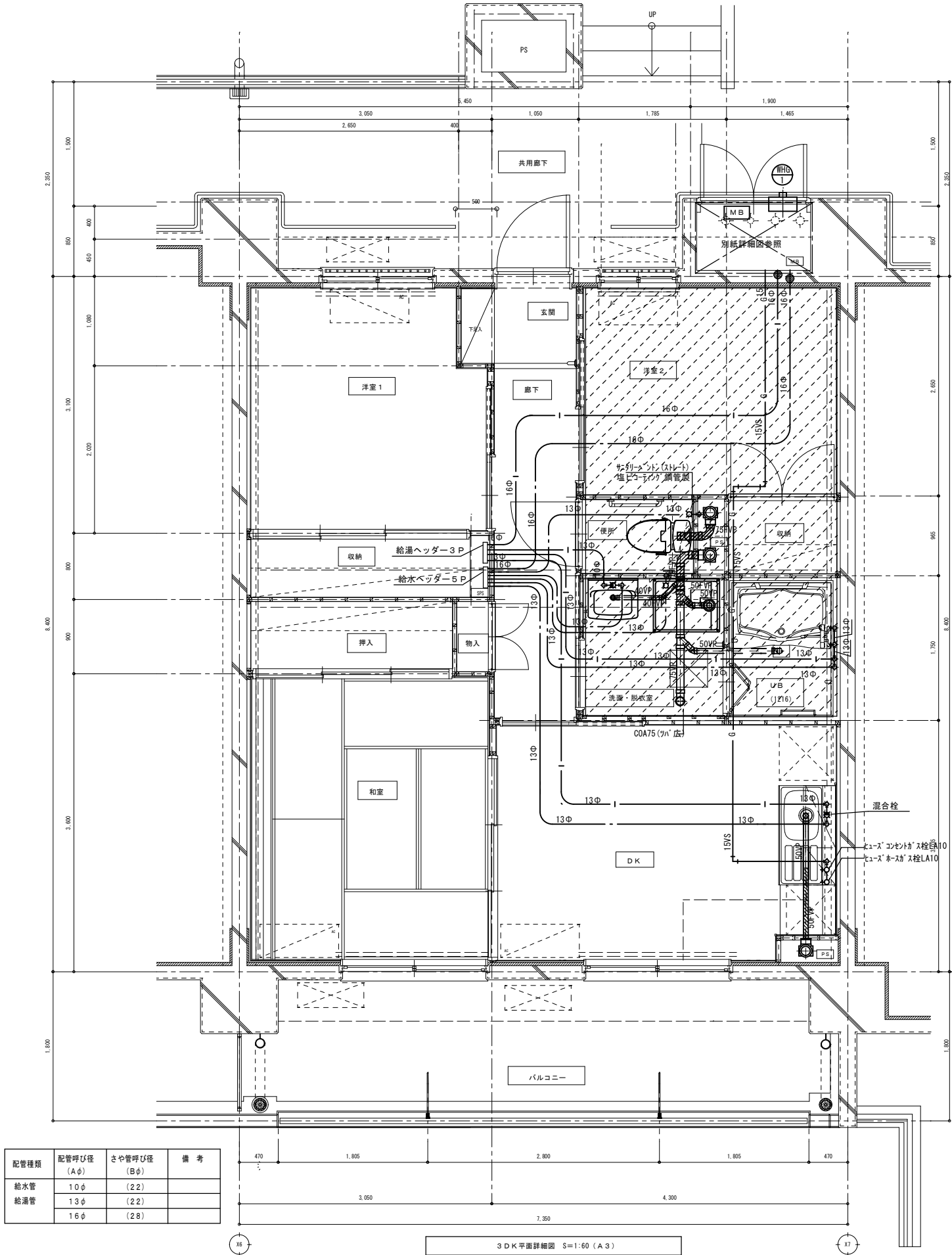
ハッチで示す排水管は耐火二層管とする。
(床スラブ貫通部より1.0m以内)
ハッチで示す部分はスラブ下がりを示す。



| 配管種類 | 配管呼び径 (Aφ) | さや管呼び径 (Bφ) | 備 考 |
|------|---------------|----------------|-----|
| 給水管 | 10φ | (22) | |
| 給湯管 | 13φ | (22) | |
| | 16φ | (28) | |

：防火区画貫通部材
旧建設省（現国土交通省）
居住指第263号 B C J 認定工法
日本消防設備安全センター性能評定品

2DK平面詳細図 S=1:60 (A3)



| 配管種類 | 配管呼び径 (Aφ) | さや管呼び径 (Bφ) | 備 考 |
|------|---------------|----------------|-----|
| 給水管 | 10φ | (22) | |
| 給湯管 | 13φ | (22) | |
| | 16φ | (28) | |

：防火区画貫通部材
旧建設省（現国土交通省）
販注指発第263号 B C J 認定工法
日本消防設備安全センター性能評定品

ハッチで示す排水管は耐火二層管とする。
（床スラブ貫通部より1.0m以内）
ハッチで示す部分はスラブ下がりを示す。

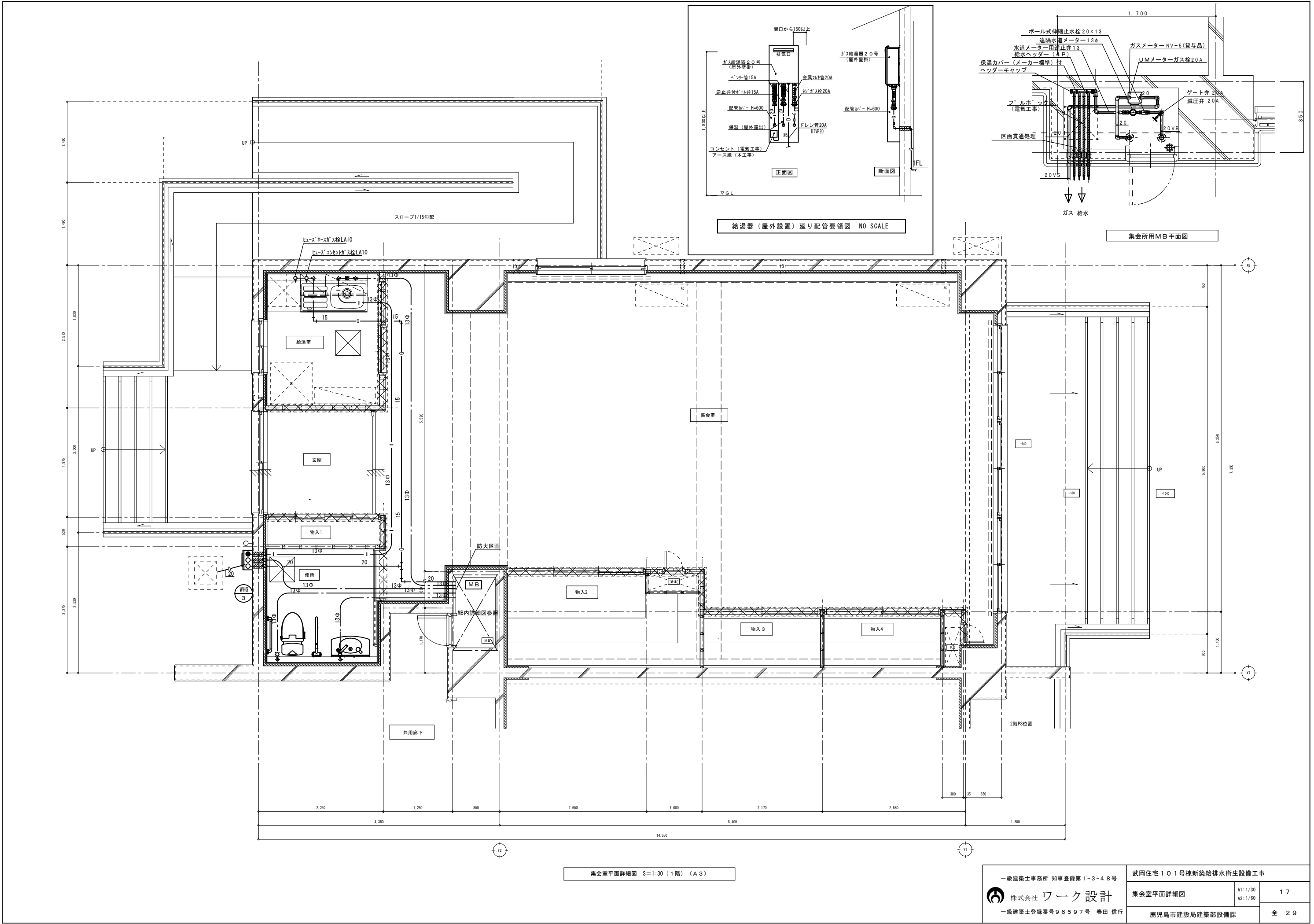
一級建築士事務所 知事登録第1-3-48号
株式会社 ワーク設計
一級建築士登録番号96597号 春田 信行

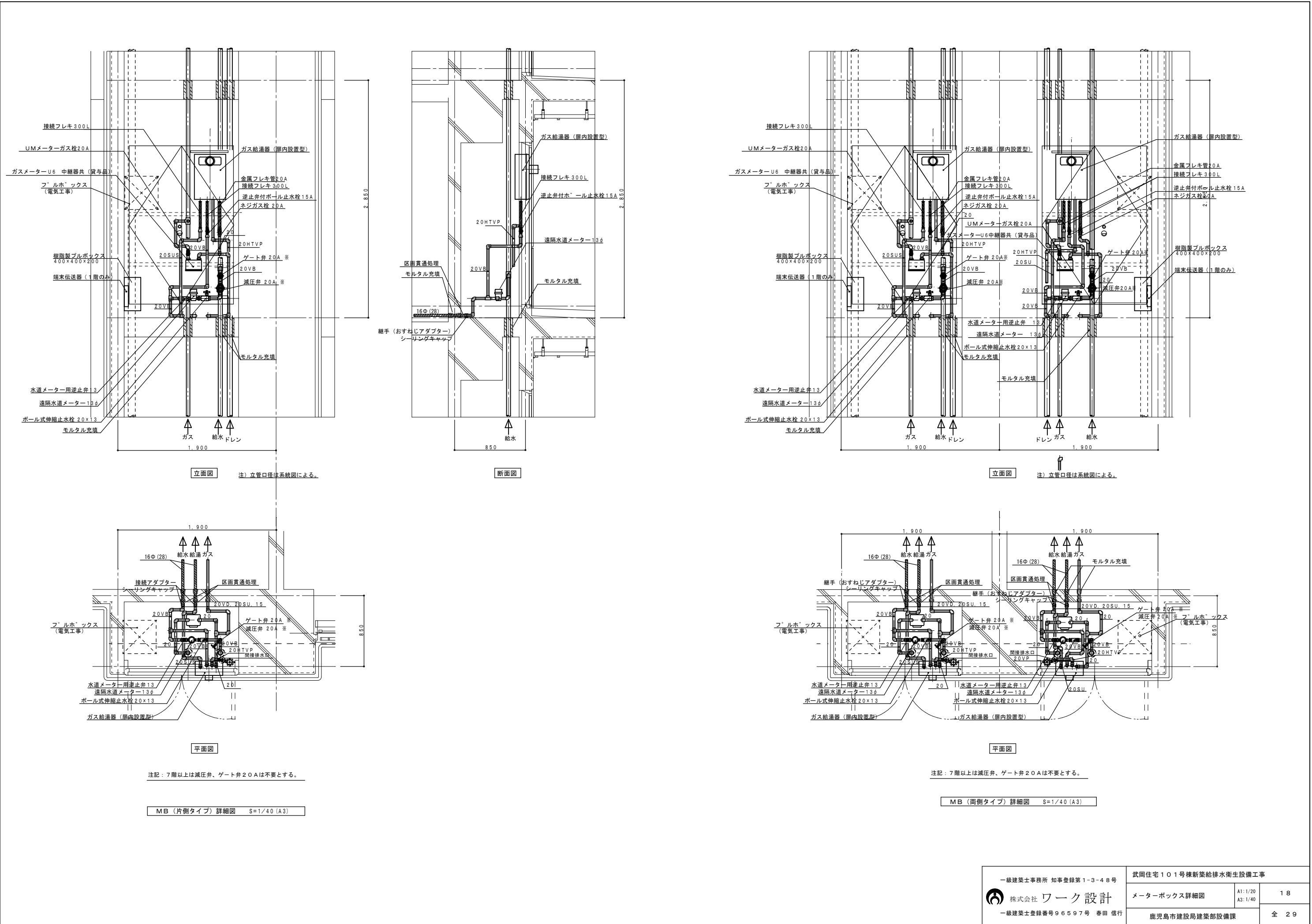
武岡住宅101号棟新築給排水衛生設備工事
平面詳細図 (3DK)
鹿児島市建設局建築部設備課

A1:1/30
A3:1/60

16

全 29





施工要領（住戸内サヤ管ヘッダー工法）

1）住戸内におけるサヤ管ヘッダー工法の配管材料は以下の材料から選定する。

| 管 類 （ 内 管 ） | | | |
|-------------------|----------------|-----|------------|
| 呼 称 | 名 称 | 用 途 | 規 格 |
| 架橋ポリエチレン管 （M種） | 架橋ポリエチレン管 PN15 | 給 水 | JIS K 6769 |
| | 水道用架橋ポリエチレン管 | | JIS K 6787 |
| | 架橋ポリエチレン管 PN15 | 給 湯 | JIS K 6769 |

| 継 手 | | | |
|-------------|------------------|-----|------------|
| 呼 称 | 名 称 | 用 途 | 規 格 |
| 架橋ポリエチレン管継手 | 架橋ポリエチレン管金属継手 | 給 水 | JIS K 6770 |
| | 水道用架橋ポリエチレン管金属継手 | | JIS K 6788 |
| | 架橋ポリエチレン管金属継手 | 給 湯 | JIS K 6770 |

2）台所、浴室、洗面化粧台の混合水栓、洗濯機及び洋便器の水栓の取付並びに各給水管

の接続は本工事とし、台所、浴室及び洗面化粧台の各給湯管の接続も本工事とする。

3）サヤ管ヘッダー工法の参考概要は、下記及び別途参考図の通りとする。

給水・給湯設備

4）本工事の施工詳細は、下記によるほか公共建築工事標準仕様書及び公共住宅建設工事共通仕様書による。

5）ヘッダー接続部サヤ管に行先明示シールを貼ること。

6）サヤ管と樹脂管（内管）の同時施工は、原則として行わない。

7）サヤ管ヘッダー工法の施工は、下記の事項を遵守すること。

イ）配管施工時、樹脂管（内管）は系統ごとに20cm程度の予長を取る。

ロ）本工事完了後、水栓接続前に樹脂管（内管）10cmの押し引きを2回行う。

ハ）系統毎の配管延長は15m以下、曲げ角度は90° 以上とし、曲がり回数は下表による。

| 内管サイズ | 曲げ箇所数 | | | 最小曲げ半径（参考） | |
|-------|-------|------|------|------------|-------|
| | 水平部 | 立上り部 | 計 | 水平部 | 立上り部 |
| 1 3 A | 4 以下 | 2 以下 | 6 以下 | 250mm | 200mm |
| 1 6 A | 4 以下 | 2 以下 | 6 以下 | 500mm | 350mm |

二）水栓ソケット、水栓エルボと樹脂管（内管）との接合はメカニカル接合とする。

ホ）水栓の立上り部には、配管サポート金具を必ず使用する。

ヘ）水圧試験は、配管設置後及び器具接続完了後にそれぞれ行う。

8）サヤ管ヘッダー工法における消音テープ巻きは原則として行わない。

9）各系統の樹脂管（内管）サイズ及びサヤ管サイズは、下表を標準とする。

| 流 体 名 | 配 管 系 統 | 内 管 サ イ ズ | サ ヤ 管 サ イ ズ |
|-------|-----------------|-----------|-------------|
| 給水 | 水道メーター ～ 給水ヘッダー | 16φ | 28φ |
| 給湯 | 給湯器 ～ 給湯ヘッダー | 16φ | 28φ |
| 給水・給湯 | ヘッダー ～ 台所水栓 | 13φ | 22φ |
| 給水・給湯 | ヘッダー ～ 洗面器水栓 | 13φ | 22φ |
| 給水・給湯 | ヘッダー ～ 浴室水栓 | 13φ | 22φ |
| 給水 | ヘッダー ～ 洗濯機水栓 | 13φ | 22φ |
| 給水 | ヘッダー ～ 便器水栓 | 13φ | 22φ |

10）本工事に使用する配管は、架橋ポリエチレン管とすること。継手は、メカニカル継手とする。

イ）外観、形状、寸法及び許容差はJ I S規格による。

ロ）管の断面は、実用的に正円で、その内外面は滑らかで使用上有害な傷、割れ、ねじれ、縦筋その他欠点があってはならない。

11）水栓ボックス（壁用、床用）を各々の箇所に使用するものとする。

12）サヤ管の主材料は、波形硬質ポリエチレン管とし、蛇腹状の波付管とする。

また、本システムで使用されるサヤ管は、以下の条件を満たすものとする。

イ）不陸がおきにくい。

ロ）圧縮強度及び復元力が高いこと。

13）保温は下記による。

イ）樹脂管（内管）及びサヤ管は保温を行わない。

ロ）ヘッダーは保温を行う。

14）防火区画貫通部は、（一財）日本消防設備安全センターによる消防防災用設備等性能評定品及び（一財）日本建築センター等の第三者機関による防災性能評定認可部材を使用する。

15）架橋ポリエチレン管とサヤ管の組合せは下表による。

| 架橋ポリエチレン管 サヤ管 呼径(外径mm) | 架橋ポリエチレン管 呼径(外径) | | | |
|------------------------------|---------------------|---------------|---------------|---------------|
| | 10 (φ13.0) | 13 (φ17.0) | 16 (φ21.5) | 20 (φ27.0) |
| 22 (φ22.0) | ◎ | ◎ | | |
| 25 (φ24.0) | | ◎ | | |
| 28 (φ26.7) | | | ◎ | |
| 30 (φ29.4) | | | ◎ | |
| 36 (φ32.0) | | | | ◎ |

※ 給水には青、給湯にはピンクのサヤ管を使用すること。

16）ヘッダーは取付金具により、直接躯体に振動が

振動が伝播しない方法で取り付ける。

17）サヤ管はサドルで固定を行い、固定間隔は下表とする。

（メーカーによる規定がある場合は、その規程による。）

| 敷設方法 | 直 線 部 | 曲がり部 |
|--------|---------|-------|
| 床転がし配管 | 1,000mm | 300mm |
| 埋設配管 | 500mm | 300mm |
| 天井配管 | 600mm | 300mm |

18）ヘッダー設置場所は床、壁、洗面台下等の保守点検が

容易に行える場所とし、必要な点検口及びスペースは下表を目安とする。

| ヘッダー取り出し口数 | 横 | 縦 | 奥行 |
|------------|---------|---------|---------|
| 5口 | 500mm以上 | 400mm以上 | 150mm以上 |
| 7口 | 600mm以上 | | |
| 9口 | 700mm以上 | | |

19）水圧試験については、下記による。

イ）水圧試験範囲は、量水器以降の住戸内配管とする。

ロ）水圧試験は、初期設定圧力（0.75MPa、1.75MPa）に昇圧する。

また、初期設定圧力は器具接続前では1.75MPa、器具接続後は0.75MPaとする。

ハ）昇圧後60分間、圧力降下を保持すること。

圧力計は、圧力降下量が判る2針計とすること。

二）昇圧後、すぐに圧力降下するが、昇圧を繰り返さないこと。

ホ）目視により継手部分に漏れがないことを確認すること。

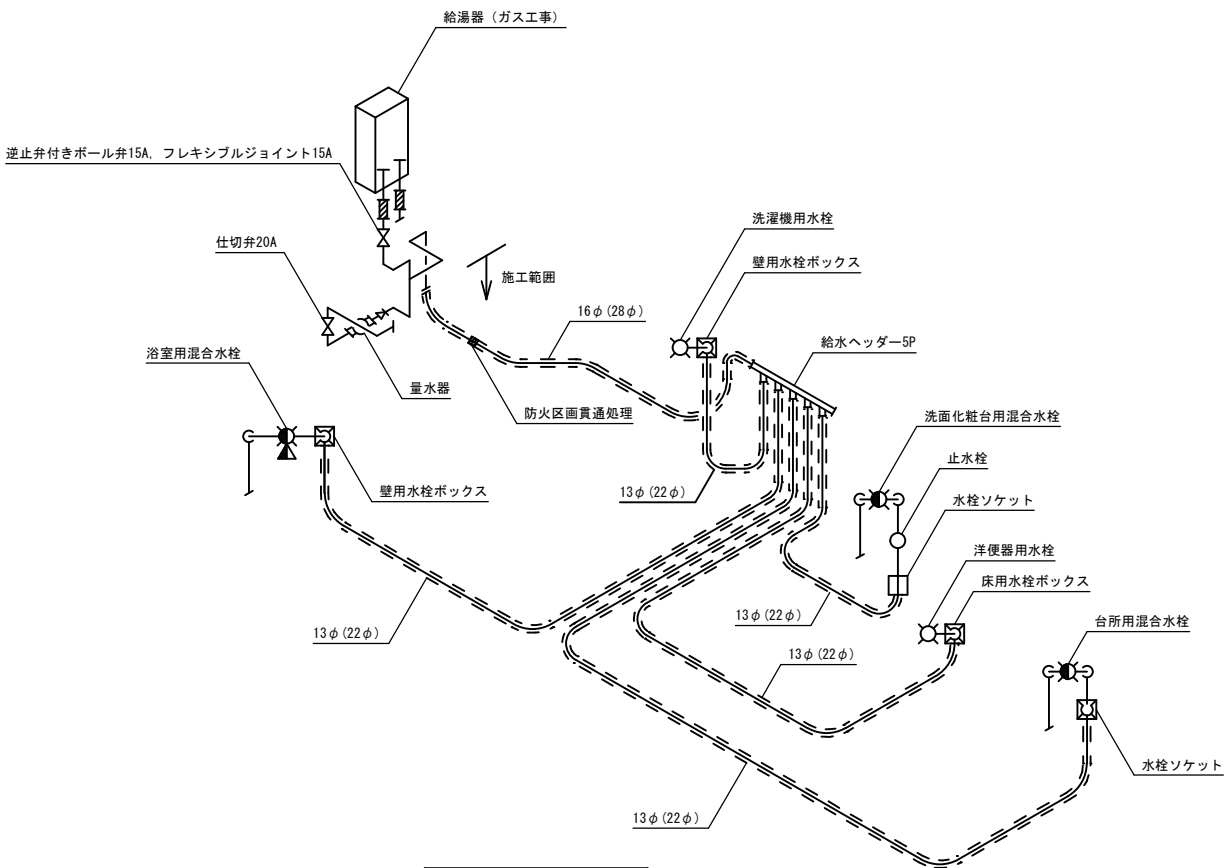
20）水圧試験の合否判定基準は下表による。

| 初期設定圧力(MPa) | 60分後の圧力(MPa) | 判定 |
|-------------|--------------|----|
| 0.75 | 0.5以上 | 合格 |
| 1.75 | 1.20以上 | 合格 |

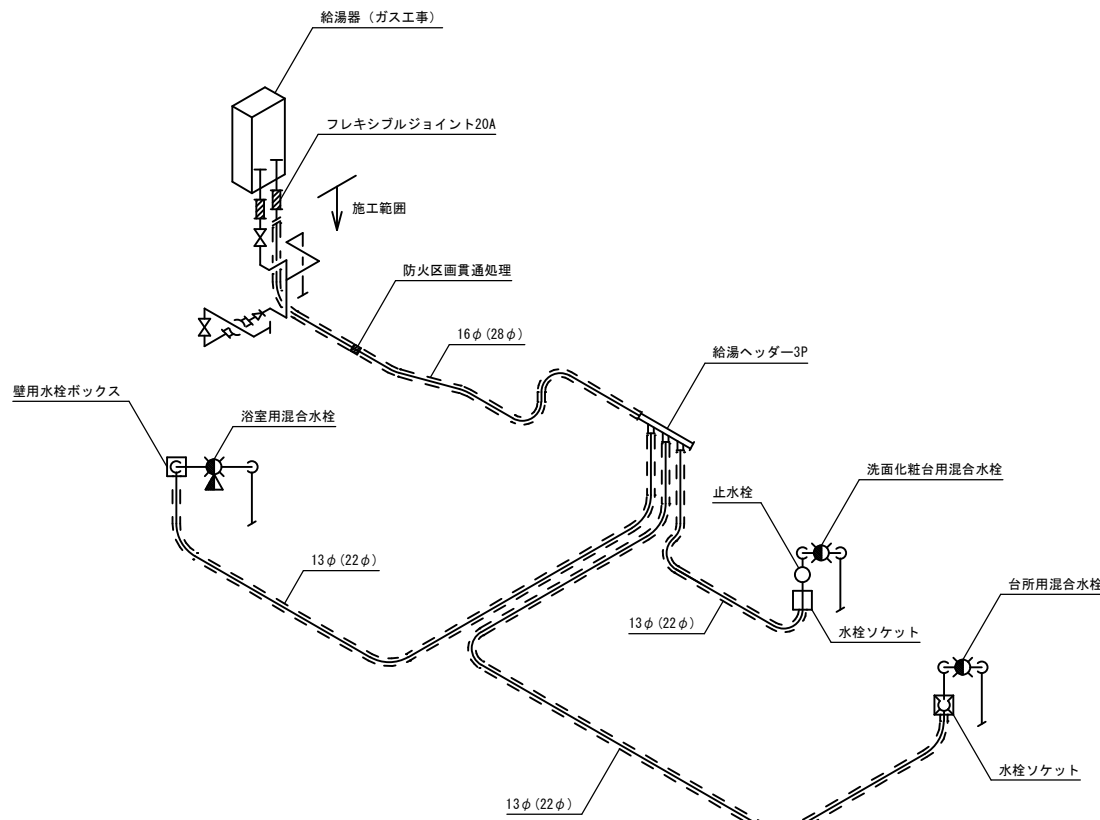
※ 不合格の場合は、継手部分の目視確認を実施すること。

また、系統別に調査し、漏れ系統は引抜、取替とする。

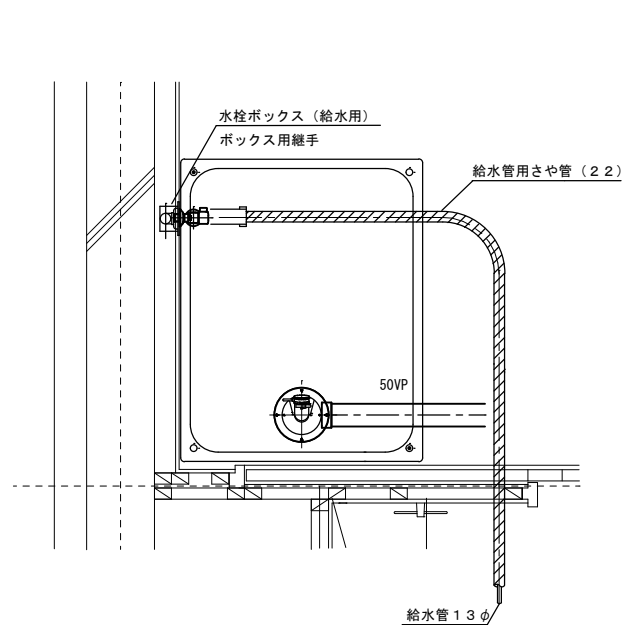
21）樹脂管を通管するとき、サヤ管に釘の打ち込みや潰れ及び不陸がないことを目視で確認する。



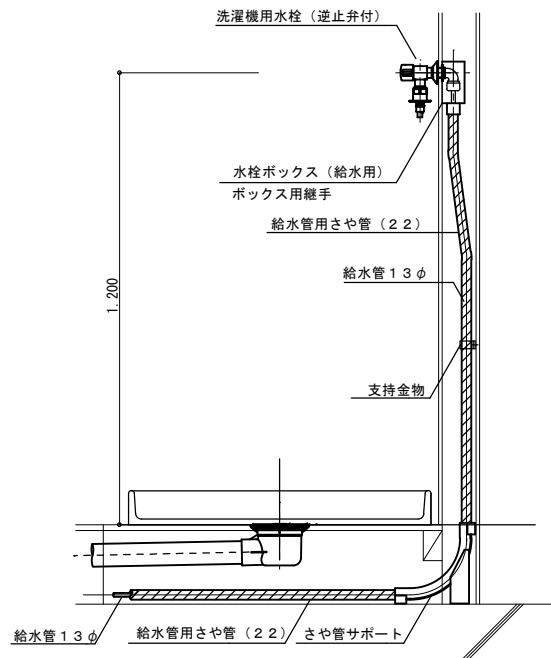
給水管施工要領（参考）



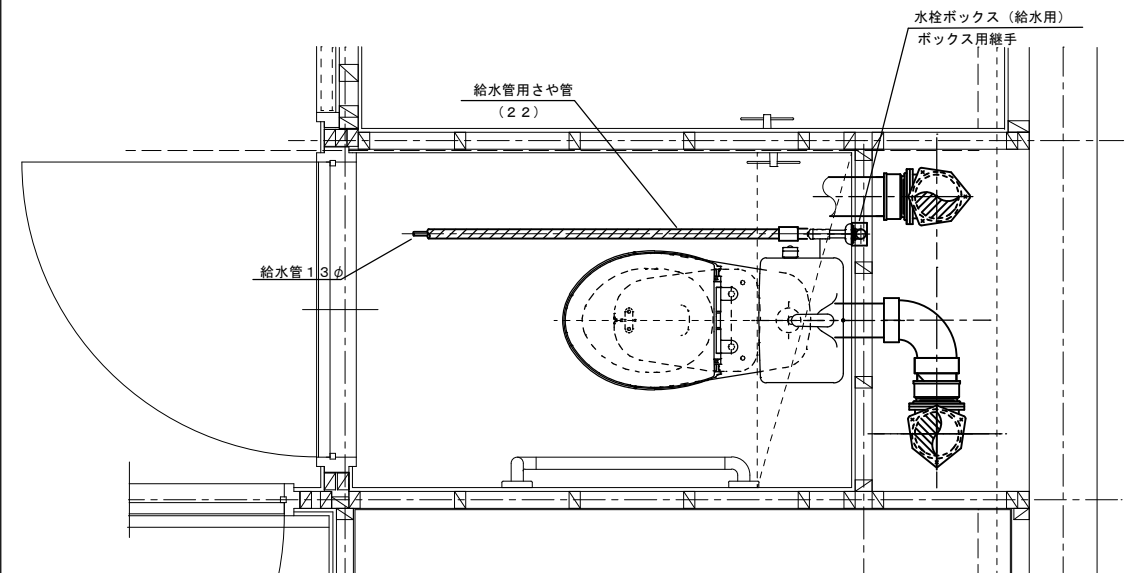
給湯管施工要領（参考）



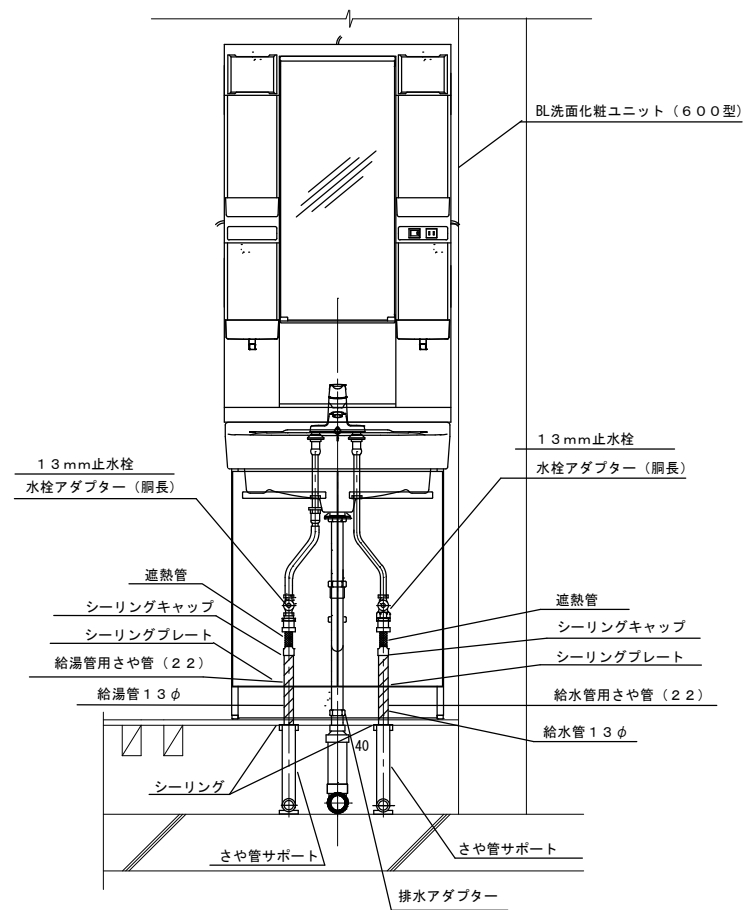
洗濯パン廻り平面詳細図 S = 1 / 2 0 (A 3)



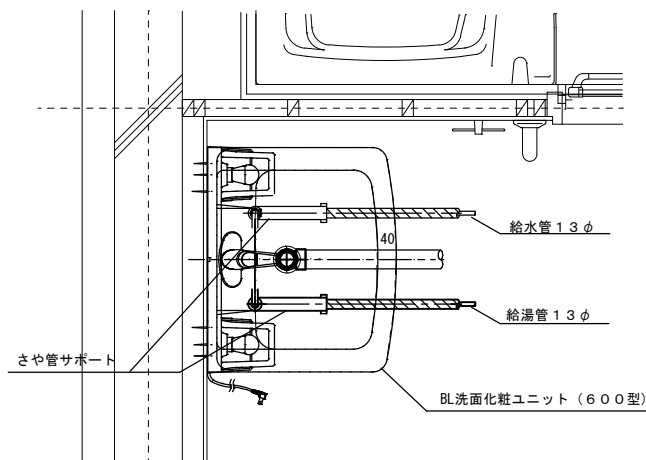
洗濯機廻り立上り参考図 S = 1 / 2 0 (A 3)



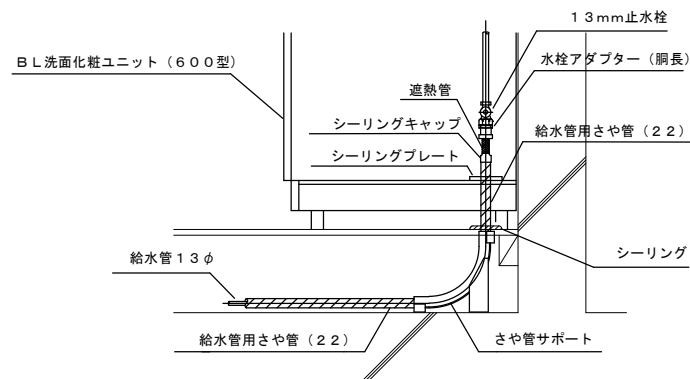
便所廻り平面詳細図 S = 1 / 2 0 (A 3)



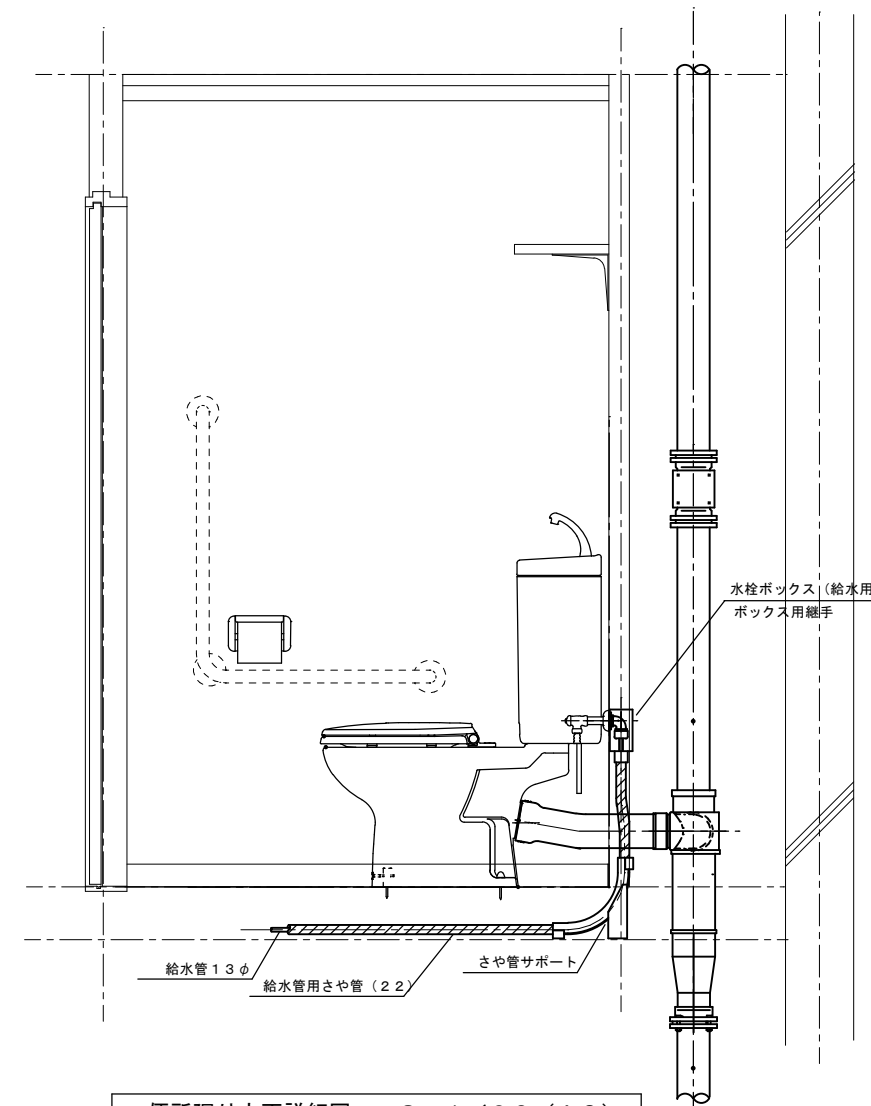
洗面化粧ユニット廻り立面詳細図 S = 1 / 2 0 (A 3)



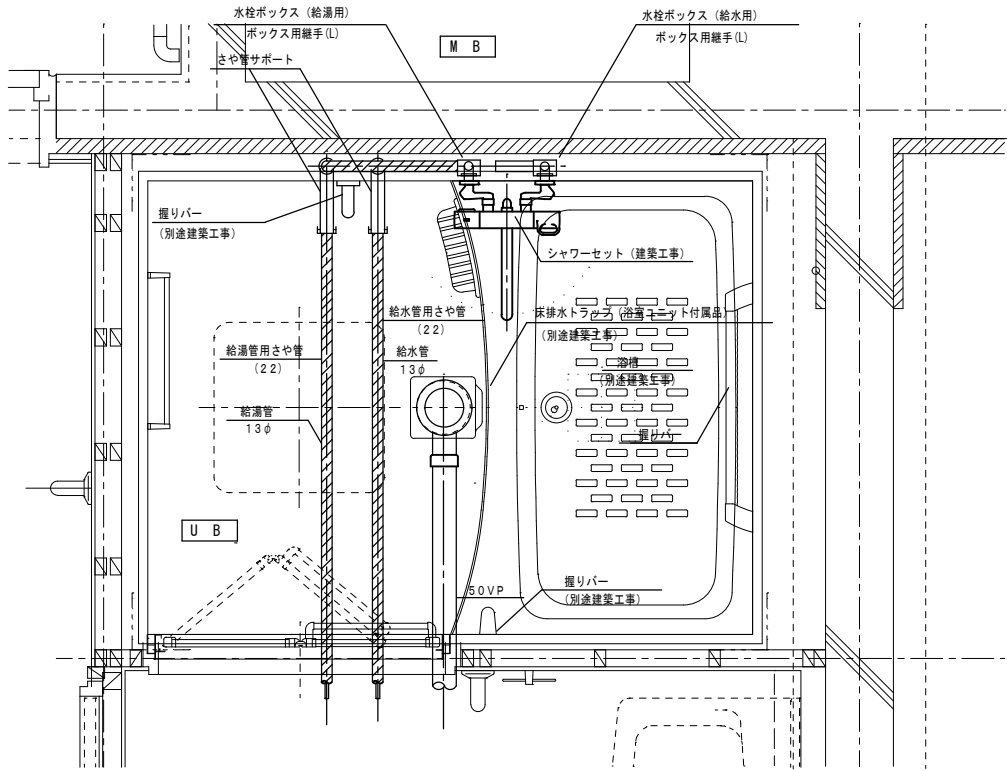
洗面化粧ユニット廻り平面詳細図 S = 1 / 2 0 (A 3)



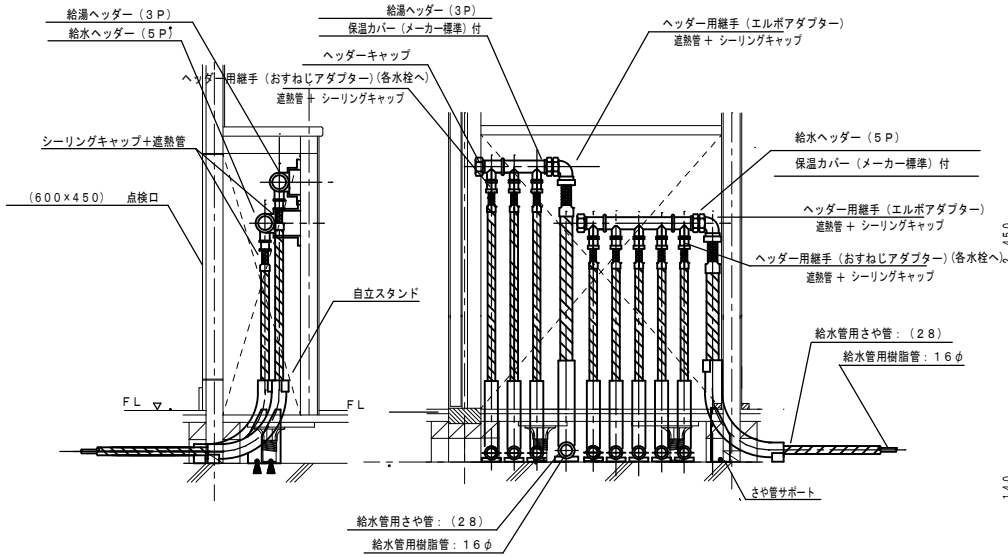
洗面化粧ユニット廻り立上り参考図 S = 1 / 2 0 (A 3)



便所廻り立面詳細図 S = 1 / 2 0 (A 3)

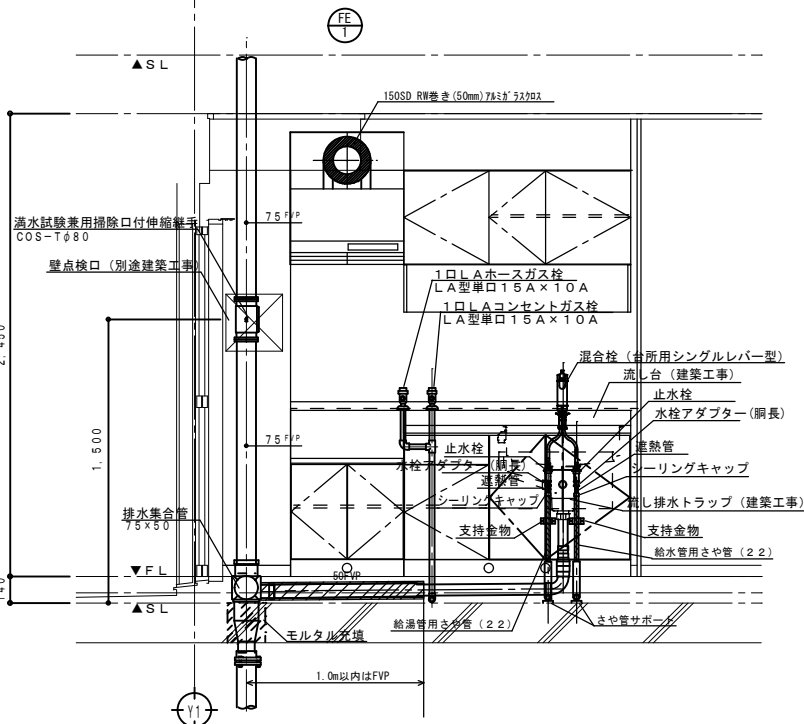


ユニットバス廻り平面詳細図 S=1:20 (A3)



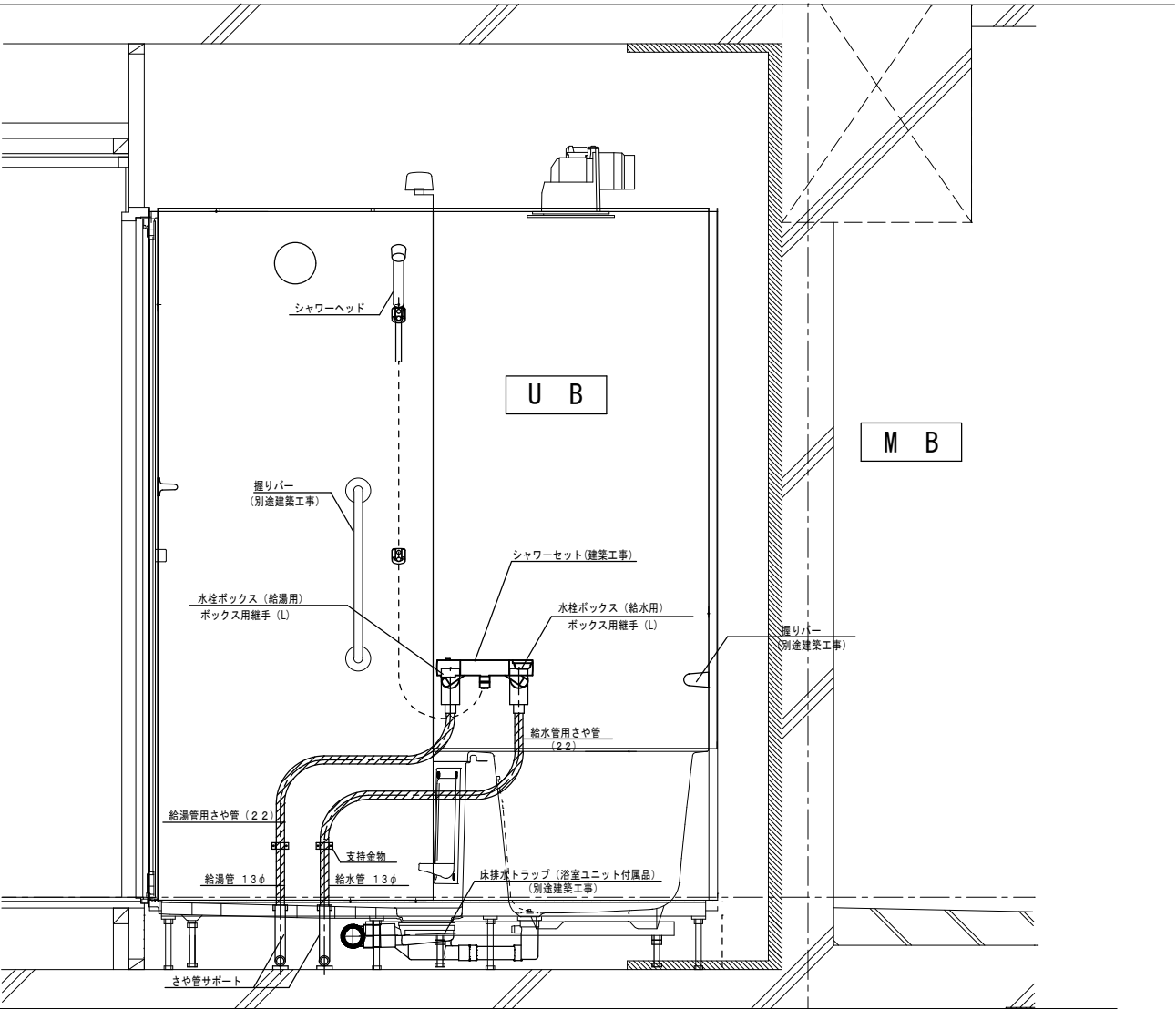
ヘッダー置場断面詳細図 S=1:20 (A3)

物入断面詳細図 S=1:10 (A3)



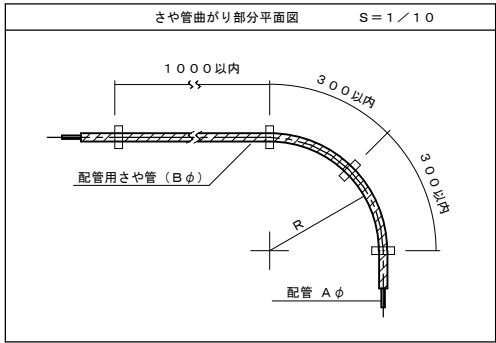
立面図

台所流し詳細図 S=1/20 (A3)



ユニットバス廻り立面詳細図 S=1:10 (A3)

※ユニットバスは別途建築工事



| 配管種類 | 配管呼び径 (Aφ) | さや管呼び径 (Bφ) | 曲げ半径 (R) | | 曲げ箇所数 (箇所) | | 計 |
|------|---------------|----------------|----------|-------|------------|------|-----|
| | | | 水平部 | 立上り部 | 水平部 | 立上り部 | |
| 給水管 | 10φ | (22) | 200以上 | 150以上 | 4以下 | 2以下 | 6以下 |
| 給湯管 | 13φ | (22) | 250以上 | 200以上 | 4以下 | 2以下 | 6以下 |
| | 16φ | (28) | 500以上 | 350以上 | 4以下 | 2以下 | 6以下 |

注) さや管呼び径はメーカー標準品とする。

特定共住区画貫通部施工要領

| |
|--|
| 特定共同住宅の区画を貫通する配管等及び貫通部については、下記を満足すること。 |
| 1) 配管等の呼び径は200mm以下であること。 |
| 2) 配管等を貫通させるために設ける開口部は、内部の断面積が直径300mmの円の面積以下であること。 |
| 3) 配管等を貫通させるために設ける開口部は床又は壁（住戸と共用部を区画する床又は壁を除く。）に2以上設ける場合にあっては、配管等を貫通させるために設ける開口部相互間の距離は、当該開口部の最大直径（当該直径が200mm以下の場合にあっては、200mm）以上であること。 |
| 4) 床又は壁を貫通する配管等及びそれらの貫通部は、次のア、又はイ、に定めるものであること。 |
| ア。配管は、建令129条の2の4第1項7号イ又はロに適合するものとし、かつ、当該配管と当該配管を貫通させるために設ける開口部との隙間を不燃材料で埋めること。 |
| イ。別に告示（H.17消告4）で定めることにより、床又は壁を貫通する配管等の貫通部が一体として耐火性能を有しているものとして認められたものであること。 |
| 5) 配管等には、その表面に可燃物が接触しないような措置を講じること。ただし、当該配管等に可燃物が接触しても発火するおそれがないと認められる場合は、この限りでない。 |

換気機器表

| 記 号 | 名 称 | 形 名 | 仕 様 | 電気特性 | 台数 | 設置場所 | 備 考 |
|--------------------------------------|--------------|-------|----------------------------|---------------|----|-------|---------------------|
| <div><div>FE</div><div>1</div></div> | 天井扇 (DCモーター) | 低騒音形 | 能力:100φ x 70 m3/h x 40 Pa | 電 源 :1φ100V | 62 | 便所 | SUS製深型フード (ガラリ付) |
| | (24時間換気機能付) | | 騒音:30 dB 以下 (参考) | 消費電力:0.020 kw | | | 天吊脱着枠共 |
| | | | | | | | (フードは指定色焼付) |
| <div><div>FE</div><div>2</div></div> | 天井扇 (DCモーター) | 低騒音形 | 能力:100φ x80 m3/h x 40 Pa | 電 源 :1φ100V | 62 | 浴室 | SUS製深型フード (ガラリ付) |
| | | | 騒音:30 dB 以下 (参考) | 消費電力:0.020 kw | | | 天吊脱着枠共 |
| | | | | | | | (フードは指定色焼付) |
| <div><div>FE</div><div>3</div></div> | 浅形レンジフードファン | BL認定品 | 能力:150φ x 300 m3/h x70 Pa | 電 源 :1φ100V | 45 | 台所 | 上板幕板 H=310 (本工事) |
| | (600タイプ) | | 騒音:50 dB 以下 (参考) | 消費電力:0.122 kw | | (兼食堂) | SUS製深型フード (ガラリ付) |
| | | | | | | | (フードは指定色焼付) |
| <div><div>FE</div><div>4</div></div> | 浅形レンジフードファン | BL認定品 | 能力:150φ x 300 m3/h x70 Pa | 電 源 :1φ100V | 18 | 台所 | 上板幕板 H=310 (本工事) |
| | (600タイプ) | | 騒音:50 dB 以下 (参考) | 消費電力:0.122 kw | | | SUS製深型フード (ガラリ・FD付) |
| | | | | | | | |
| <div><div>FE</div><div>5</div></div> | 天井扇 (DCモーター) | 低騒音形 | 能力:100φ x 130 m3/h x 40 Pa | 電 源 :1φ100V | 1 | 便所 | SUS製深型フード (ガラリ付) |
| | (24時間換気機能付) | | 騒音:30 dB 以下 (参考) | 消費電力:0.020 kw | | (兼食堂) | 天吊脱着枠共 |
| | | | | | | | (フードは指定色焼付) |

注) バイブフードは指定色焼付けとする。

24時間換気計算表

| シックハウス対策に係る規制のチェック | | | | | | | | |
|--------------------|-------|-------------------------|----------|-----------------------|------------------------|--------|-------------------|----|
| タイプ | 部 屋 | 居室床面積 m ² | 天井高 m | 気 積 m ³ | 気積合計 m ³ | 必要換気量 | 有効換気量 | 判定 |
| | | | | | | 0.5回/h | m ³ /h | |
| 1DK | DK | 13.97 | 2.45 | 59.09 | 94.6 | 47.3 | 70.0 | OK |
| | 和室 | 11.5 | 2.45 | 23.42 | | | | |
| | 玄関・廊下 | 4.22 | 2.15 | 9.08 | | | | |
| | 便所 | 1.4 | 2.15 | 3.01 | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| 2K | 玄関・廊下 | 4.85 | 2.15 | 10.43 | 80.88 | 40.44 | 70.0 | OK |
| | K | 8.1 | 2.45 | 22.47 | | | | |
| | 和室 | 8.33 | 2.45 | 21.32 | | | | |
| | 洋室 | 10.91 | 2.45 | 23.84 | | | | |
| | 便所 | 1.31 | 2.15 | 2.82 | | | | |
| 2DK | 玄関・廊下 | 5.98 | 2.15 | 12.86 | 100.81 | 50.41 | 70.0 | OK |
| | DK | 10.98 | 2.45 | 37.04 | | | | |
| | 和室 | 11.16 | 2.45 | 24.70 | | | | |
| | 洋室 | 11.02 | 2.45 | 23.28 | | | | |
| | 便所 | 1.36 | 2.15 | 2.93 | | | | |
| | | | | | | | | |
| 3DK | 玄関・廊下 | 6.06 | 2.15 | 13.03 | 120.08 | 60.41 | 70.0 | OK |
| | DK | 12.76 | 2.45 | 31.26 | | | | |
| | 和室 | 10.98 | 2.45 | 26.90 | | | | |
| | 洋室1 | 10.09 | 2.45 | 24.72 | | | | |
| | 洋室2 | 8.66 | 2.45 | 21.22 | | | | |
| | 便所 | 1.37 | 2.15 | 2.95 | | | | |

※ (参考) 建築内装仕上材料は全て☆☆☆スターを使用

火気使用室の換気量計算

| |
|--|
| 台所 (各住戸タイプ共通) |
| $V=30\times K\times Q$ |
| k : 理論廃ガス量=0.93m3/kW・h (都市ガス13A) |
| Q : 燃料消費量 = 8.20+2.40= 10.60 kW |
| グリル付きニロコンロ = 8.20 kW |
| ガス炊飯器 = 2.40 kW |
| $V=30\times k\times Q=30\times 0.93\times 10.60=296\text{m3/h}$ (FE-3, FE-4) |
| 台所のレンジフードファンの換気能力 = 300 m3/h |
| $V=296<300$ |
| よって、OK |

24時間換気計算表

| 住戸タイプ | 部屋 | 室面積 m ² | 天井高 m | 気 積 m ³ | 必要換気回数 (回/h) | 必要換気量 m ³ /h | 判定 |
|-------|----------|-----------------------|----------|-----------------------|-----------------|----------------------------|---------------------------------|
| 集食室 | 集食室 | 74.075 | 2.37 | 175.56 | 0.3 | 52.67 | |
| | 便所 (経路室) | 5.693 | 2.15 | 12.24 | 0.3 | 3.67 | |
| | | | | | | | 便所の天井扇 FE-5 を弱で24時間運転 (130m3/h) |
| | 合 計 | | | | | 56.34 | 56.34 m3/h < 130 m3/h |

注意銘板参考図

【台 所 用】 (63枚)

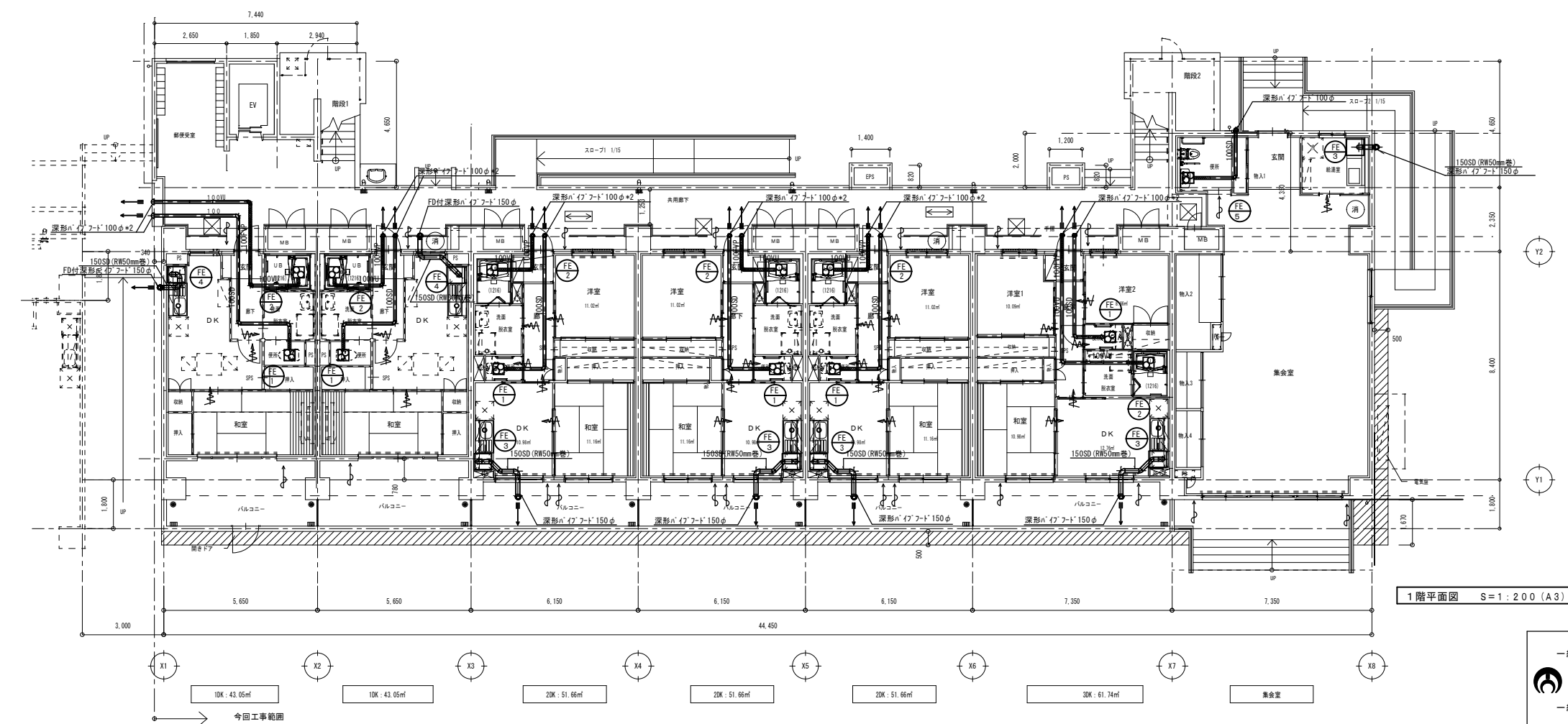
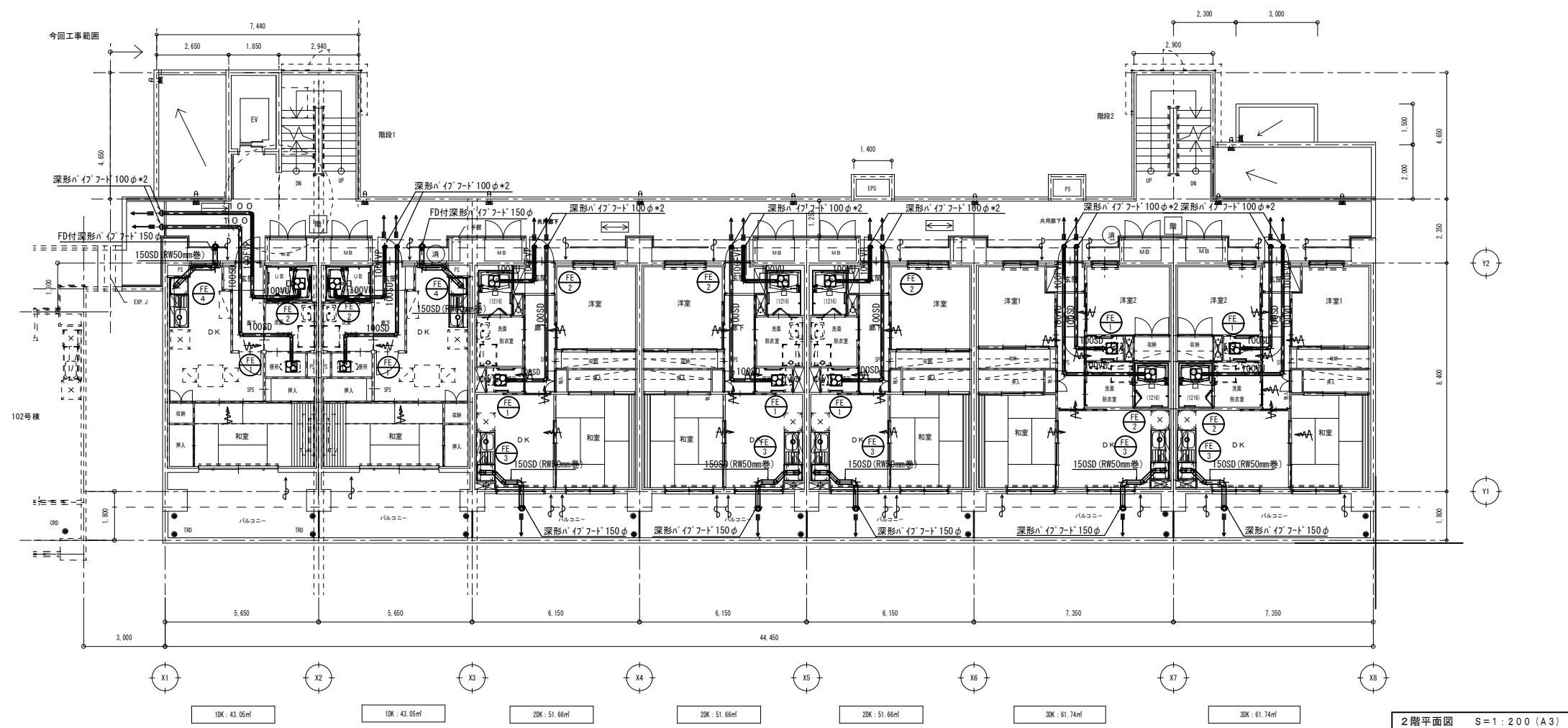
注 意

火を使用する場合や換気扇を使用する場合等は、給気の為、台所丸形給気口等を必ず開けてください。



【便 所 用】 (63枚)

注 意

便所の換気扇は、各室内の換気を兼ねておりますのでスイッチを切らずに御使用ください。
(法令で定める24時間換気です。)

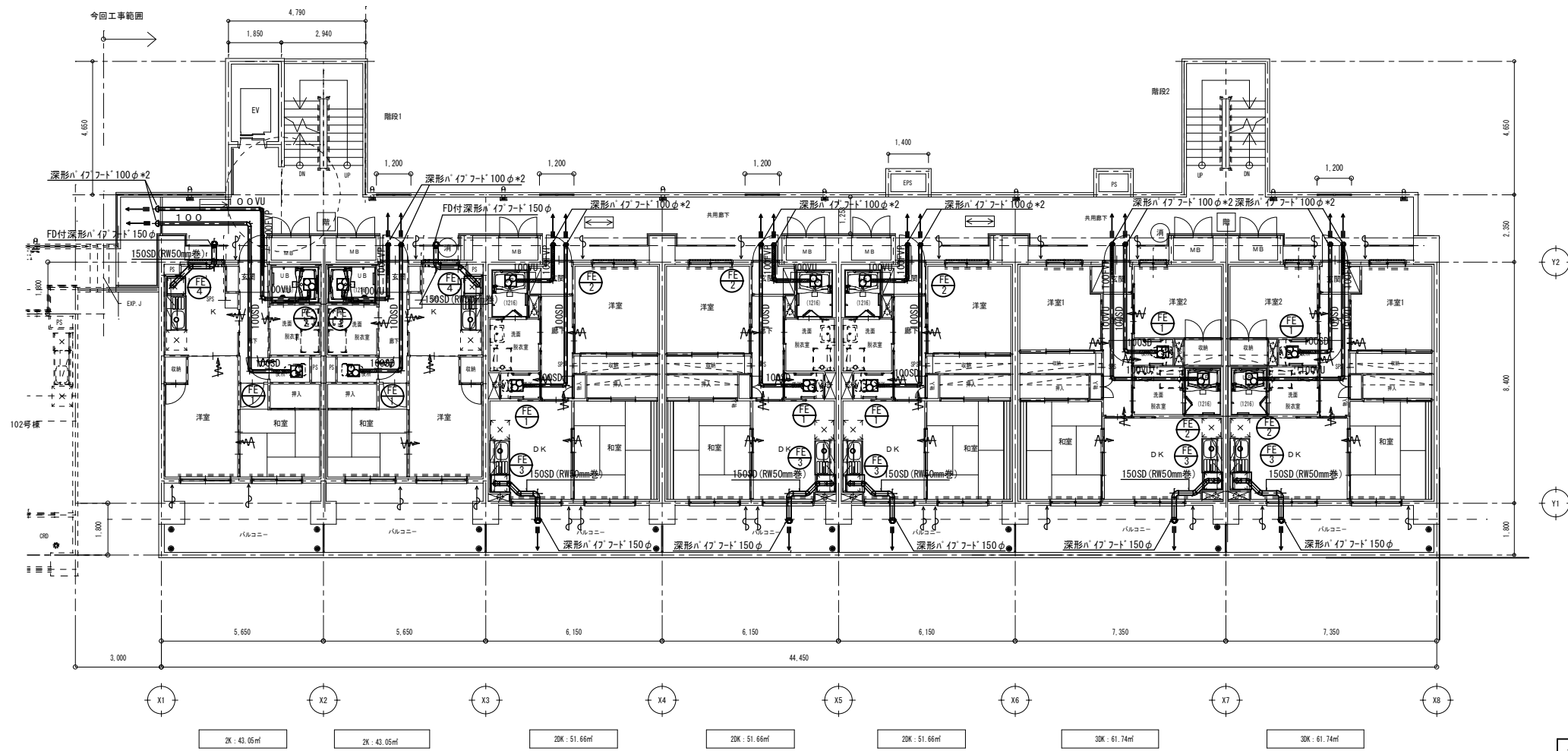


凡 例

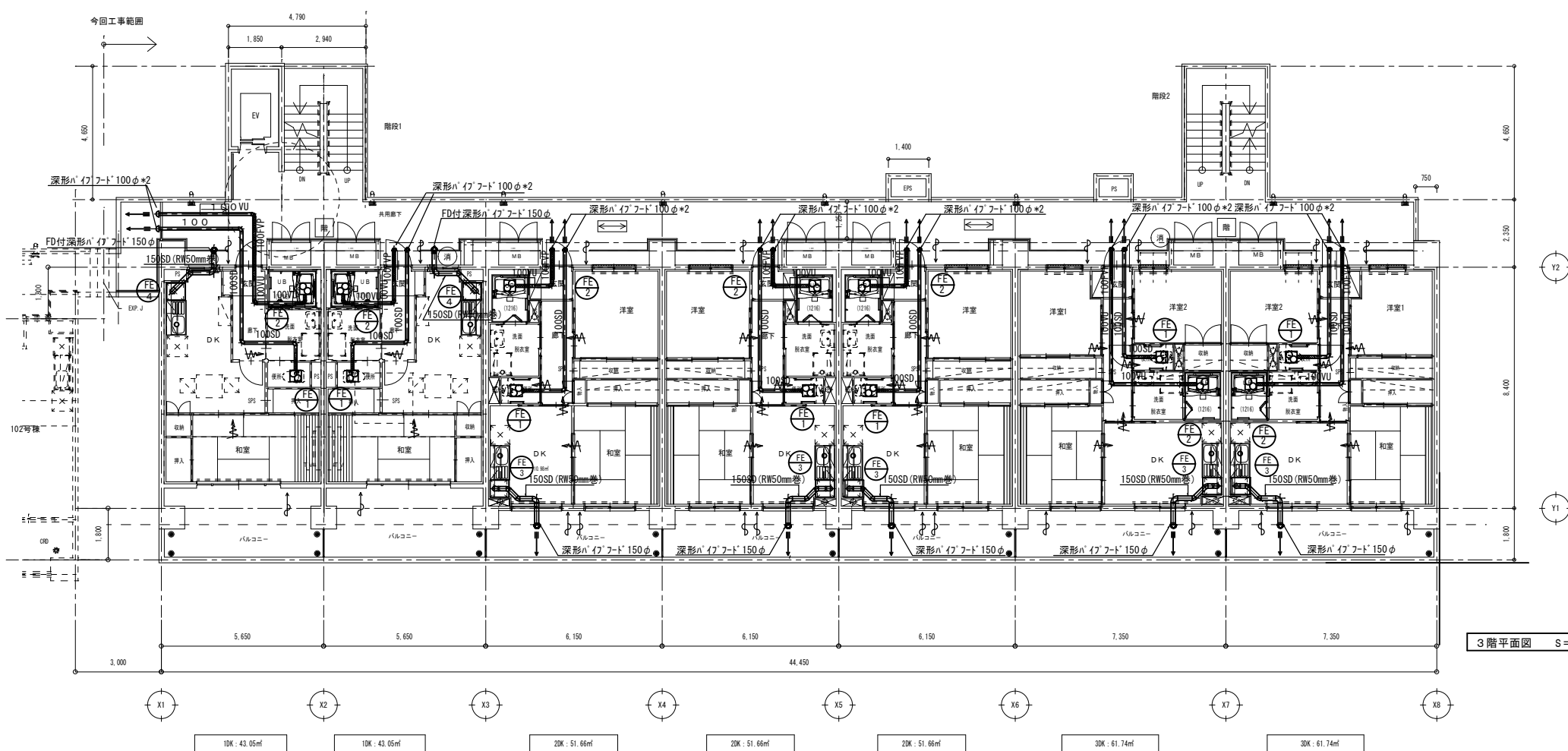
| | |
|---|---------------------------------------|
|  | フルバツクを示す(浴室は塩ビ製、便所は7&3製) |
|  | 共用廊下側の梁貫通部とこれから1.0m以内の塩ビ管は耐火二層管FVUとする |

※ コナリト貫通部のスレ/イタ/外は7/3スチケーブ 巻きとする。

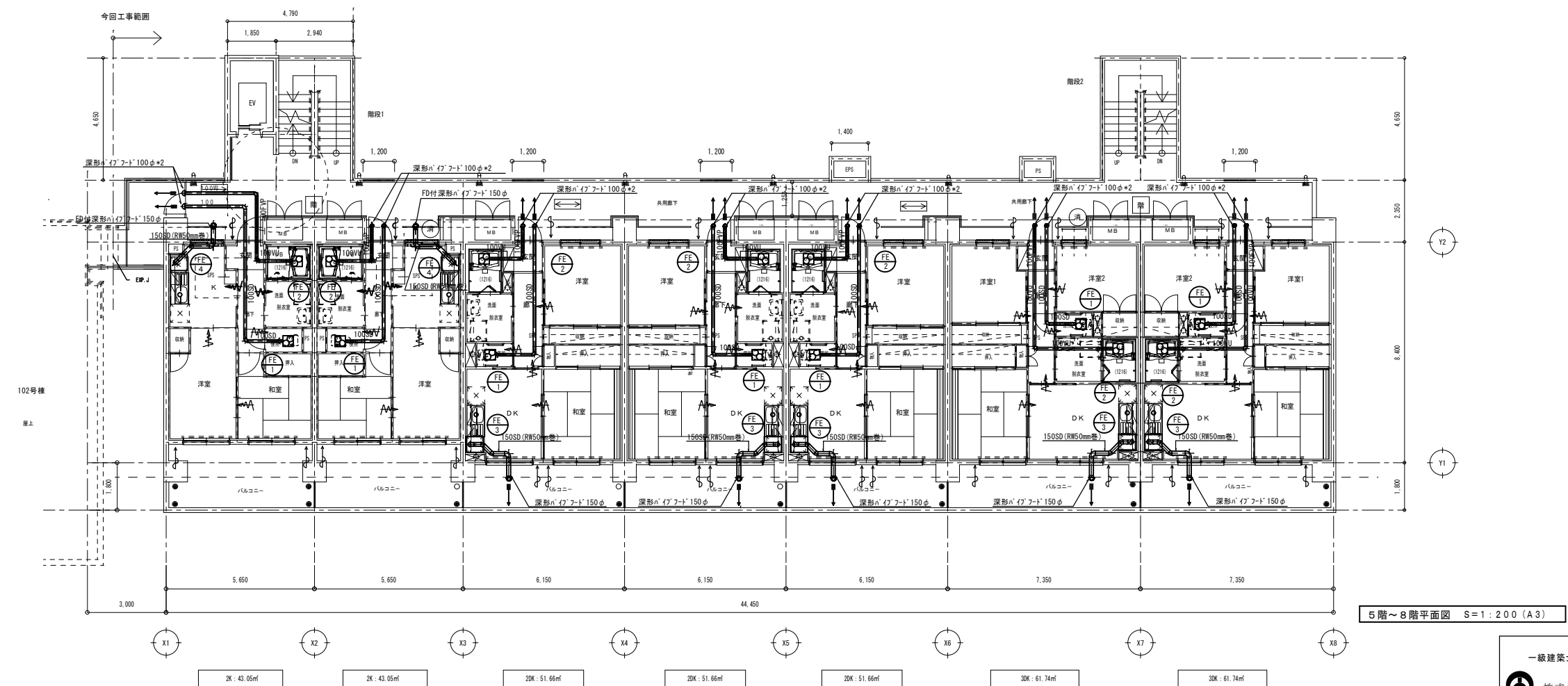
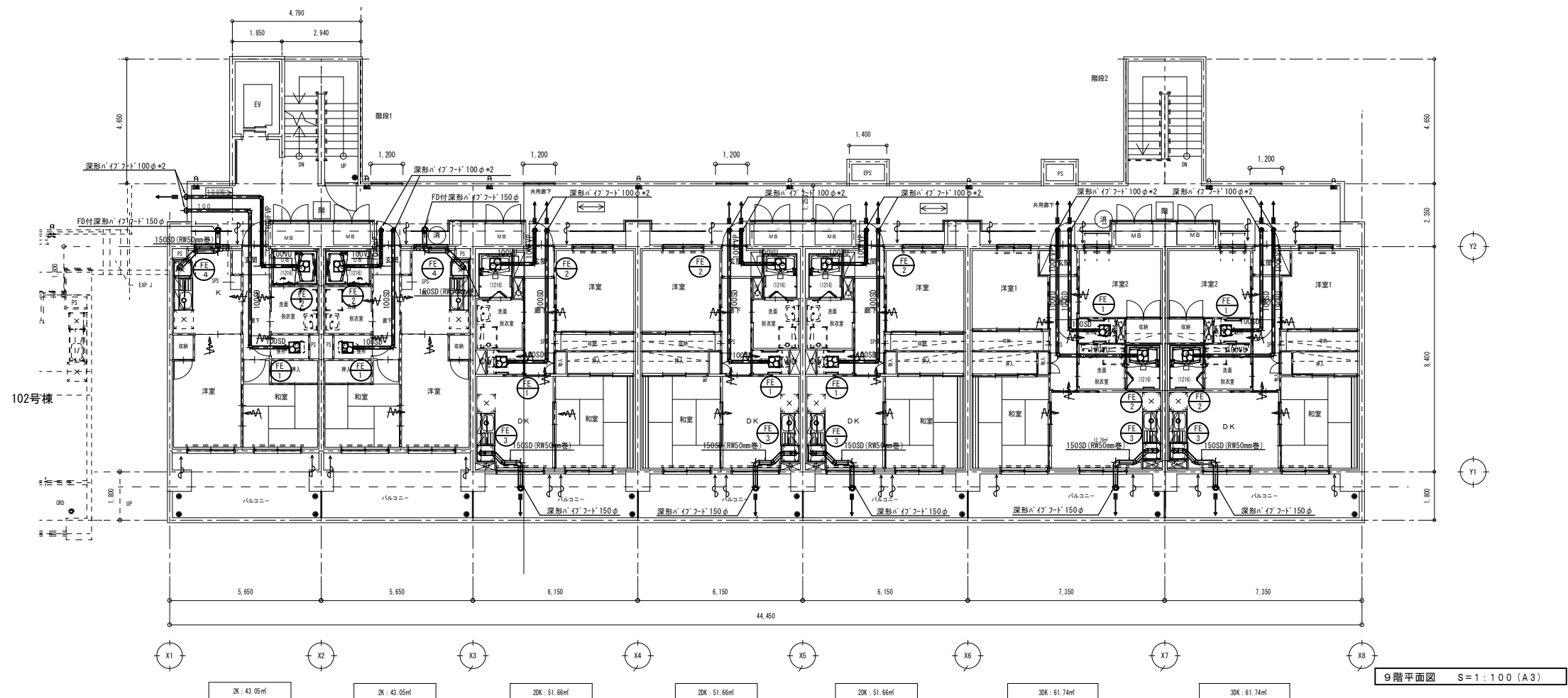
※ レン/フード/ファン排気管は全てRw50mm巻きとする。

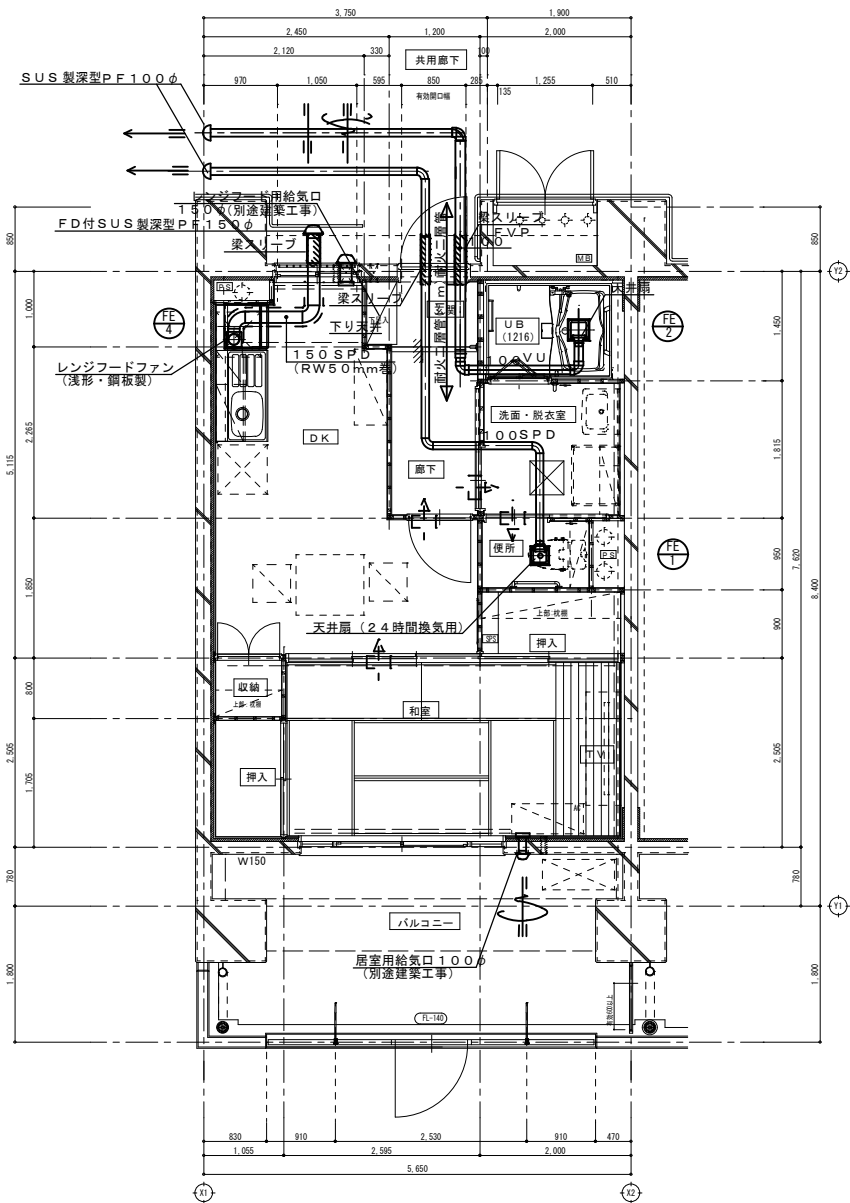


4階平面図 S=1:200 (A3)

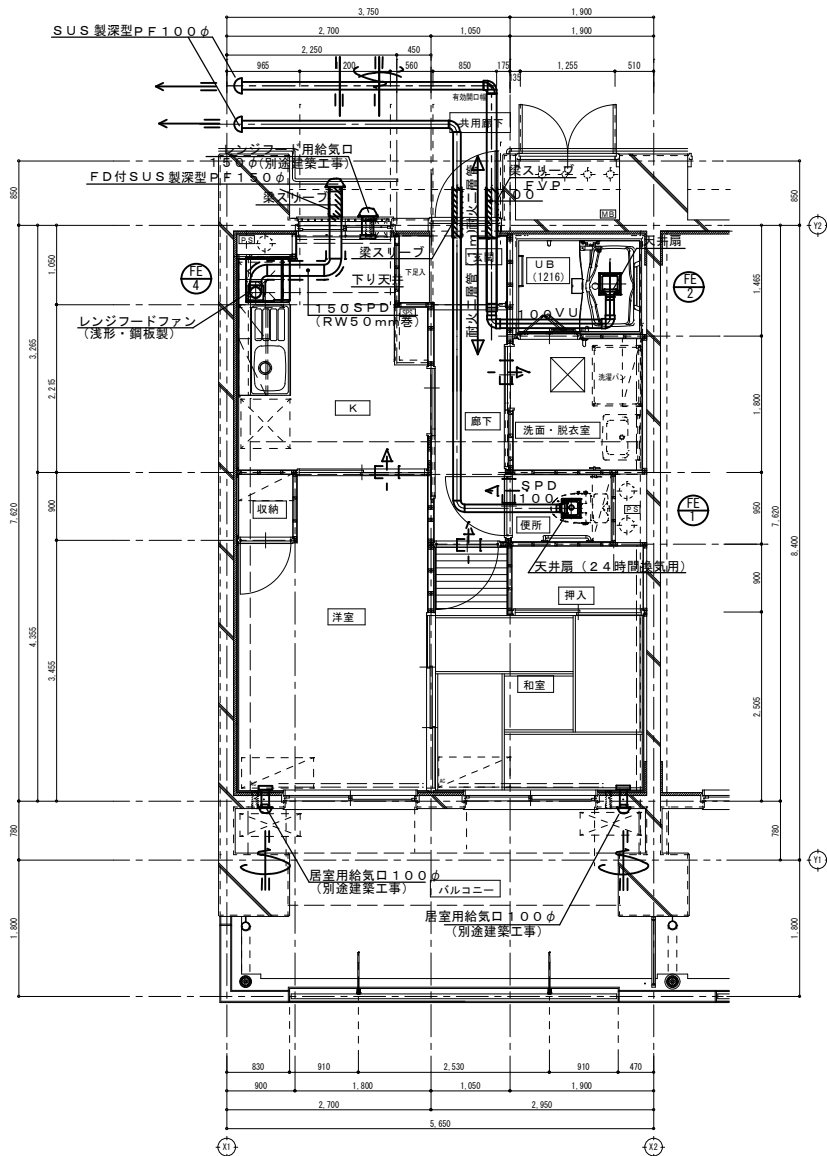


3階平面図 S=1:200 (A3)

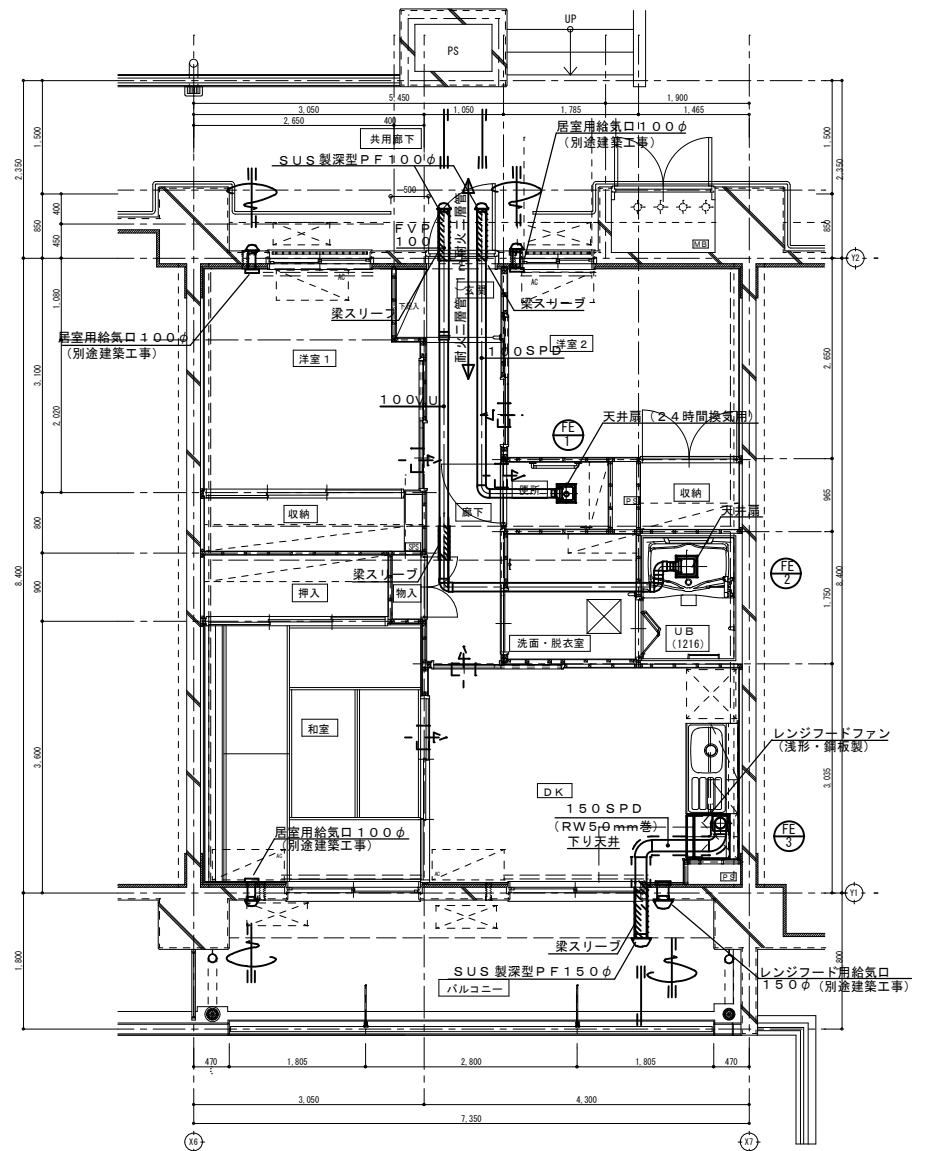




1DK平面詳細図 S=1:100 (1階) (A3)



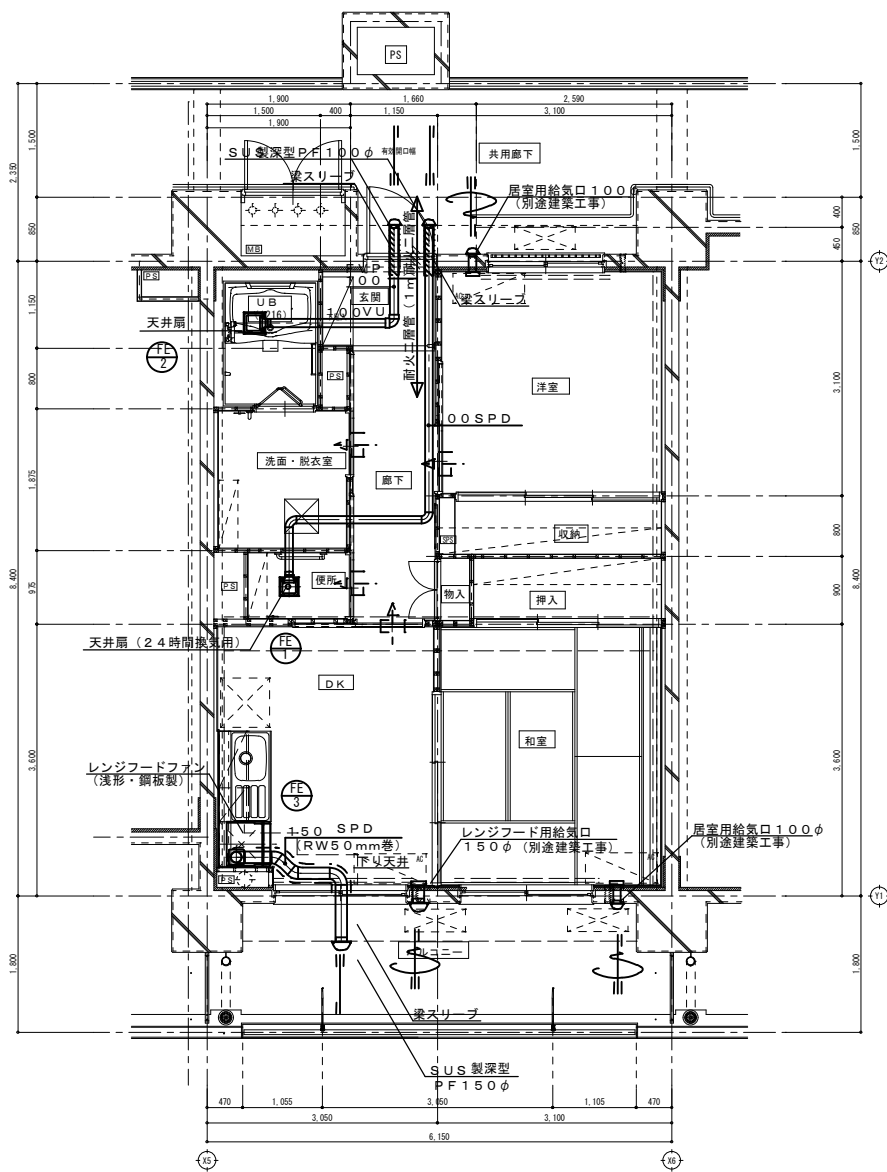
2K平面詳細図 S=1:100 (4階) (A3)



3DK平面詳細図 S=1:100 (1階) (A3)

住戸キープラン

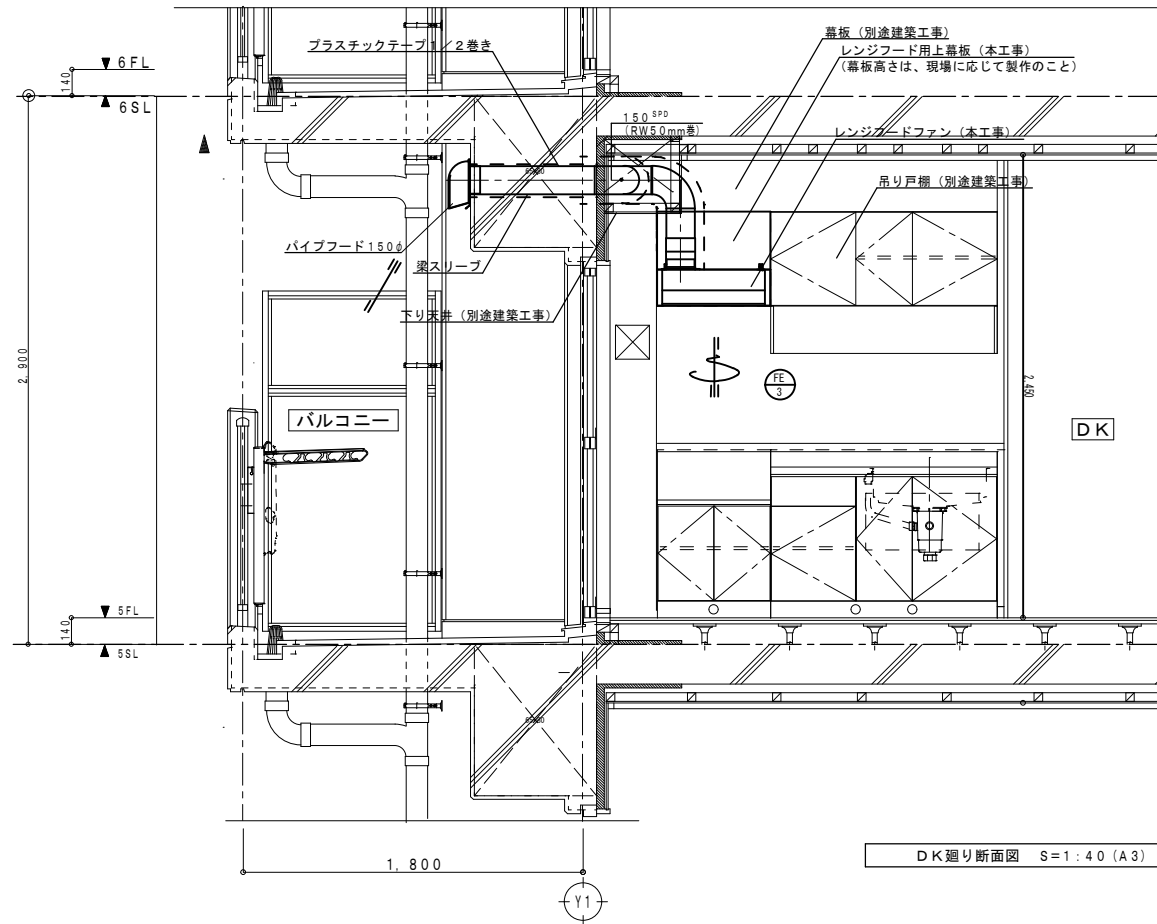
| | | | | | | | |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 9階 | 2K | 2K | 2DK | 2DK | 2DK | 3DK | 3DK |
| 8階 | 2K | 2K | 2DK | 2DK | 2DK | 3DK | 3DK |
| 7階 | 2K | 2K | 2DK | 2DK | 2DK | 3DK | 3DK |
| 6階 | 2K | 2K | 2DK | 2DK | 2DK | 3DK | 3DK |
| 5階 | 2K | 2K | 2DK | 2DK | 2DK | 3DK | 3DK |
| 4階 | 2K | 2K | 2DK | 2DK | 2DK | 3DK | 3DK |
| 3階 | 1DK | 1DK | 2DK | 2DK | 2DK | 3DK | 3DK |
| 2階 | 1DK | 1DK | 2DK | 2DK | 2DK | 3DK | 3DK |
| 1階 | 1DK | 1DK | 2DK | 2DK | 2DK | 3DK | 集会所 |



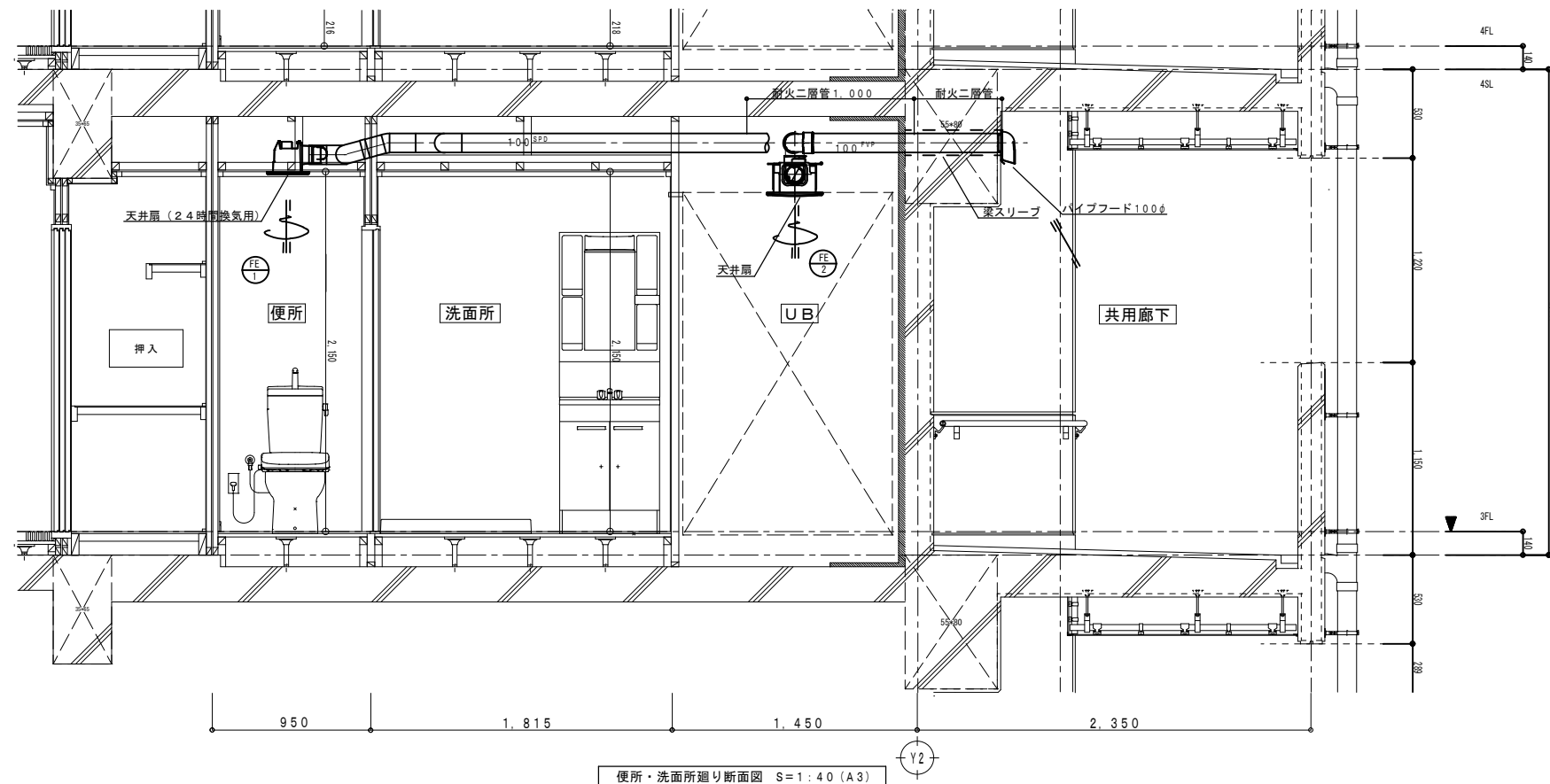
2DK平面詳細図 S=1:100 (A3)

住戸キープラン

| | | | | | | | |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 9階 | 2K | 2K | 2DK | 2DK | 2DK | 3DK | 3DK |
| 8階 | 2K | 2K | 2DK | 2DK | 2DK | 3DK | 3DK |
| 7階 | 2K | 2K | 2DK | 2DK | 2DK | 3DK | 3DK |
| 6階 | 2K | 2K | 2DK | 2DK | 2DK | 3DK | 3DK |
| 5階 | 2K | 2K | 2DK | 2DK | 2DK | 3DK | 3DK |
| 4階 | 2K | 2K | 2DK | 2DK | 2DK | 3DK | 3DK |
| 3階 | 1DK | 1DK | 2DK | 2DK | 2DK | 3DK | 3DK |
| 2階 | 1DK | 1DK | 2DK | 2DK | 2DK | 3DK | 3DK |
| 1階 | 1DK | 1DK | 2DK | 2DK | 2DK | 3DK | 集会所 |



DK通り断面図 S=1:40 (A3)



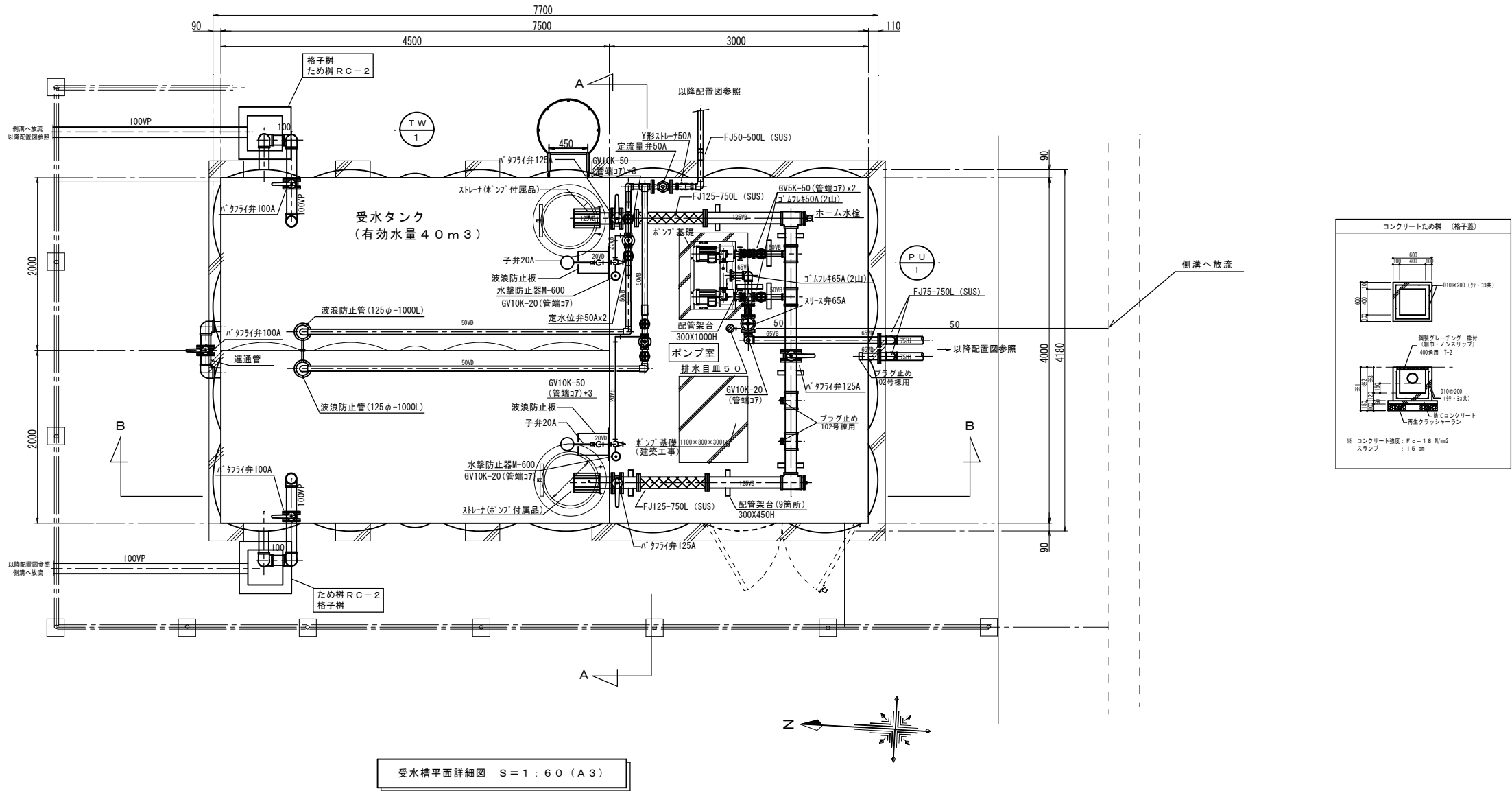
便所・洗面所通り断面図 S=1:40 (A3)

注1) スパイラルダクトのコンクリート貫通部は、プラスチックテープ養生とする。
注2) 他のタイプも上図に準じて施工のこと。

機 器 表

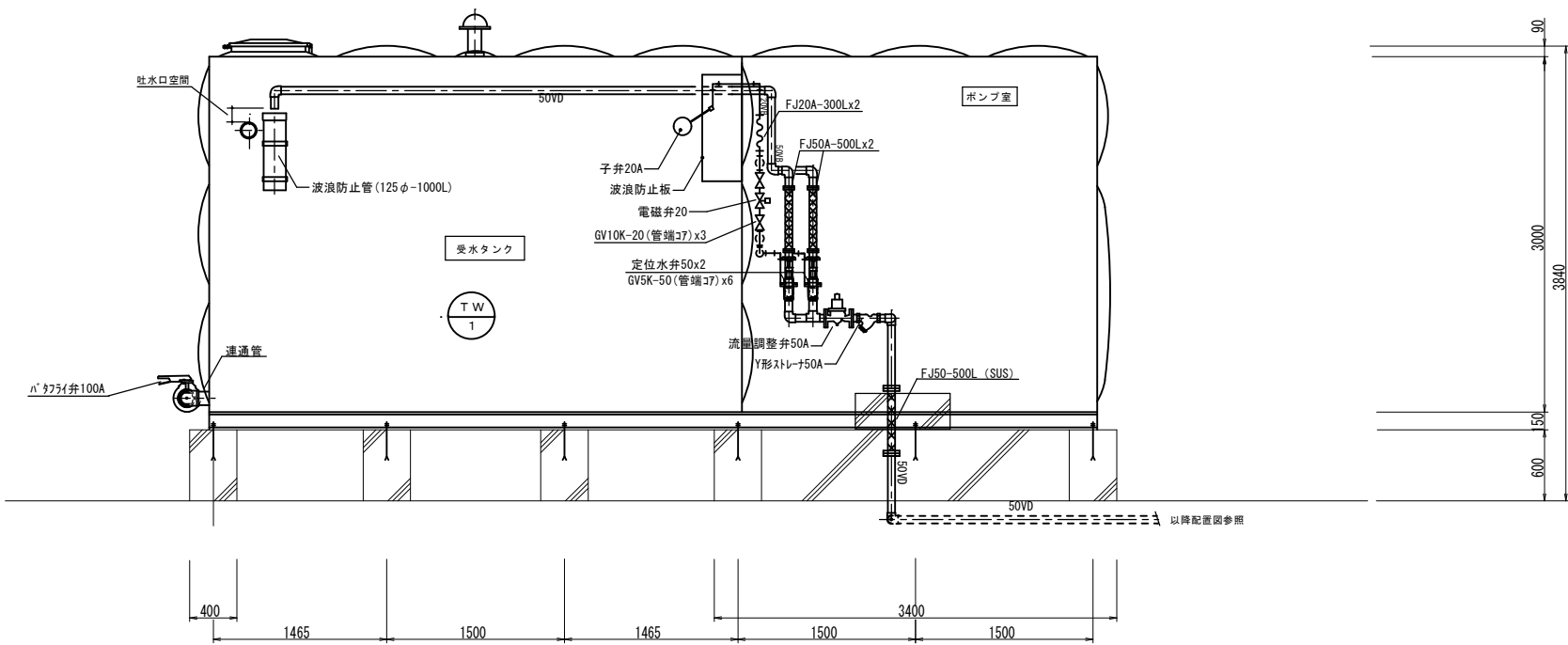
| 記 号 | 名 称 | 仕 様 | 数 量 | 備 考 |
|---------|----------------|---|-----|-------------|
| TW 1 | ポンプ室付 受水タンク | SUS製パネル溶接タンク（単板）、K=1.0G 有効水量 40m3（呼称容量：54m3）4000×4500×3000H | 1 | コンクリート基礎 |
| | | SUS製パネル溶接タンク（単板）、K=1.0G ポンプ室 4000×3000×3000H | | H=600（建築工事） |
| | | 防眩仕上仕様（側面・上面） | | 現場組立渡し |
| | | 附属品：鉄骨架台（垂鉛メッキ平架台）、防波防止板×2、通気管×2（防虫網付、防鳥カバー付） | | 組立用足場（本工事） |
| | | 電極取付座（防波管付。取付位置は打合せ後決定する事）電極カバー共×4、点検蓋600φ×2（鍵付）、アルミ開戸 | | |
| | | 二重蓋、内外部はしご×2、支持架台（SUS）ボルトナット、その他附属品一式 | | |
| | | 材質：天井板 SUS329J4L、側板：SUS329J4L（SUS444）、底板SUS444、国土交通省仕様 | | |
| PU 1 | 小型給水ポンプユニット | 自動交互運転 ・推定末端圧一定・（赤水対策品）インバーター方式（国土交通省仕様）BL認定品 | 1 | コンクリート基礎 |
| | | 吸込口径50φ×吐出口径50φ×266L/min×69m×7.5KW×2 3φ200V | | H=300（建築工事） |
| | | 制御盤、CV、吐出側スリース弁、圧力センサ、吐出し集合管、呼水栓、エントランス、相フランジ、ストレーナー125φ×2 | | |
| | | 受水槽電極棒及び配管配線一式別途工事とする。 | | |
| | | 制御盤－フロートスイッチ（受水槽満減水警報）、漏電遮断器、外部警報接点、受水槽用流入電磁弁切替用、国土交通省仕様 | | |

注記：本工事完了時の有効水量33m3で調整すること。



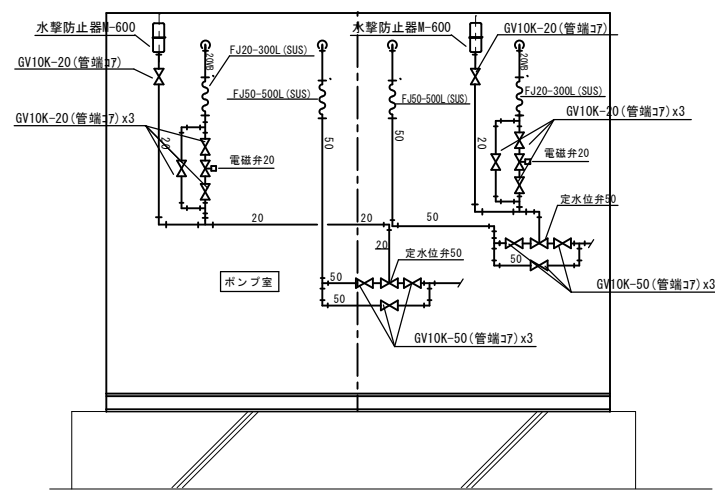
受水槽平面詳細図 S=1:60 (A3)

- ※ 吐水口空間を確保のこと。
- ※ 注記なきポンプ室内の仕切弁（GV）は10K及びコア内臓型とすること。
- ※ 電極棒（電気工事）長さは、電気工事受注者と協議すること。

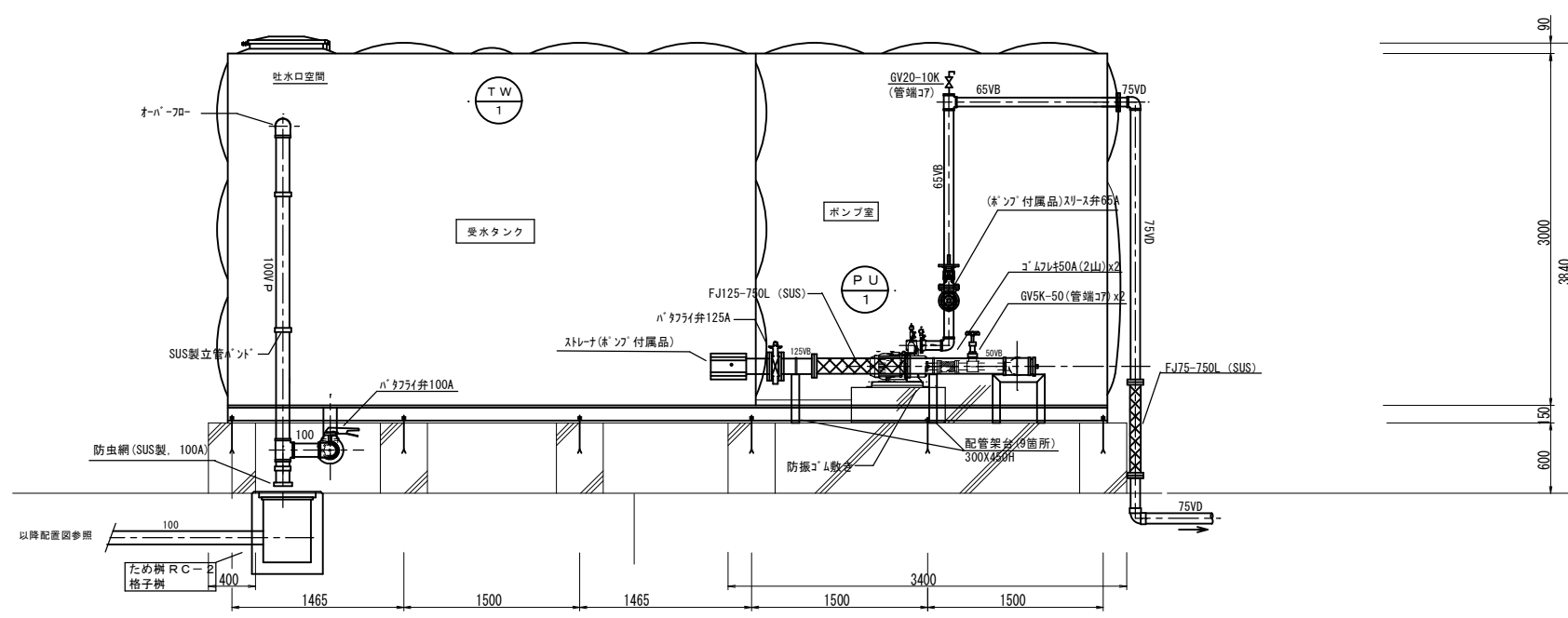


B-B断面詳細図(1) S=1:60(A3)

※ 吐水口空間を確保のこと。
※ 注記なきポンプ室内の仕切弁(GV)は10K及びコア内臓型とすること。



A-A断面詳細図(1) S=1:60(A3)



B-B断面詳細図(1) S=1:60(A3)